



殖產局出版第七四號

茶樹栽培試驗場第四報告(大正二年)

臺灣總督府殖產局

茶樹栽培試験場第四報告正誤表

頁	行	誤	正
二〇	一	然トモハ	然レトモ
二三	一	夏茶ハ	夏茶
二四	四	開始セルモノハ	開始セルモノ
九七	三	一〇〇パーセントニ及ブ	一〇〇パーセントニ及ブ
四六	四	ニアル茶芽伸長度合調査表ハ一四四ト一四五頁ノ間ニ	
四七	七	入ルモノナリ	

617

30

大正二年中當場事業報告別冊ノ通り取調候條謹テ
供賞覽候也

大正三年四月

安平鎮茶樹栽培試驗場
主任技師 山田秀雄

臺灣總督伯爵佐久間左馬太殿

内閣文庫
八六三〇八号
五冊
和書



目次

第一章 總說

第一節 經費

第二節 建物

第三節 面積及權數

第四節 氣候

第二章 事業概要

第一節 本年各茶期ニ於ケル茶樹發育狀況

第二節 總收穫量及各季別摘採表

第三章 試驗事項

第一節 種類試驗

第二節 樹齡試驗

第三節 甘露間作比較試驗

第四節 人耕對牛耕比較試驗

- 第五節 製茶試驗
- 第六節 烏龍茶ト包種茶トノ得失試驗
- 第七節 泥土加用試驗
- 第八節 大豆粕滿俺混用試驗
- 第九節 剪枝臺刈比較試驗
- 第十節 茶園表土燻燒試驗
- 第十一節 石灰効果試驗
- 第十二節 硫酸銨加用試驗
- 第十三節 燻炭肥料試驗
- 第十四節 アルピシヤ間作試驗
- 第十五節 相思樹間作試驗
- 第十六節 雜物性窒素肥料種類試驗
- 第十七節 智利硝石單用試驗
- 第十八節 肥料溶解試驗
- 第十九節 樹高幅ト收量トノ對照試驗

三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二 一三 一四 一五 一六 一七 一八 一九 二〇 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 三〇 三一 三二 三三 三四 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九七 九八 九九 一〇〇

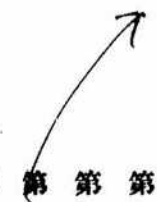
- 第二十節 黃枝花收穫量
- 第二十一節 機械試驗
- 第二十二節 茶葉水分試驗(灰分ヲ含ム)
- 第二十三節 大豆粕貯藏試驗
- 第二十四節 土地改良方法ニ就キテ
- 第二十五節 茶園改良經濟試驗
- 第二十六節 磷酸加里肥料種類試驗

五 六 七 八 九 一〇 一一 一二 一三 一四 一五 一六 一七 一八 一九 二〇 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 三〇 三一 三二 三三 三四 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九七 九八 九九 一〇〇

第四章 調查事項

- 第一節 植付時期及方法
- 第二節 移植後ノ經過
- 第三節 深耕費用調査
- 第四節 施肥費用調査
- 第五節 施肥無肥ノ對照
- 第六節 製茶歩止ノ調査
- 第七節 茶芽伸長度合調査

一 二 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二 一三 一四 一五 一六 一七 一八 一九 二〇 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 三〇 三一 三二 三三 三四 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九七 九八 九九 一〇〇



本年度ノ經費ハ一萬二千五百六十六圓トス
 第一節 經費
 第二節 建物
 第三節 面積及機數

第一章 總說

第一節 經費

本年度ノ經費ハ一萬二千五百六十六圓トス

第二節 建物

總建物坪數百四坪九合七勺

名稱	坪數
事務所	五・二五
製造場(再火)	三六・〇七
分庫(木炭)	九・〇〇
倉庫(木炭)	一三・四〇
土人宿舍	一七・〇〇
便所及浴室	一七・七五
肥料小屋	二・〇〇
計	一〇四・九七

第三節 面積及機數

總面積ハ昨年ニ等シキモ其内譯ニ變動ヲ生シ又茶機數増加セシヲ以テ左ニ細別スヘシ

月別	室内温度		日	地		地中温度
	午前六時	正午		午後五時	午前六時	
一月	11.8	12.7	11.7	11.8	12.8	11.8
二月	11.7	12.6	11.6	11.7	12.7	11.7
三月	11.6	12.5	11.5	11.6	12.6	11.6
四月	11.5	12.4	11.4	11.5	12.5	11.5
五月	11.4	12.3	11.3	11.4	12.4	11.4
六月	11.3	12.2	11.2	11.3	12.3	11.3
七月	11.2	12.1	11.1	11.2	12.2	11.2
八月	11.1	12.0	11.0	11.1	12.1	11.1
九月	11.0	11.9	10.9	11.0	12.0	11.0
十月	10.9	11.8	10.8	10.9	11.9	10.9
十一月	10.8	11.7	10.7	10.8	11.8	10.8
十二月	10.7	11.6	10.6	10.7	11.7	10.7

右室内温度ヲ各月六期ニ分示スレハ左ノ如シ

期別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
一期	11.5	11.6	11.7	11.8	11.9	12.0	12.1	12.2	12.3	12.4	12.5	12.6
二期	11.6	11.7	11.8	11.9	12.0	12.1	12.2	12.3	12.4	12.5	12.6	12.7
三期	11.7	11.8	11.9	12.0	12.1	12.2	12.3	12.4	12.5	12.6	12.7	12.8

期別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
四期	11.8	11.9	12.0	12.1	12.2	12.3	12.4	12.5	12.6	12.7	12.8	12.9
五期	11.9	12.0	12.1	12.2	12.3	12.4	12.5	12.6	12.7	12.8	12.9	13.0
六期	12.0	12.1	12.2	12.3	12.4	12.5	12.6	12.7	12.8	12.9	13.0	13.1

右表ニ示シカク如ク一、六、八、九ノ各月ハ前年ニ比シ約一度ノ高温ナリシモ二、三、四、五、十一、十二ノ各月ハ却ツテ反對ノ現象ヲ呈セリ而シテ又年平均ニアリテハ前年ノ二十二度半ニ對シ本年モ同二十二度半ニシテ毫モ差違ナシ

二、雨量

本年ノ總雨量ハ二千八百八十五耗ニシテ前年ノ三千四百十九耗ニ比シ一千二百三十三耗八ノ減ナリト雖モ之ヲ一昨年ノ二千九百三十五耗一ニ比較スレハ尙ホ二百五十耗一多シ更ニ之ヲ四十二年ノ一千五百九十一耗六ニ較フレハ五百九十三耗六ヲ増セリ左ニ明治四十三年以降ノ月別量ヲ對照スヘシ

年別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
四十三年	142.9	94.2	111.6	129.2	51.6							
四十四年	187.9	50.4	133.6	82.6	339.5							
大正元年	297.6	94.7	315.0	361.0	252.2							
大正二年	108.3	143.8	367.5	119.2	297.2							

月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
晴	107	110	115	118	120	122	125	128	130	132	135	138	1400
曇	10	12	15	18	20	22	25	28	30	32	35	38	350
雨	10	12	15	18	20	22	25	28	30	32	35	38	350
計	127	134	145	156	162	170	180	186	190	199	205	214	2100

右表ニヨレハ既往三年ハ八、九月、本年ハ七月ニ最モ多カリシヲ認ム
更ニ本年雨量ノ各月期別量ヲ示セハ次ノ如シ

月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
晴	107	110	115	118	120	122	125	128	130	132	135	138	1400
曇	10	12	15	18	20	22	25	28	30	32	35	38	350
雨	10	12	15	18	20	22	25	28	30	32	35	38	350
計	127	134	145	156	162	170	180	186	190	199	205	214	2100

又各月ノ晴雨日數ヲ既往三年ト比較對照スレハ次ノ如シ

年別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
四十三	107	110	115	118	120	122	125	128	130	132	135	138	1400
四十四	105	108	112	115	118	120	122	125	128	130	132	135	1380
大正元	103	106	110	113	116	118	120	122	125	128	130	132	1350
大正二	101	104	108	111	114	116	118	120	122	125	128	130	1330

右表ノ如ク本年一月ノ天候ハ前年ニ比スレハ雨天減シ晴天日數増加セルモ四十三、四兩年ニ比較スレハ大差ナシ然ルニ二月、三月、四月ハ既往三年ニ比シ何レモ晴天日數減少シ雨天日數ノ増加セルヲ認ム又五月、八月、十月、十一月ノ各月ハ既往ニ比シ天候一般ニ良好ニシテ晴天日數ヲ増シ雨天日數減セルモ六月、七月、十二月ハ之ニ反シ晴曇日數ヲ減シ雨天日數ハ著シク増加セルヲ認ム

第二章 事業概況

第一節 本年各茶季ニ於ケル茶樹發育狀況

本年ハ一月以降春茶摘採開始前ニ到ルノ間ハ一般ニ降雨多ク且ツ溫度低カリキ即チ一月以降三月迄ノ天候ヲ見ルニ晴天十二日曇天十六日雨天六十二日シテ夜間又時々降雨アリテ總雨量六百十九耗六ニ達セリ之ヲ昨年ト比較セハ曇天六日ヲ減シ晴天三日ヲ増加シ雨量最モ多カリシ前年ヨリ少キコト僅カニ八十七耗七ナリ而シテ又之ヲ一昨年ニ比スレハ晴天十一日曇天十日ヲ減シ雨天十九日雨量二百四十七耗七ノ多キニ及ヘリ是ニ依リテ見ルモ本年本期間ノ降雨如何ニ多カリシカヲ認メ得ヘシ三月以降摘採開始ニ到ル間亦雨天多ク加フルニ氣溫常ニ低ク即チ一月以降春茶摘採開始ニ至ル間ノ平均溫度十七度六ニシテ前年ヨリ低キコト四分、一月ノ外ハ各月低溫ナリシ爲メ茶芽ノ發育ヲ阻害シ延テ摘採期ヲ晩カラシメタリ而シテ中途少量ノ摘採アリシモ昨年ヨリ遅ルハコト一週間ニシテ四月二十五日ニ春茶ノ摘採ヲ開始セリ其後ハ夜間一二回ノ降雨アリシモ却ツテ茶芽ノ發育ヲ促進セリ越テ五月ニ入りテハ天候益良好トナリ僅カニ一日ノ曇天アリシノミニテ晴天連續シ爲メ製茶ノ品質ヲ著シク向上シ五月十一日ニ春茶ノ終了ヲ告ケタリ此間ノ摘採日數十八日トス要スルニ本年ノ春茶ハ摘採前ニアリテハ氣候不順ノ爲メ茶芽ノ發育充分ナラス摘採期多少遅クシテモ摘採開始以後ハ

天候ノ好調ヲ得テ品質良好ナリキ

夏茶ハ五月十九日ニ始マリ八月十四日ニ終リ摘採日數三十八日ナリ此間晴天四十六日曇天十二日雨天三十六日ニシテ平年ヨリ晴天日數ヲ減シ雨天日數著シク増加シ本期間ノ全雨量實ニ八百九十六耗三ニ達シ降雨多カリシ前年ヨリモ尙ホ二十八耗九ヲ増加シ一昨年ヨリ多キコト實ニ六百五十九耗六ニ及ヘリ以上ノ如ク夏茶ハ開始以來天候ノ順調ヲ缺キ元來本期ハ雨天少クシテ年中最も優品ヲ產出スヘキ時期ナルニ拘ラス平年ニ比シ雨天雨量共ニ多カリシヲ以テ製茶ノ品質良好ナラサリキ殊ニ六月初旬ハ最優品ヲ產スヘキ時期ナルニ連日多少ノ降雨アリシヲ以テ遂ニ優品ヲ產スルニ由ナカリキ

秋茶ハ八月二十三日ニ始マリ十月二十二日ニ終リ摘採日數二十六日ナリ此間ノ天候ハ晴天日數三十七日曇天六日雨天十八日ニシテ九月ニ數度ノ降雨アリシノミ晴天甚タ多カリキ爲メニ茶芽ノ發育ハ幾分緩漫ナリシモ製茶ノ品質ハ著シク良好ナリキ

冬茶ハ十月二十九、三十ノ兩日摘採セリ秋茶終了後晴天連續セシモ元來本期ハ收量少ク且ツ品質不良ナルヲ以テ別段ノ影響ヲ及ホスコトナカリキ要スルニ本年ノ茶期ハ夏茶ヲ除ク外他ノ三季ハ概シテ良好ナリシト謂フヘシ

第二節 總收量及各季別明細表

本年ノ供試茶總數ハ二萬五千二百四十六擔ナリト雖モ内三千七百五十九擔ハ開墾地三四年生ナルカ故ニ専ラ試驗ニ供セシハ二萬一千四百八十七擔ノ古欄ナリトス今是等ヨリ收穫セシ總量並ニ各茶期別明細表ヲ示セハ次ノ如シ但シ五年生以下ヲ除キタル古欄ノ分ノミヲ示ス

一、總收穫生葉量一千四百四十四貫九百十斤

内譯

季別	摘採茶總數	收穫茶葉數	一擔當平均收穫量	總收ニ對スル割	同上大正元年ノ
春茶	11,100	1,100	100	100	100
夏茶	11,100	1,100	100	100	100
秋茶	11,100	1,100	100	100	100
冬茶	11,100	1,100	100	100	100
計	44,400	4,400	100	100	100

以上ノ如クニシテ今各季ノ收穫割合ヲ昨年ニ比較スレハ春茶四分夏茶四分四厘ヲ増加シ秋茶八分七厘冬茶三分三厘ヲ減セリ是レ天候ノ關係ニヨルヘキモノツハ包種區ヲ例年各季共包種茶トシテ製出セシモ本年ハ夏茶ノ全部及秋茶ノ一部ヲ烏龍茶ニ製出セシニモ基因スヘシ

各期別明細表

茶季別	收穫茶葉量	拂下茶葉量	供試茶種別	供試茶葉量	同上製茶量	同上製茶歩留
春茶	KOTIKO	30000	包種	11,100	11,100	100
夏茶	BAKCO	9000	烏龍	11,100	11,100	100
秋茶	BAKCO	9000	烏龍	11,100	11,100	100
冬茶	BAKCO	9000	烏龍	11,100	11,100	100
包種茶計	11,100	11,100	包種	11,100	11,100	100
烏龍茶計	11,100	11,100	烏龍	11,100	11,100	100
紅茶計	11,100	11,100	紅茶	11,100	11,100	100
總計	44,400	44,400		44,400	44,400	100

右表ノ如クニシテ今製茶歩止リテ前年ト比較スレハ春茶二厘ヲ減シ夏茶一厘秋茶一分冬茶六分一厘ノ増加ヲ示セリ而シテ秋茶冬茶ノ著シク増加セルハ天候ノ好調ナリシニヨルナラン

第三章 試驗事項

第一節 種類試驗

目的 在來各種並ニ支那印度種等ヲ比較栽培シテ其ノ優良ナル種類ヲ見出サントス

方法 各區ノ面積ヲ普通一畝宛トシ每區三百樹ヲ植付ケシモノナリ申耕ハ除草ヲ兼ネテ春茶採探前同摘採後夏茶採探後及冬季(深耕)ノ一箇年四回、傾斜地ナルカ故ニ人耕即チ鋤ヲ以テ行ヘリ而シテ各區トモ肥料ヲ施サス

區名	一畝宛施肥量	摘探期間	回数	一萬樹當季別收葉量				季別製茶歩合				
				春茶	夏茶	秋茶	冬茶	計	春	夏	秋	冬
青心	無肥	自四月廿九日	一	1104.5	884.3	693.8	2682.6	22.8	22.8	22.8	22.8	22.8
白毛猴	同	自四月廿九日	一	1082.4	1026.8	693.8	2803.0	22.8	22.8	22.8	22.8	22.8
白心	同	自四月廿九日	一	1115.1	1082.4	1115.1	3312.6	22.8	22.8	22.8	22.8	22.8
紅心	同	自四月廿九日	一	1115.1	1115.1	1115.1	3345.3	22.8	22.8	22.8	22.8	22.8
大有	同	自四月廿九日	一	1115.1	1115.1	1115.1	3345.3	22.8	22.8	22.8	22.8	22.8
大右	同	自四月廿九日	一	1115.1	1115.1	1115.1	3345.3	22.8	22.8	22.8	22.8	22.8
枝蘭	同	自四月廿九日	一	1115.1	1115.1	1115.1	3345.3	22.8	22.8	22.8	22.8	22.8
黃柑	同	自四月廿九日	一	1115.1	1115.1	1115.1	3345.3	22.8	22.8	22.8	22.8	22.8
宇治	同	自四月廿九日	一	1115.1	1115.1	1115.1	3345.3	22.8	22.8	22.8	22.8	22.8
香園	同	自四月廿九日	一	1115.1	1115.1	1115.1	3345.3	22.8	22.8	22.8	22.8	22.8
漢口	同	自四月廿九日	一	1115.1	1115.1	1115.1	3345.3	22.8	22.8	22.8	22.8	22.8
福州	同	自四月廿九日	一	1115.1	1115.1	1115.1	3345.3	22.8	22.8	22.8	22.8	22.8

青心、白心、白毛猴、紅心、大有、枝蘭、黃柑、福州ノ八種ハ三年生及四年生ニシテ宇治、香園、埔心、印度漢口ノ五種ハ三年生ナリ
 摘探期ノ最早キハ紅心種ノ四月四日ニシテ大有、宇治、香園、埔心、印度、漢口ノ四月十四日之二次キ青心種ノ四月三十日最晩カリキ摘探回数ノ最多カリシハ紅心、大有、枝蘭、黃柑ノ十七回ニシテ香園、福州ノ十六回之ニ次キ宇治、埔心、漢口ノ十五回最少カリキ尙印度種ハ苗木ヲ得ル爲メニ屢條法ヲ施セシヲ以テ五月十九日後ハ摘採セス又三年生ナル宇治、香園、埔心、漢口ノ四種ハ秋季ニ於テ他區ニ比シ一回丈ケ早ク摘採ヲ中止セリ

收葉量ハ黃柑種ノ五百八十九貫九百三十一匁最多ク枝蘭種ノ五百七十五貫八百三十九匁白心種ノ五百三十五貫九百八十五匁其次ニ位シ紅心、漢口、福州、大有等順次之ニ次キ宇治種ノ二百十四貫九百六十六匁最少カリキ製茶歩合ノ最多キハ青心種ノ二割八分五厘ニシテ白毛猴種ノ二割七分七厘福州種ノ二割六分五厘宇治種ノ二割六分四厘等順次之ニ次キ其ノ最少カリシハ紅心種ノ二割五分一厘ナリトス而シテ收量多キモノハ概シテ製茶歩合少キヲ示セリ蓋シテ收量多キモノハ樹ノ勢力盛ニシテ葉穿ノ水分多キニヨルヘシ
 今前二箇年ノ收量ニ對照スレハ左ノ如シ

區名	大正二年	大正元年	四十四年	大正元年ニ對スル増減	備考
青心	112,311	111,100	107,000	減	
白心	110,500	111,100	111,000	減	
紅心	110,500	111,100	111,000	減	
太心	110,500	111,100	111,000	減	
枝心	110,500	111,100	111,000	減	
字心	110,500	111,100	111,000	減	
香心	110,500	111,100	111,000	減	
埔心	110,500	111,100	111,000	減	
漢心	110,500	111,100	111,000	減	
福州	110,500	111,100	111,000	減	
計	110,500	111,100	111,000	減	四十四年摘採ナシ

前年ニ對スル收量著シク増加セルハ三年生ナル字治、香園、埔心、漢口ノ四種ニシテ何レモ二百貫以上ノ增收ヲ示シ就中漢口種ノ三百二十七貫六百九十二匁冠タリ四年生ノモノニアリテハ紅心種ノ百七十二貫六百三十七匁大有種ノ百六十九貫六百六十三匁黃柑種ノ百三十一貫九百七十七匁等之ニ次キ青心種白毛猴種ニ於テハ却ツテ減收ヲ示セリ之レ四十四年ニ移植セシ小ナキ三年生ノモノ加ハリシ爲メ一萬匁當リハ減量ヲ示セルモノナリ尙當場ニ於ケル製茶品質鑑定成績左ノ如シ

(審査定點形狀三〇、色澤二〇、水色二〇、香味三〇計一〇〇)

區名	春茶			夏茶			秋茶			平均		
	形狀	色澤	香味	形狀	色澤	香味	形狀	色澤	香味	形狀	色澤	香味
青心	4.0	4.0	1.0	3.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0
白心	4.0	4.0	1.0	3.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0
紅心	4.0	4.0	1.0	3.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0
太心	4.0	4.0	1.0	3.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0
枝心	4.0	4.0	1.0	3.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0
字心	4.0	4.0	1.0	3.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0
香心	4.0	4.0	1.0	3.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0
埔心	4.0	4.0	1.0	3.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0
漢心	4.0	4.0	1.0	3.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0
福州	4.0	4.0	1.0	3.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0
計	4.0	4.0	1.0	3.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0

備考審査點數ナキハ生葉量少カリシ爲メ各別ニ製茶シ得サリシモノトス春茶ニ於テハ白毛猴種最高點ヲ示シ大有種ノ五十六點枝蘭種ノ五十五點等之ニ次キ青心種ノ四十二點最少カリキ青心ノ得點少キハ形狀惡シカリシニ起因ス次ニ夏茶ニ於テハ白心種ノ五十七點六分最優リ以下殆ント大差ナク只字治種ノ四十九點二分最低ク秋茶ハ黃柑種ノ五十一點六分最高ハ福州種ノ四十三點最劣レリ總平均

ニ於テハ收葉量少クシテ各別ニ製茶スルコト能ハサリシ爲メ之ヲ表シ得サルモノアリト雖モ平均ヲ得シモノノミニ付キ比較セハ白心種ノ五十三點六分最高點ヲ示シ枝葉黃柑、漢口ノ五十二點四分之ニ次キ最低點數ヲ示セルハ福州、埔心兩種ノ四十八點九分ナリキ然レトモ樹齡何レモ若キヲ以テ未ダ一概ニ論スル能ハス

第二節 樹齡試驗

目的 樹齡ニ依レル收量及品質ノ差違ヲ明カニセントス

方法 種類ハ青心種ニシテ毎年一區宛植付クルコト、シ中耕除草ハ一箇年四回行ヘリ

收穫成績

區名	一區當 施肥量	摘採期間	回數	季別一萬株當收葉量				季別製茶歩合							
				春茶	夏茶	秋茶	冬茶	計	春	夏	秋	冬	平均		
第一區	無肥	自四月三十日 至十月十三日	二	八七〇	一一五〇	一四二〇	一七〇〇	三二〇〇	二六〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇
第二區	無肥	自四月三十日 至十月十三日	二	八七〇	一一五〇	一四二〇	一七〇〇	三二〇〇	二六〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇
第三區	無肥	自十月六日 至十月十三日	二	八七〇	一一五〇	一四二〇	一七〇〇	三二〇〇	二六〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇

備考 第一區ハ四年生、第二區ハ三年生、第三區ハ二年生ナリ

二年生ナル第三區ハ十月六日一回ノ摘採ヲナシ、ニ止マリ三年生ナル第二區ハ二百二十四貫六百二

十三多ノ收量ニシテ二年生ニ比シ二百十四貫九百四十六多ノ增收ヲ示シ四年生ナル第一區ハ二百五十六貫九百四十六多ノ收量ニシテ二年生ニ比シ二百四十七貫二百六十八多三年生ニ比シ三十二貫三百二十多ノ增收ナリ尙製品ニ及ホス影響ハ未ダ不明トス

第三節 甘藷間作比較試驗

目的 茶樹ノ間作トシテ甘藷ヲ栽培スル時ハ如何ナル影響ヲ及ホスヘキヤヲ比較査定セントスルニアリ

方法 中耕除草一箇年四回肥料一擔當窒素二多磷酸一多五加里一多ノ割ニ十二月十四日施用セリ收穫成績左ノ如シ

區名	一區當 施肥量	摘採期間	回數	季別一萬株當收葉量				季別製茶歩合						
				春茶	夏茶	秋茶	冬茶	計	春	夏	秋	冬	平均	
大豆種 無肥	大豆種 無肥	自四月廿二日 至十月廿九日	二	一〇〇〇	一三〇〇	一六〇〇	一九〇〇	三三〇〇	二七〇〇	二三〇〇	二三〇〇	二三〇〇	二三〇〇	二三〇〇
過燻石灰 無肥	過燻石灰 無肥	自四月廿二日 至十月廿九日	二	一〇〇〇	一三〇〇	一六〇〇	一九〇〇	三三〇〇	二七〇〇	二三〇〇	二三〇〇	二三〇〇	二三〇〇	二三〇〇
同	同	同	同	一〇〇〇	一三〇〇	一六〇〇	一九〇〇	三三〇〇	二七〇〇	二三〇〇	二三〇〇	二三〇〇	二三〇〇	二三〇〇

收葉量ハ施肥間作區最多クシテ標準タル無肥無間作區ニ比シ二百二十二貫二百〇八多(三割一分八厘)ノ增收ヲ示シ無肥間作區ハ無肥無間作區ニ比シ五十六貫五百十六多(八分三厘)ノ減收ニシテ施

肥間作區ハ無肥間作區ニ比シ二百七十八貫七百二十四匁(四割三分四厘)ノ增收ナリ
 之レニ反シ製茶歩合ハ無肥間作區最優リ無肥無間作區ニ比シ九厘施肥間作區ニ比シ一分七厘ノ好歩
 合ヲ示セリ前年ト收量ヲ比較對照スレハ左ノ如シ

區名	大正二年	大正元年	四十四年	四十三年
施肥間作區	九二〇・七六二	九六六・三八一	一〇三三・九〇〇	八三一・七一
無肥無間作區	六九八・五五五	八一五・三五〇	八二二・九〇〇	七二三・七八三
無肥間作區	六四二・〇三八	七二三・六一五	六八六・四〇〇	六〇五・六三九

右對照表ニヨレハ毎年施肥間作區收量最多クシテ無肥無間作區之ニ次キ無肥間作區最少シ之ニヨリ
 ヲ見レハ間作ハ多少(間作物ノ成育充分ナラサリシモ)收量ニ影響スルヲ知ルヘシ尙施肥ノ場合ニ於
 ケル間作ノ影響ハ改メテ報告スヘシ尙右對照表ニヨレハ大正元年及本年何レモ四十四年ニ比シ一般
 ニ減收ヲ示セリ殊ニ本年ハ大正元年ニ比較スルモ無肥無間作區ハ百十六貫七百九十六匁無肥間作區
 ハ八十一貫五百七十七匁ノ大減收ヲ示セリ尙施肥間作區モ四十五貫六百十九匁ノ減收ナリト雖モ是
 レ兩年ハ一纏當施肥量大豆粕三八匁過燐酸石灰一一、七匁ナリシニ本年ハ大豆粕三
 三、四匁過燐酸石灰七、五匁硫酸加里二、〇匁ノ割ニシテ大豆粕、過燐酸石灰ノ量少カリシニモ起因ス
 ヘシ更ニ各區ノ減收原因ハ春茶摘採前ニ於ケル寒冷ナル氣候ハ著シク摘採期ヲ晚レシメ尙秋期ニ於
 テ數十日間早寒打續キシ等ヒアルカ如シ而シテ施肥區ニ於テ無肥區ニ於ケルカ如キ大減收ヲ示サ、
 ルハ四十二年以降ノ施肥ニヨリ樹勢旺盛トナリ且ツ茶權長大トナルルニヨルルヘシ
 尙製品ニ及ホス影響ヲ見ルニ

テ數十日間早寒打續キシ等ヒアルカ如シ而シテ施肥區ニ於テ無肥區ニ於ケルカ如キ大減收ヲ示サ、
 ルハ四十二年以降ノ施肥ニヨリ樹勢旺盛トナリ且ツ茶權長大トナルルニヨルルヘシ
 尙製品ニ及ホス影響ヲ見ルニ

項目	定點	施肥間作區			無肥無間作區			無肥間作區					
		春	夏	秋	平均	春	夏	秋	平均	春	夏	秋	平均
形狀	MC	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4
色澤	MC	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0
水色	MC	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0
香味	MC	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0
計	100	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

春夏秋平均ニ於テハ施肥間作區最優良ニシテ五十六點ヲ示シ無肥間作區ノ五十五點六分之二次キ無
 肥無間作區ノ五十四點六分最劣レリ即チ間作ハ品質ニハ悪シキ影響ヲ及ボサス却ツテ良好ナル成績
 ヲ示セリ
 間作用甘藷ハ五月、十八、九ノ兩日茶樹ノ畦間ヲ耕鋤シ畦ヲ作り凡六七寸ヲ距テ、植付タリ植付前晝
 灣大蟋蟀ノ驅除ヲ行ヒシカ植付後ハ益々附近ヨリ來集シテ喰害ヲ逞シウセシヲ以テ石油ヲ用ヒテ時

今中耕賃銀ニ就テ見ルニ牛耕區ハ人耕區ニ比シ一萬圓當二圓九十錢有利ニシテ收量ニ於テ百六十九貫五百六十七石ノ大増收ヲ示シ製茶歩合ニ於テモ亦タ八厘優レルヲ見ル
尙ホ前年ノ收量ト對照セハ左ノ如シ

區 名	大正元年	大正元年	四十三年
牛耕區	九三三・六四九	八二五・九五三	九一〇・二二三
人耕區	七六五・〇八二	八二三・二三〇	一、九〇五・〇六八
			七五九・七二三
			九三一・八九九

大正元年度ト比較スレハ人耕區ハ六十貫百四十八石ノ減收キシテ牛耕區ハ却ツテ百〇六貫六百九十六石ノ増收ヲ示セリ
繼ツテ前年ノ收量ヲ見ルニ四十五・四十四ノ兩年ニ於テハ人耕區ハ牛耕區ニ比シ増收ヲ示シタリシニ大正元年ニ至リテハ二貫七百二十三石ノ減收トナリ本年ニ及ヒテハ百六十九貫五百六十七石(割二分一厘)ノ大減收ヲ示セリ
人耕區ノ劣レル原因ハ前年來ノ報告書ニモアリシカ如ク耕勸淺キニ傾キ易ク且ツ固結シテ土壤ノ理學的性狀ヲ露シオラシムルヲ知シ
製茶ノ當場ニ於ケル審査鑑定成績ハ左ノ如シ

項 目	定 點	牛 耕 區			人 耕 區			
		春	夏	秋	平均	春	夏	秋
形 狀	三〇	一八・三	一七・四	一四・六	一六・八	一六・七	一六・三	一四・三
色 澤	二〇	一一・三	一一・三	一一・四	一一・〇	一一・六	一一・六	一一・八
水 色	二〇	一一・四	一一・三	一一・二	一一・八	一一・〇	一一・八	一一・九
香 味	三〇	一九・七	一六・一	一五・〇	一五・九	一七・七	一四・九	一五・〇
計	一〇〇	六二・三	五七・一	五〇・一	五六・五	五八・〇	五五・一	五〇・二

大稻埕ニ於ケル評價ハ左ノ如シ

區 名	春 茶	夏 茶	秋 茶	平均	備 考
牛耕區	二七〇〇〇	二七・一〇〇	一四・五〇〇	二三・九一〇	平均價格ハ各茶期別ノ製茶歩合ヨリ算出セリ以下評價ニ於ケル平均ハ
人耕區	二六〇〇〇	二五・七五〇	一五・五〇〇	二三・一三〇	

當場審査鑑定成績ニ於テ人耕區ハ各茶期別平均中水色ニ於テ○、一秋茶平均計ニ於テ一分優レルノミ他ハ皆牛耕區高點ニシテ總平均計ニ於テ二點牛耕區ニ比シ劣レリ
評價ニ於テモ人耕區ハ秋茶ニ於テ一圓優ルノミニシテ春茶ニ於テハ一圓、夏茶ニ於テハ一圓三十五錢劣リ平均價格ニ於テ七十八錢低下セリ
即牛耕ハ人耕ニ比シ中耕賃銀低廉ナルノミナラス收量品質何レモ優レルヲ知ルヘシ

第五節 製茶試驗

目的 當場ニ於テ如何ナル程度ノ茶ヲ産シ得ヘキカ又タ其ノ製茶ト普通製茶トノ得失ヲ知ラントスルニアリ

方法 中耕除草ハ一箇年四回ニシテ施肥區ニ於テハ一畝ニ對シ窒素二、〇、五、五加里一、〇、〇、〇ヲ施スコト、シ十二月十六日之ヲ施セリ本試驗ハ四十五年ヨリ開始セルセノニシテ摘採ニ注意シテ成ル可ク若芽ヲ摘採シ且ツ古葉硬化葉等混セサル様ニセリ其ノ收穫成績ハ

區名	第一收穫期	摘採期間	回数	季別一畝當收穫量				季別製茶歩合							
				春	夏	秋	冬	計	春	夏	秋	冬			
無肥區	大豆粕 過燻石灰 硫酸加	自四月廿二日 至十月廿日	三	11.5	11.5	11.5	34.5	11.5	11.5	11.5	34.5	11.5	11.5	11.5	34.5
施肥區			三	11.5	11.5	11.5	34.5	11.5	11.5	11.5	34.5	11.5	11.5	11.5	34.5

右表ニヨレハ施肥區ハ無肥區ニ比シ却ツテ三十八貫七百六十二匁ノ減收ヲ示セリ之レ樹齡高キ爲メ肥料ノ效果顯著ナラサルト施肥區ニ於ケル茶樹ノ無肥區ニ比シ大小不揃ナルニ起因スルカ如シ尙ホ前年ト收量ヲ對照スレハ左ノ如シ

區名	大正二年	大正元年	四十四年	備
無肥區	55.5	55.5	55.5	44年ハ普通ニ摘採セルノナリ相恩樹間作
施肥區	55.5	55.5	55.5	

施肥區	相恩樹間作區
無肥區	55.5
施肥區	55.5

無肥區ニ於テハ大正元年ニ比シ百十四貫九百七十一匁施肥區ニ於テモ百五十三貫六百六十三匁本年ノ大減收ヲ示セリ又普通ニ摘採セル相恩樹間作區モ七十七貫二百二十八匁ノ減收ヲ示セルヲ見レハ氣候ヨリ來レル一般減收ト樹齡高キ爲メ年々稍衰弱ノ傾向アルニヨルカ如シ

項目	定點	無肥區			施肥區			普通無肥區			普通施肥區		
		春	夏	平均	春	夏	平均	春	夏	平均	春	夏	平均
形	NO.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
色	NO.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
水色	NO.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
香味	NO.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

大稻埕茶館ニ於ケル平均評價ハ左ノ如シ

區名	春茶		夏茶		秋茶		平均	
	斤	元	斤	元	斤	元	斤	元
無肥區	二八〇〇〇	三・五〇〇	二八〇〇〇	一六・五〇〇	—	—	二六・四二〇	—
普通無肥區	二七〇〇〇	二八〇〇〇	二八〇〇〇	一三・五〇〇	—	—	二四・四八〇	—
普通無肥區	二七〇〇〇	二五・三〇〇	二五・三〇〇	一二・五〇〇	—	—	二三・三五〇	—
普通無肥區	二七〇〇〇	二七・一〇〇	二七・一〇〇	一四・五〇〇	—	—	二三・九一〇	—

當場審査ニ於テハ製茶試験施肥無肥ノ差ハ殆ントナシト云フヘク普通摘採區ニ比較スル時ハ無肥ニ於テハ一點七分製茶試験ノ方優レトモ施肥ニアリテハ却ツテ製茶試験四分劣レリ又大稻埕ノ評價ニテハ製茶試験無肥區ハ同施肥區ニ比シ平均價格ニ於テ一圓九十九錢高價ニシテ普通摘採區ニ比較スル時ハ無肥ハ三圓十二錢施肥ハ五十七錢何レモ製茶試験勝レリ

即チ品質ニ於テハ製茶試験區勝レルモ前年ニ比シ減收ノ大ナルヲ以テ其得失未タ遽ニ断定ヲ下シ難キヲ以テ更ニ試験ヲ重ネテ報告スヘシ

第六節 烏龍茶ト包種茶トノ得失試験

目的 年ヲ追フテ包種茶製造盛トナルヲ以テ烏龍茶トノ得失ヲ比較シ其優劣ヲ知ラントスルニアリ
方法 中耕除草ハ一箇年四回肥料ハ十二月二十一日窒素二・〇〇、多磷酸一・五〇、加里一・〇〇、多施ヲ茶樹

一欄ニ施セリ

包種區ニ於ケル摘採ハ止マリ葉ヲ生シ稍硬化セル頃ナスモノニシテ春季ニ於テハ烏龍區ノ第三回摘採日ヨリ二三日早ク摘採セリ即チ烏龍區ニ於テハ春茶三回乃至四回ノ摘採ヲナスコトアレト包種區ニ於テハ僅カニ一回ニ止マルモノナリ尙包種區ニアリテハ施肥無肥何レモ夏茶全部及秋茶一、二回ハ烏龍茶トシテ摘採セリ

收穫成績ハ

區名	第一欄當量	摘採期間	回同數上	季別一萬擔當收穫量					季別製茶歩合										
				春茶	夏茶	秋茶	冬茶	計	春	夏	秋	冬	平均						
無肥烏龍	—	自四月廿九日 至十月廿七日	一	二八・九八八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無肥包種	—	自四月廿七日 至十月廿七日	一〇	三三・八六一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無肥烏龍	大豆粉 過燻石灰 七・五	自四月廿七日 至十月廿七日	一〇	三三・八六一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無肥包種	同上	自四月廿七日 至十月廿七日	一〇	三三・八六一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無肥包種	同上	自五月十七日 至十月十七日	二	七・七三六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

無肥ニ於テハ包種區ハ烏龍區ニ比シ僅カニ五貫四百五十八匁ノ增收ニ過キサレトモ施肥ニアリテハ三百六十八匁五百九十二匁ノ多額ナル增收ヲ示セリ尙施肥烏龍區ハ無肥烏龍區ニ比シ三百十三匁三百十匁施肥包種區ハ無肥包種區ニ比シ六百七十六匁四百十八匁ノ大增收ナリ更ニ前年度ノ收量ト比

較對照スレハ左ノ如シ

區名	大正二年	大正元年	四十四年	四十三年	備考
無肥烏龍	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	四十三年ハ普通栽培ニシテ何レモ無肥ナリ
無肥包種	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	
施肥烏龍	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	
施肥包種	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	

無肥包種區ハ前年ニ比シ八十六貫四百五十匁無肥烏龍區ニ於テハ六十五貫二百八十六匁施肥烏龍區ニアリテハ三十一貫七百四十二匁何レモ本年ノ減收ニシテ獨リ施肥包種區ニアリテ五十二貫九百三十五匁ノ增收ヲ示セリ前三區ノ減收ヲ示セルハ氣候等ヨリ來レル一般減收ト見ルヘク施肥包種區ノ增收アルハ包種トシテ摘採セシ爲メ茶株長大樹勢旺盛トナリテ減收ニ打テ勝チシモノ、如シ尙施肥ハ無肥ニ比シ前年ニ對スル減收少シ
製品ノ成績ハ左ノ如シ

項目	無肥烏龍區		無肥包種區		施肥烏龍區		施肥包種區	
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
平均								

大稻埕ニ於ケル評價ハ左ノ如シ

區名	春		夏		秋		平均		備考
	茶	葉	茶	葉	茶	葉	茶	葉	
無肥烏龍	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	包種區ニアリテハ施肥無肥茶秋茶評價ナク
無肥包種	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	
施肥烏龍	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	
施肥包種	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	

當場審査ニ於テ包種區ハ春秋兩季ハ包種茶トシテ審査シ夏茶ハ烏龍茶トシテ審査セシモノナリ今該表ニ就テ見ルニ無肥包種區ハ無肥烏龍區ニ比シ夏茶ニ於テハ一點六分高シト雖モ春茶ニ於テ四點秋茶ニ於テ四點九分低クシテ總平均計ニ於テ二點五分低下セリ又施肥包種區ハ施肥烏龍區ニ比シ夏茶ニ於テ一點五分高ケレトモ春秋兩季ニテ劣リ總平均計ニ於テ二點七分ノ低下ヲ示セリ即チ包種區ハ

每年加用區ハ大正元年ニ比シ百二十四貫六十六匁ノ增收ニシテ隔年加用區ハ百三十六貫〇十六匁無加用區ハ四十二貫八百二十二匁ノ減收ヲ示セリ本年ハ一般ニ減收ノ傾キアリシニ毎年加用區ニ於テハ前述ノ增收ヲ示シ隔年加用區ニ於テモ亦無加用區ヨリ減收少キヲ見レハ泥土ノ效果アルヲ知ルヘシ當場審査鑑定成績ハ左ノ如シ

項目	定點	泥土加用			無加用		
		春	夏	平均	春	夏	平均
形狀	二三〇	二三〇	二三〇	二三〇	二三〇	二三〇	
色澤	二三〇	二三〇	二三〇	二三〇	二三〇	二三〇	
香味	二三〇	二三〇	二三〇	二三〇	二三〇	二三〇	
計	二三〇	二三〇	二三〇	二三〇	二三〇	二三〇	

右平均計ニ依リテ見レハ兩區ノ間大差ナシ大稻埕ニ於ケル評價ハ左ノ如シ

區名	春茶	夏茶	秋茶	平均
泥土加用	二七・〇〇〇	二八・二〇〇	一六・五〇〇	二五・一〇〇
無加用	二七・〇〇〇	二五・七五〇	一三・五〇〇	二四・七五〇

春茶ニ於テハ相等シク夏茶ニ於テハ二圓四十五錢秋茶ニ於テハ三圓加用區ノ方優リ平均價格ニ於テハ八十二錢ノ加用區高價ヲ示セリ

第八節 大豆粕滿俺混用試驗

目的 茶樹ハ肥料三要素ノ外滿俺ヲモ多要スト稱スルヲ以テ大豆粕、滿俺ヲ併用シ其ノ効驗如何ヲ知ラントスルニアリ

方法 大豆粕ハ三月四日ニ施シ滿俺ハ四月一日、五月十七日、八月十一日ノ三回ニ分施シ石灰ハ四月十五年ニ加用セシモノナリ

收穫成績ハ

區名	施肥量	摘採期間	回数	季別一萬權當收穫量				季別製茶歩合				
				春茶	夏茶	秋茶	冬茶	計	春	夏	秋	冬
大豆粕	大豆粕 五〇〇自四月廿六日	同上	同上	一八	二四・六〇	二二・五〇	八・五五	四四・一八	二七・二	二八	二七	二七
滿俺	鹽化滿俺 同上	同上	同上	一八	二二・三〇	二二・八〇	九・二九	四四・一八	二七・二	二八	二七	二七
石灰	同上及炭酸石灰 同上	同上	同上	一八	二二・三〇	二二・八〇	九・二九	四四・一八	二七・二	二八	二七	二七
無肥	同上	同上	同上	一八	二二・三〇	二二・八〇	九・二九	四四・一八	二七・二	二八	二七	二七

備考 生葉ヲ秤量セシノミニテ製造ハ混合シテ爲セルモノナリ

無肥區ニ比シ大豆粕、滿俺區ハ四十六貫二百十四匁大豆粕、滿俺、石灰區ハ九十貫五百三十匁何レモ

増収ニシテ大豆粕、滿俺、石灰區ハ大豆粕、滿俺區ニ比シ四十貫二百二十三匁ノ增收ヲ示セリ
前年ノ數量ト比較對照スルハ左ノ如シ

區名	大正二年	大正元年
大豆粕 滿俺	四四一・六八九	四九一・三四六
大豆粕 滿俺 石灰	四八六・〇二二	五三六・四五七
無 肥	三九五・四七五	四三八・二九七

大豆粕、滿俺區ハ前年ニ比シ四十九貫六百五十七匁、大豆粕、滿俺石灰區ハ五十貫四百四十五匁無
肥區ハ四十二貫八百二十二匁何レモ本年ノ減收ヲ示セリト雖モ昨年ニ於ケル收穫量順序モ亦本年ト
等シク大豆粕、滿俺、石灰區最優越シ大豆粕、滿俺區之ニ次キ無肥區ノ最劣ナルヲ見ルヘシ尙來解
度ニハ大豆粕單用區ヲ設ケ更ニ滿俺ト石灰トノ效果ヲ確ノ報告スヘシ

第九節 剪枝量比較試驗

目的 在來ノ剪枝法一新ナル剪枝法トノ優劣ヲ比較査定セントスルニアリ
方法 本試驗ハ去年初メヲ舉行セシモノニシテ剪枝區ハ春茶摘採後剪枝ヲ行ヒ畫刈區ハ一月十日畫
刈ヲ爲セリ肥料ハ一畝ニ對シ窒素二、〇外燐酸一、五外加里一、〇外宛ヲ十二月二十七日ニ施セリ中

耕除草ハ深耕共ニ一箇年四回トス
收穫成績ハ左表ノ如シ

區名	一畝當量	採期	同數上	季別一畝當收穫量				季別製茶量					
				春	夏	秋	計	春	夏	秋	平均		
大豆粕 滿俺 石灰	110	自四月廿一日至十月廿一日	11	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110
大豆粕 滿俺	110	自四月廿一日至十月廿一日	11	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110
大豆粕 滿俺 石灰	110	自四月廿一日至十月廿一日	11	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110
大豆粕 滿俺	110	自四月廿一日至十月廿一日	11	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110
大豆粕 滿俺 石灰	110	自四月廿一日至十月廿一日	11	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110

標準區ハ剪枝區ニ比シ三百十貫七百三十七匁畫刈區ニ比シ五百八十四貫四百八十匁ノ增收ニシテ又
剪枝區ハ畫刈區ニ比シ二百七十三貫七百五十一匁ノ增收ナルモ尙ホ試驗ヲ繼續セサレハ容易ニ其ノ
優劣ヲ斷定スルコトヲ得サルモノトス
當場ニ於ケル製品ノ審査成績ハ左ノ如シ

項目	定點	標準區				畫刈區				備考
		春	夏	秋	平均	春	夏	秋	平均	
形狀	50	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	畫刈區香茶ハ摘採ナカレシ
色澤	110	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	

計	木色		香味	
	100	100	100	100
100	100	100	100	100
100	100	100	100	100
100	100	100	100	100
100	100	100	100	100
100	100	100	100	100
100	100	100	100	100
100	100	100	100	100
100	100	100	100	100

大稻堀ニ於ケル評價ハ左ノ如シ

區名	春茶	夏茶	秋茶	平均	備考
標準區	二七・〇〇〇	二七・一〇〇	一四・五〇〇	二二・三・九一〇	
剪枝區	二五・〇〇〇	二二・四〇〇	一四・五〇〇	二二・七八〇	
臺刈區	二七・一〇〇	一四・五〇〇	一四・五〇〇	二二・一七〇	

剪枝區ハ標準區ニ比シ當場審査成績ニテハ形状一點二分色澤一點一分水色九分香味一點八分劣り總平均計ニ於テ五點ノ低下ヲ示シ又臺刈區ハ形狀一點六分色澤一點一分水色五分香味二點三分總平均計五點五分劣ルノ成績ヲ顯ハセリ初年ナルヲ以テ一概ニ論スルコト能ハサレトモ要スルニ色澤香味等標準ニ比シ劣ルヲ知ルヘシ尙剪枝區ト臺刈區トハ殆ント大差ナク只香味ニ於テ剪枝區優レリ大稻堀評價ニテハ平均價ニ於テ剪枝區ハ標準區ニ比シ二圓十三錢臺刈區ハ一圓七十四錢劣り臺刈區ハ剪枝區ニ比シ三十九錢優レリ

第十節 茶園表土燻燒試驗

目的 茶園表土燻燒ノ得失ヲ知ラントスルニアリ
 方法 本試驗ハ本年初メテ舉行セシモノニシテ十二月中茶園表土凡一寸ヲ削リ取りテ本島風ノ燒土製造方ニヨリ燻燒シテ返還シタルモノナリ
 肥料ハ窒素二匁燻酸一、五匁加里一、〇匁宛ヲ十二月二十七日施セリ中耕除草ハ一箇年四回ナリ
 收穫成績左ノ如シ

區名	第一種 施肥量	採採期間	回数	季別一萬擔當收穫量				計	季別製茶歩合			
				春	夏	秋	冬		春	夏	秋	冬
燒土區	大豆粕 燻燒石灰 加里	自四月廿二日 至十月廿九日	同上	100	100	100	100	40.0	45.0	40.0	40.0	41.3
對照區	同上	同上	同上	100	100	100	100	40.0	45.0	40.0	40.0	41.3

備考 製茶ハ混合シテナセシモノナリ

燒土區ハ對照區ニ比シ百〇三貫七百二十九匁ノ減收ナリキ

第十一節 石灰効果試驗

目的 石灰ヲ施用シ以テ土壤ノ酸性ヲ中和シ茶樹ノ發育及收量ニ及ホス効果ヲ知ラントスルニアリ
 方法 石灰單用區ニ於ケル石灰ハ四十四年二月十七日石灰、大豆粕加用區ニ於ケル石灰ハ同年十二

三月十三日ニ施用シテ大豆粕ハ單用區ト等シ十二月十六日(大正元年)ニ施用セリ
收穫成績左ノ如シ

區名	施一 肥 量	播種 期間	收穫 日	季節一萬糧當最葉量				季節製茶歩合					
				春	夏	秋	冬	計	春	夏	秋	冬	平均
石灰單用	0		自四月廿九日 至十月卅日	12.0	11.0	11.0	11.0	45.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0
石灰大豆 粕加用	200		同上	15.0	14.0	14.0	14.0	57.0	28.0	28.0	28.0	28.0	28.0
大豆 粕加用	200		同上	15.0	14.0	14.0	14.0	57.0	28.0	28.0	28.0	28.0	28.0
大豆 粕加用	200		同上	15.0	14.0	14.0	14.0	57.0	28.0	28.0	28.0	28.0	28.0

石灰大豆粕加用區ハ石灰單用區ニ比シ二十七貫百四十匁、大豆粕單用區ニ比シ十九貫二百四十六匁
ノ減收ヲ示セリ是石灰大豆粕加用區ノ茶種初メヨリ劣リシニヨレリ尙石灰單用區ハ大豆粕單用區ニ
此シ七貫八百九十四匁ノ增收ナリキ
尙ホ前年來ノ收量ヲ對照スレハ左ノ如シ

區名	大正二年	大正元年	四十四年	備考
石灰單用	55.0	55.0	55.0	
石灰大豆粕加用	62.0	62.0	62.0	
大豆粕單用	55.0	55.0	55.0	四十四年ハ無肥無石灰ナリ

石灰單用區ハ大正元年ニ比シ百二十八貫七百九十七匁石灰、大豆粕加用區ハ九十一貫三百二十匁大
豆粕單用區ハ七十六貫九百五十二匁尙レモ本年度ノ減收ヲ示セリ而シテ石灰單用ノ減收最大ナリキ
當場ニ於ケル製品審査成績左ノ如シ

項目	石灰單用				石灰大豆粕加用				大豆粕單用			
	春	夏	秋	平均	春	夏	秋	平均	春	夏	秋	平均
形狀	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
色澤	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
水色	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
香味	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

總平均計ニ於テ大豆粕、石灰加用區ノ五十一點九分最高ク大豆粕單用區之ニ亞キ石灰單用區最劣レ
尙ホ大稻埕ニ於ケル評價ハ左ノ如シ

區名	春茶				夏茶				秋茶				備考
	春	夏	秋	平均	春	夏	秋	平均	春	夏	秋	平均	
石灰單用	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	石灰單用區用區トノ各季 ノ評價等シク平均ニ於 テ大豆粕ハ季節別製茶量ノ異 ナルヨリ來レルモノナリ
大豆粕石灰加用	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	
大豆粕加用	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	
大豆粕單用	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	

大豆粕用區最高價ニシテ大豆粕、石灰加用區是ニ次キ石灰用區最劣レリ

第十二節 硫酸鐵加用試驗

目的 茶ハ鐵分ヲ多量スト稱スルヲ以テ硫酸鐵ヲ施シ其ノ收量及品質ニ及ホス影響ヲ知ラントスルニアリ

方法 硫酸鐵ハ下表記載ノ數量ヲ十二月九日ニ施セリ中耕除草ハ一箇年四回トス
收穫成績ハ左表ノ如シ

區名	第一種當量	採探期間	同回数	季別一萬樽當收量				季別製茶歩合					
				春	夏	秋	冬	計	春	夏	秋	冬	平均
硫酸鐵加用	二匁	自四月廿八日 至十月卅日	同上	1.5	2.0	1.8	1.2	4.5	25.0	28.0	22.0	20.0	23.7
無加用	同上	同上	同上	1.2	1.5	1.3	0.8	3.8	22.0	25.0	18.0	18.0	20.7

硫酸鐵加用區ハ却ツテ無加用區ニ比シ九十五貫八百二十五匁ノ減收ヲ示セリ之レ一ニ加用區ノ茶價初メヨリ不整ナリシニ因ルヘシ
前年來ノ收量ト對照スレハ

區名	大正二年	大正元年	四十四年	四十三年
硫酸鐵加用	七九二・二七〇	九三三・一九七	八〇一・八一五	七六四・二九六
無加用	八八八・〇九五	一、〇一八・〇一〇		

加用區ハ前年ニ比シ百三十貫九百二十七匁無加用區ハ百二十九貫九百十五匁何レモ本年度ノ減收ナリ
常場ニ於ケル製品審査鑑定成績ハ左ノ如シ

項目	定點	硫酸鐵加用				無加用			
		春	夏	秋	平均	春	夏	秋	平均
形	100	100	100	100	100	100	100	100	100
色	100	100	100	100	100	100	100	100	100
水色	100	100	100	100	100	100	100	100	100
香味	100	100	100	100	100	100	100	100	100
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100

色澤水色ニ於テ兩者大差ナキモ形狀及ヒ香味ニ於テ加用區ハ却ツテ無加用區ヨリモ劣レリ

第十三節 燻炭肥料試驗

目的 茶樹ニ燻炭肥料ヲ施ス時ハ如何ナル効果ヲ及ホスヘキヤヲ知ラントスルニアリ
方法 燻炭ハ葉ヲ以テ小柳津式ニヨリ三月三十一日ニ製造シ同日一樽二百七十六匁ヲ施キリ
收穫成績ハ左表ノ如シ

區名	施肥量	採探期間	回数	季別一萬個當收葉量				季別製茶歩合				
				春	夏	秋	冬	計	春	夏	秋	冬
無肥區		自四月廿九日 至十月廿九日	同	一、〇七〇	一、〇七〇	一、〇七〇	一、〇七〇	四、二八〇	二七	二七	二七	二七
備炭區		同	同	一、〇七〇	一、〇七〇	一、〇七〇	一、〇七〇	四、二八〇	二七	二七	二七	二七

備考 二區混合シテ製造セリ

備炭區ハ無肥區ニ比シ百八十貫七百八十五匁即チ二割餘ノ增收ニ當レリ尙前年ノ收量ト對照スレハ左ノ如シ

區名	大正二年	大正元年
備炭區	一、〇七〇・八八〇	一、〇〇九・六二四
無肥區	八八八・〇九五	一、〇一八・〇一〇

無肥區ハ昨年ニ比シ百二十九貫九百十五匁ノ減收ヲ示セリ

第十四節 アルビジャ間作試験

目的 アルビジャ間作シテ綠肥トシ其效果ヲ知ラントスルニアリ

方法 アルビジャハ四十三年間作綠肥トシテ植付シモノニシテ昨年ハ十月二十四日枝打ヲナシテ施

肥シ本年ハ九月二十六日ニ收穫シテ同日直ニ茶ノ根元ニ鋤込メリ
今前年ノ收量ト對照スレハ左ノ如シ

年	採收株數	總收葉量	一株收量	昨年ニ對スル増減量	備考
大正元年	四〇株	一、八四〇〇	四五		收穫量中ノ葉ノ中ニハ小枝ヲ含ム
大正二年	三九株	二、七四四〇	七〇	増一四四	

前年ニ比シ一株收量ハ葉ハ約三倍、枝ハ約四割ノ增收ナリキ
茶葉收穫成績ハ左ノ如シ

區名	施肥量	採探期間	回数	季別一萬個當收葉量				季別製茶歩合				
				春	夏	秋	冬	計	春	夏	秋	冬
アルビジャ間作		自四月廿六日 至十月廿九日	同	一、〇七〇	一、〇七〇	一、〇七〇	一、〇七〇	四、二八〇	二七	二七	二七	二七

尙前年ト收量ヲ對照スレハ左ノ如シ

區名	大正二年	大正元年	四十四年
アルビジャ間作	八一八・四一八	一、〇〇八・二一九	九一六・〇二〇

昨年ニ比シ百八十九貫八百一匁ノ大減收ヲ示セリ勿論施セシ數量(アルビシヤ葉)僅少ナリシニヨルヘシ

第十五節 相思樹間作試驗

目的 相思樹ヲ間作シテ枝葉ヲ茶樹ノ根元ニ鋤キ込ミ其效果ヲ知ラントスルニアリ
 方法 相思樹ハアルビシヤト等シク四十二年ニ移植セシモノニシテ昨年十月初メテ枝打ヲ行ヒ當日茶樹ノ根元ニ鋤キ込ミ本年ハ九月二十六日ニ枝打ヲナシテ施用セリ
 相思樹ノ收穫量ヲ前年ト比較スレハ左ノ如シ

年 別	收穫株數	總收穫量	一擔當收穫量	前年ニ對スル増減量	備 考
大正元年	二二株	一〇三・四六〇〇	一五・六四九八		
大正二年	六二株	一七三・〇六〇〇	二〇・六四七五	減 二〇・九三三三	

總收穫ニ於テハ葉量六百匁枝五百四十匁本年ノ増收ナリト雖モ株當收穫量ニ於テ九十二匁葉量ニ於テ二百二十二匁ヲ減收セリ是レ本年收穫セシモノ、中ニハ小株多カリシニヨル
 葉量收穫成績ハ左ノ如シ

區 名	第一肥料	採探期間	回 數	季 別 一 萬 株 當 收 穫 量					季 別 製 茶 歩 合				
				春 茶	夏 茶	秋 茶	冬 茶	計	春	夏	秋	冬	平均
相思樹	一三匁九	自四月廿六日 至十月廿二日	一	11.5	11.5	10.5	10.5	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0
同作				11.5	11.5	10.5	10.5	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0

前年トノ收量對照ハ

區 名	大正二年	大正元年	四十四年	四十三年
相思樹間作	五三七・二一五	六一四・四四三	六六六・二六三	六八四・二二三

本年收量ハ昨年ニ比シ七十七匁二百三十八匁ノ減ニシテ年々遞減ノ徴アルヲ見レハ相思樹ノ效果顯ハレサル事實ナレトモ樹齡ノ關係モ亦類ツテ力アルカ如シ

第十六節 礦物性窒素肥料種類試驗

目的 一擔當窒素二〇匁ヲ施スモノトシテ智利硝石、硝酸アンモニア、硫酸アンモニアノ效果ヲ比較スルニアリ
 方法 右肥料ハ何レモ單用ニシテ二回ニ分施スルヨト、シ四倍量ノ細砂ヲ混シ第二回ハ四月二日第貳期目ハ五月二十六日ニ施セリ

收穫成績左ハ表ノ如シ

區名	採探期間	回同數上	季別一萬種收穫量				計	増減量	割合
			春茶	夏茶	秋茶	冬茶			
無肥	自四月廿七日 至十月十九日	1區	11111	12121	13131	14141	47500		
硫酸アンモニヤ	同上	1區	12121	13131	14141	15151	48500	+	10%
硝酸アンモニヤ	同上	1區	13131	14141	15151	16161	49500	+	20%
智利硝石	同上	1區	14141	15151	16161	17171	50500	+	30%

備考 生葉量ノミヲ秤量セシモノナリ

右ノ表ニヨレハ智利硝石最優良ナル成績ニシテ無肥ニ對スル増加割合三割二分七厘硫酸アンモニアノ二割五分一厘之ニ次キ硫酸アンモニア最劣レリ即チ硫酸體窒素有効ナリシト稱シ得ヘク又鹽基性肥料タル智利硝石最良好ニシテ中性タル硝酸アンモニア之ニ次キ酸性タル硫酸アンモニアノ最劣レルヨリ鹽基性肥料最モ效果アリト稱シ得ヘシ然レトモ果シテ肥料反應ノ影響ナルヤハ未タ明言スル能ハス

尙各區共肥效ハ春茶及ヒ夏茶ニ於テ顯ハレ秋茶ニ至リテハ肥效殆ント消滅セシカ如シ是レ何レモ速效肥料ナルニヨルヘシ

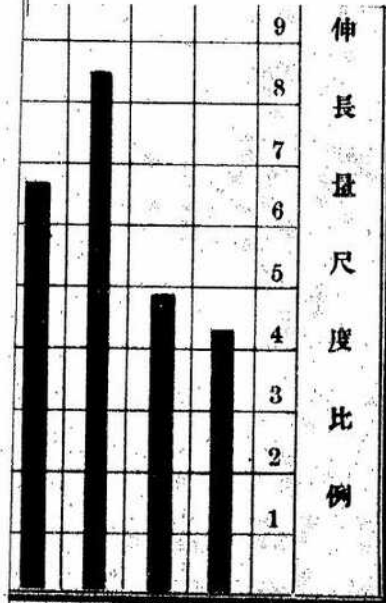


表 査 調 合 度 長 伸 芽 茶

種別	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計	摘	要	全伸長量	尺度	比						
白心種	11.8	11.0	10.5	10.2	10.0	9.8	9.5	9.2	8.8	8.5	8.2	四月廿四日一寸五分八厘六分五厘二厘四分		11	10	9	8	7	6	5	4	3
時茶種	11.8	11.0	10.5	10.2	10.0	9.8	9.5	9.2	8.8	8.5	8.2	五月十九日一寸二分六厘二伸長採セリ		11	10	9	8	7	6	5	4	3
毛仔種	11.8	11.0	10.5	10.2	10.0	9.8	9.5	9.2	8.8	8.5	8.2	五月十九日一寸二分六厘二伸長採セリ		11	10	9	8	7	6	5	4	3
烏金種	11.8	11.0	10.5	10.2	10.0	9.8	9.5	9.2	8.8	8.5	8.2	四月廿四日一寸二分六厘六分六月廿一日一寸四分八厘		11	10	9	8	7	6	5	4	3
印度種	11.8	11.0	10.5	10.2	10.0	9.8	9.5	9.2	8.8	8.5	8.2	四月廿四日一寸二分六厘六分六月廿一日一寸四分八厘		11	10	9	8	7	6	5	4	3
漢口種	11.8	11.0	10.5	10.2	10.0	9.8	9.5	9.2	8.8	8.5	8.2	四月廿四日一寸二分六厘六分六月廿一日一寸四分八厘		11	10	9	8	7	6	5	4	3
不知春種	11.8	11.0	10.5	10.2	10.0	9.8	9.5	9.2	8.8	8.5	8.2	四月廿四日一寸二分六厘六分六月廿一日一寸四分八厘		11	10	9	8	7	6	5	4	3
埔心種	11.8	11.0	10.5	10.2	10.0	9.8	9.5	9.2	8.8	8.5	8.2	四月廿四日一寸二分六厘六分六月廿一日一寸四分八厘		11	10	9	8	7	6	5	4	3
香圓種	11.8	11.0	10.5	10.2	10.0	9.8	9.5	9.2	8.8	8.5	8.2	四月廿四日一寸二分六厘六分六月廿一日一寸四分八厘		11	10	9	8	7	6	5	4	3
字治種	11.8	11.0	10.5	10.2	10.0	9.8	9.5	9.2	8.8	8.5	8.2	四月廿四日一寸二分六厘六分六月廿一日一寸四分八厘		11	10	9	8	7	6	5	4	3
福州種	11.8	11.0	10.5	10.2	10.0	9.8	9.5	9.2	8.8	8.5	8.2	四月廿四日一寸二分六厘六分六月廿一日一寸四分八厘		11	10	9	8	7	6	5	4	3
黃柑種	11.8	11.0	10.5	10.2	10.0	9.8	9.5	9.2	8.8	8.5	8.2	四月廿四日一寸二分六厘六分六月廿一日一寸四分八厘		11	10	9	8	7	6	5	4	3
枝蘭種	11.8	11.0	10.5	10.2	10.0	9.8	9.5	9.2	8.8	8.5	8.2	四月廿四日一寸二分六厘六分六月廿一日一寸四分八厘		11	10	9	8	7	6	5	4	3
大有種	11.8	11.0	10.5	10.2	10.0	9.8	9.5	9.2	8.8	8.5	8.2	四月廿四日一寸二分六厘六分六月廿一日一寸四分八厘		11	10	9	8	7	6	5	4	3
紅心種	11.8	11.0	10.5	10.2	10.0	9.8	9.5	9.2	8.8	8.5	8.2	四月廿四日一寸二分六厘六分六月廿一日一寸四分八厘		11	10	9	8	7	6	5	4	3
白毛猴種	11.8	11.0	10.5	10.2	10.0	9.8	9.5	9.2	8.8	8.5	8.2	四月廿四日一寸二分六厘六分六月廿一日一寸四分八厘		11	10	9	8	7	6	5	4	3
青心種	11.8	11.0	10.5	10.2	10.0	9.8	9.5	9.2	8.8	8.5	8.2	四月廿四日一寸二分六厘六分六月廿一日一寸四分八厘		11	10	9	8	7	6	5	4	3

右ノ表ニヨレハ智利硝石最優良ナル成績ニシテ無肥ニ對スル増加割合三割二分七厘硝酸
 ノ二割五分一厘之ニ次キ硫酸アンモニア最劣レリ即チ硝酸體窒素有効ナリシト稱シ得ヘク
 肥料タル智利硝石最良好ニシテ中性タル硝酸アンモニア之ニ次キ酸性タル硫酸アンモニ
 ルヨリ鹽基性肥料最モ效果アリト稱シ得ヘシ然レトモ果シテ肥料反應ノ影響ナルヤハ未
 能ハス
 尙各區共肥效ハ春茶及ヒ夏茶ニ於テ顯ハレ秋茶ニ至リテハ肥效殆ント消滅セシカ如シ是
 效肥料ナルニヨルヘシ

收穫成績左ハ表ノ如シ

區名	摘採期間	同數上	季別一萬權收穫量	計	增減基
無肥	自四月廿七日 至十月十九日	一三 四四 四四 四四	一六九 一七九 一七九 一七九	九〇〇〇	
硫酸アンモニ	同上	一三 四四 四四 四四	一七九 一七九 一七九 一七九	九〇〇〇	
硝酸アンモニ	同上	一三 四四 四四 四四	一七九 一七九 一七九 一七九	九〇〇〇	
智利硝石	同上	一三 四四 四四 四四	一七九 一七九 一七九 一七九	九〇〇〇	

茶芽伸長度合調査表

種別	月												摘	要	全伸長量尺度比例
	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	計	計			
白心種	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	四月廿四日一寸五分八厘六月廿五日一寸三分四分七月十二日一寸七分五厘八月十六日一寸四分二分九月廿日一寸五分六厘伸長採り		11
時茶種	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	五月十九日一寸二分六厘伸長採り		10
毛仔種	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	四月廿四日一寸二分六厘六月廿一日一寸四分四厘八月十六日一寸三分九厘伸長採り		9
猫耳種	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	五月十九日一寸三分一厘伸長採り		8
烏金種	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	四月廿四日一寸二分六厘六月廿一日一寸四分四厘八月十六日一寸三分九厘伸長採り		7
印度種	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	五月十九日一寸三分一厘伸長採り		6
漢口種	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	四月廿四日一寸二分六厘六月廿一日一寸四分四厘八月十六日一寸三分九厘伸長採り		5
不知春種	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	五月十九日一寸三分一厘伸長採り		4
埔心種	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	四月廿四日一寸二分六厘六月廿一日一寸四分四厘八月十六日一寸三分九厘伸長採り		3
香蘭種	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	五月十九日一寸三分一厘伸長採り		2
宇治種	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	四月廿四日一寸二分六厘六月廿一日一寸四分四厘八月十六日一寸三分九厘伸長採り		1
福州種	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	五月十九日一寸三分一厘伸長採り		
黃柑種	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	四月廿四日一寸二分六厘六月廿一日一寸四分四厘八月十六日一寸三分九厘伸長採り		
枝蘭種	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	五月十九日一寸三分一厘伸長採り		
大布種	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	四月廿四日一寸二分六厘六月廿一日一寸四分四厘八月十六日一寸三分九厘伸長採り		
紅心種	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	五月十九日一寸三分一厘伸長採り		
白毛種	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	四月廿四日一寸二分六厘六月廿一日一寸四分四厘八月十六日一寸三分九厘伸長採り		
青心種	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	五月十九日一寸三分一厘伸長採り		

裏面白紙

收穫成績左ハ表ノ如シ

區名	精採期間	同數上	季別一萬權收穫量	計	増減量	割合
無肥	自四月廿七日	1.5	1.5	1.5	0	0%
硫酸アンモニヤ	同上	1.5	1.5	1.5	0	0%
硝酸アンモニヤ	同上	1.5	1.5	1.5	0	0%
智利硝石	同上	1.5	1.5	1.5	0	0%

備考 生葉量ノミヲ秤量セシモノナリ
 右ノ表ニヨレハ智利硝石最優良ナル成績ニシテ無肥ニ對スル増加割合三割二分七厘硝酸アンモニヤノ二割五分一厘之ニ次キ硫酸アンモニヤ最劣レリ即チ硝酸鹽素有效ナリシト稱シ得ヘク又鹽基性肥料タル智利硝石最良好ニシテ中性タル硝酸アンモニヤ之ニ次キ酸性タル硫酸アンモニヤノ最劣レルヨリ鹽基性肥料最モ效果アリト稱シ得ヘシ然レトモ果シテ肥料反應ノ影響ナルヤハ未タ明言スル能ハス
 尙各區共肥效ハ春茶及ヒ夏茶ニ於テ顯ハレ秋茶ニ至リテハ肥效殆ント消滅セシカ如シ是レ何レモ速效肥料ナルニヨルヘシ

第十七節 智利硝石單用試驗

目的 智利硝石ヲ單用シ其效果ヲ知ラントスルニアリ

方法 區名及施行方法左ノ如シ

區名	空米用量	施肥回数	施肥月日
第一區	無	一回	四月二日
第二區	空	一回	同
第三區	空	一回	同
第四區	同	二分	四月廿六日
第五區	同	三分	五月廿六日

施用方法ハ三四倍ノ細砂ヲ混シ施セリ
收穫成績左ノ如シ

區名	一擔當 施肥量	摘採期間	同 數上	季別一萬擔當收穫量				計	無肥料區ニ對スル 増減量割合
				春茶	夏茶	秋茶	冬茶		
第一區	無肥料	自四月廿七日 至十月十九日	一	四三三二	二九二五	一六六二	八〇〇〇		
第二區	一三三三	同上	一	四三三二	二九二五	一六六二	八〇〇〇	一〇〇	

第三區	1000 同上	115	1000 同上	1000 同上	1000 同上	1000 同上	1000 同上
第四區	1000 同上	115	1000 同上	1000 同上	1000 同上	1000 同上	1000 同上
第五區	1000 同上	115	1000 同上	1000 同上	1000 同上	1000 同上	1000 同上

一回施用ニ於テハ窒素三々タル第三區ハ二々タル第二區ニ比シ五十八貫三百五十六匁ノ增收ナレトモ二回分施ニアリテハ窒素三々區タル第五區ハ二々タル第四區ニ比シ百二十七貫九百五十一匁ノ增收ヲ示セリ尙回数ト收量トノ關係ヲ見ルニ窒素二々區ニ於テハ二回分施ノ方優レリト雖モ窒素三々區ニ於テハ一回施肥ノ方優リ用量及回数共未タ不明ト云ハサル可ラス

第十八節 肥料溶解試験

目的 大豆粕ヲ施シ其溶解ニ要スル日數溶解狀態及收量ニ及ボス影響ヲ知ラントスルニアリ
 方法 第一號ヨリ第六號迄ノ六區ヲ設ケ下表ノ肥料ヲ施シ主トシテ十日毎ニ茶樹ノ根元ヲ掘リテ溶解ノ狀態ヲ調査スルコト、セリ尙茲ニ溶解ト稱スルハ肥料ノ原形ヲ失ヘルヲ云フ中耕除草ハ普通試驗區ト等シク一箇年四回トス
 茶葉收穫成績ハ左ノ如シ

區名	施一肥種	量當	摘採期間	回数	季別一萬擔當收葉量				計	無肥ニ對スル増減	増減量	割合	合
					春茶	夏茶	秋茶	冬茶					

第一號	大豆粕	1000	自四月廿六日	同上	115	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
第二號	大豆粕	1000	同上	同上	115	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
第三號	大豆粕	1000	同上	同上	115	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
第四號	大豆粕	1000	同上	同上	115	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
第五號	大豆粕	1000	同上	同上	115	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
第六號	大豆粕	1000	同上	同上	115	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000

第三號ハ第一號ニ比シ二百四貫三百四十八匁第四號ハ第二號ニ比シ二百七十五貫三百八十八匁ノ增收アリ大豆粕ノ效果大ナルヲ示シ又完全肥料タル第五號ハ收量最モ多カリキ又第二號ハ第一號ニ比シ四十九貫六百三十七匁第四號ハ第三號ニ比シ百二十貫六百七十七匁ノ增收ヲ來シ石灰加用ノ効驗ヲ示セリ
 尙無肥區ニ對シテハ第一號ハ三分八厘第二號ハ一割三分第三號ハ四割一分七厘第四號ハ六割四分一厘第五號ハ七割五分二厘ノ增收ニ當レリ
 肥効ノ顯著ナルハ夏茶及秋茶ニシテ春茶ニ於テモ之ヲ認ムルコトヲ得タリ
 左ニ其溶解狀態調査成績ヲ示ス

調査月日	區名	摘	要
二月十七日	自第一號至第五號	本日施肥ヲナセリ施肥方法ハ普通方法ト同様ニシテ石灰ハ施肥前大豆粕ト混合シ完全肥料モ同シク施肥前ニ配合セリ	
	第一號	少シク白微ヲ生シ柔軟トナレリ	
	第二號	同上	
	第三號	同上	
	第四號	同上	
二月廿二日	第一號	白微ハ増殖シ大豆粕ハ味噌ノ如キ狀ヲ呈セリ	
	第二號	同上	
	第三號	同上	
	第四號	同上	
	第五號	同上	
三月一日	第一號	同上	
	第二號	同上	
	第三號	同上	
	第四號	同上	
	第五號	同上	
三月六日	第一號	同上	
	第二號	同上	
	第三號	同上	
	第四號	同上	
	第五號	同上	

三月六日リトマス試験紙及アルカリ滴定法ニテ肥料ノ反應ヲ試験セリアルカリノ量ハ別ニ換算セス
 只程度ノ比較ニ止メタリ其成績ハ

調査月日	區名	試験紙ニ對スル反應	其ノ強弱及順序	アルカリ滴定量
三月六日	第一號	赤	二 稍強	五〇 CC
	第二號	薄赤	三 弱	二五 CC
	第三號	赤	一 強	二七〇 CC

第四號 薄赤 三弱 二五 CC
 第五號 赤 一強 五〇 CC

試験紙反應及アルカリ滴定法ニ於テモ大豆粕三十匁ヲ施セル第三號酸性最強キヲ示セリ尙大豆粕二十匁ヲ施セル第一號ト完全肥料ヲ施セル第五號トハ試験紙反應ニ於テハ第五號適カニ酸性強キヲ示セリト雖モアルカリ滴定量ハ同量ナリキ尙第二號第四號ハ兩方法ニヨリ何レモ同一ノ成績ヲ示セリ要スルニ大豆粕ヲ施用シテ其溶解ノ際ニハ稍強キ酸性ヲ呈スルヲ知ルヘシ

調査月日	區名	摘	要
三月十六日	第一號	腐敗ノ度進ミ人尿ノ稍腐敗セルカ如キ狀ヲ呈セリ	
	第二號	同上	大差ナシ
	第三號	同上	
	第四號	同上	
	第五號	同上	

尙アルカリ滴定ヲ行ヒタルニ次ノ如キ成績ヲ得タリ

區名	反應	摘	要
第一號	酸性	アルカリ滴定量一五〇 Cニテ紫赤色ヲ呈セリ	
第二號	鹽基性	フェノールフタレン一滴ニテ紫赤色ヲ呈セリ其ノ色ノ濃度ハ第一號ノ約三倍ナリキ	

第三號 弱酸 アルカリ滴定量一〇、〇〇
 第四號 鹽基性 フェノールフタレンニテ紫赤色ヲ呈セリ濃度ハ第一號ノ二倍ナリ
 第五號 酸性 アルカリ四五、〇〇

即チ第一號ハ弱酸性ニシテ第二號ハ稍強キ鹽基性第三號ハ弱酸性第四號ハ鹽基性ナルモ第二號ヨリ稍弱ク第五號ハ稍強キ酸性ニシテ第一號ニ比シ約三倍第三號ニ比シ四倍半ナリ前回ニテ酸性ヲ呈セシ第二、四號鹽基性トナリ同シク稍強キ酸性ヲ呈セシ第一、三、五號何レモ酸性弱クナレリ尙アンモニアノ發生ヲ驗知セシニ左ノ如キ成績ヲ得タリ

區名	ネストラト試薬ニ對スル反應	反應色濃度ノ順序
第一號	黄褐色ヲ呈スルモ色薄ク沈澱ナシ	三
第二號	同 上	三
第三號	色第一、二號ニ比シ濃シ	二
第四號	赤褐色ニシテ沈澱ヲ生セリ	一
第五號	色ハ第四號ニ等シキモ沈澱多シ	一

調査月日 區名 摘 要
 三月廿六日 第一號 腐敗ノ度進ミ大豆粕ヲ施セシモノナルトフ知ル能ハス
 第二號 同 上
 第三號 同 上
 第四號 同 上
 第五號 同 上

四月五日		四月二十日	
第一號	溶解ノ度進ミ容量著シク減少シ且ツ前ノ如ク多濕ナラス	第一號	同 上
第二號	同 上	第二號	同 上
第三號	同 上	第三號	同 上
第四號	同 上	第四號	同 上
第五號	同 上	第五號	同 上

施肥セシ處ノ土壤ハ黑色ニシテ稍固結シ名孔ニシテ海綿狀ヲ呈セリ
 過磷酸石灰尙殘存セリ
 全ク溶解シ盡シ處ニテ土壤黒色ヲ呈セリ茶芽發芽揃ヒ效果少シク顯ハレタルカ知シ

右調査ニヨレハ施肥後凡ソ六十日ニシテ溶解シ終ハレリ而シテ肥效モ溶解シ終ハレル頃ヨリ漸次顯ハレ始ムルカ如シ尙石灰加用ハ溶解ノ速度ニ殆ント影響ヲ見サリキ只第五號タル完全肥料區ハ稍溶解遅レタルカ如キ觀アリキ蓋シ酸他ニ比シ稍強クシテ細菌發生及活動ニ少シク障害ヲ與ヘタルニヨルヘシ

尙溶解ノ最初ニ於テハ酸性稍強キモ溶解ノ度進ムニ從ヒ酸性弱クナルカ如シ

備考 アルカリ滴定法ヲ行ヒ手續ハ左ノ如シ

施肥セル處ノ土壤(肥料ト混合セルモノ)ヲ一區ニ付五箇所取リテ混合シ其中ヨリ二十五ヲナス

コニ取り蒸溜水二〇瓦ヲ注キ尙骨炭ヲ適宜投入シテ時々振蕩シ十時間後之ヲ濾過シ濾液五〇〇ヲ取リフエノールフタレン一滴ヲ加ヘアルカリ(苛性加里)ノ滴定ヲナセリ尙アンモニアノ驗出ニモ前記濾液五〇〇ヲ取り二倍ノ水ヲ加ヘネスラー試薬一滴ヲ注加セルモノナリアルカリハ苛性加里十分ノ一規定液ヲ一千倍ニ稀釋シテ用ヒタリ

第十九節 樹高、幅ト收量トノ對照試驗

目的 茶樹ノ高サ及ヒ幅ト收量ノ關係ヲ知ラントスルニアリ

方法 豫メ樹高ト樹幅(東西、南北)トヲ計リ置キ適當ナル時期(撰定セル茶樹アル區ト同時)ニ摘採スルコトトセリ

其收穫成績左ノ如シ

區名	第一肥量	樹高	樹幅		樹高幅ヲ體積トシテ	一權當收葉量				
			東西	南北		春茶	夏茶	秋茶	冬茶	計
第一號	無肥	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
第二號	同	1.15	1.15	1.15	1.51	1.51	1.51	1.51	1.51	1.51
第三號	同	1.30	1.30	1.30	2.19	2.19	2.19	2.19	2.19	2.19
第四號	同	1.45	1.45	1.45	3.04	3.04	3.04	3.04	3.04	3.04
第五號	同	1.60	1.60	1.60	4.09	4.09	4.09	4.09	4.09	4.09

第 號	大豆粕 硫酸石灰 硫酸加里	樹高	樹幅		樹高幅ヲ體積トシテ	一權當收葉量				
			東西	南北		春茶	夏茶	秋茶	冬茶	計
第六號	同	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
第七號	同	1.10	1.10	1.10	1.47	1.47	1.47	1.47	1.47	1.47
第八號	同	1.20	1.20	1.20	1.73	1.73	1.73	1.73	1.73	1.73

無肥ニアリテハ第一號ノ百三十七々八最多クシテ第二號ノ九十四々四之二次キ第三號第四號第五號順次之ニ次ケリ施肥ニアリテハ第六號ノ百三十四々九最多クシテ第七號、第八號ノ順ニシテ施肥、無肥何レモ樹高クシテ幅廣キモノ收量最多クシテ高サ及ヒ幅ヲ減スルニ從ヒ其ノ收量ヲ遞減セリ樹高ト幅ト假ニ體積立方尺トシテ其ノ收量ヲ見ルニ體積ニ比例ヲ爲サスト雖モ大體ニ於テ一致セリ又施肥無肥ヲ比較スルニ體積ニ於テ殆ント相等シキニ號(無肥)ト六號(施肥)ニ於テ六號ハ二號ニ比シ四十々五(四割二分九厘)ノ增收ニシテ又八號(施肥)ハ五號(無肥)ニ比シ十三々三(三割一分七厘)ノ增收ヲ示セリ

右ノ成績ニヨレハ茶樹ノ高及幅ハ茶葉收量ニ影響ヲ及ボスコト甚大ナルヲ知ルヘシ今若シ全島ノ茶樹二號ニ等シトセンカ(他ノ條件ナシトセハ)優ニ現在産額ノ六七割ヲ増加シ得ヘシ左レハ可及的栽培ノ長大ヲ計ルヲ得策トス

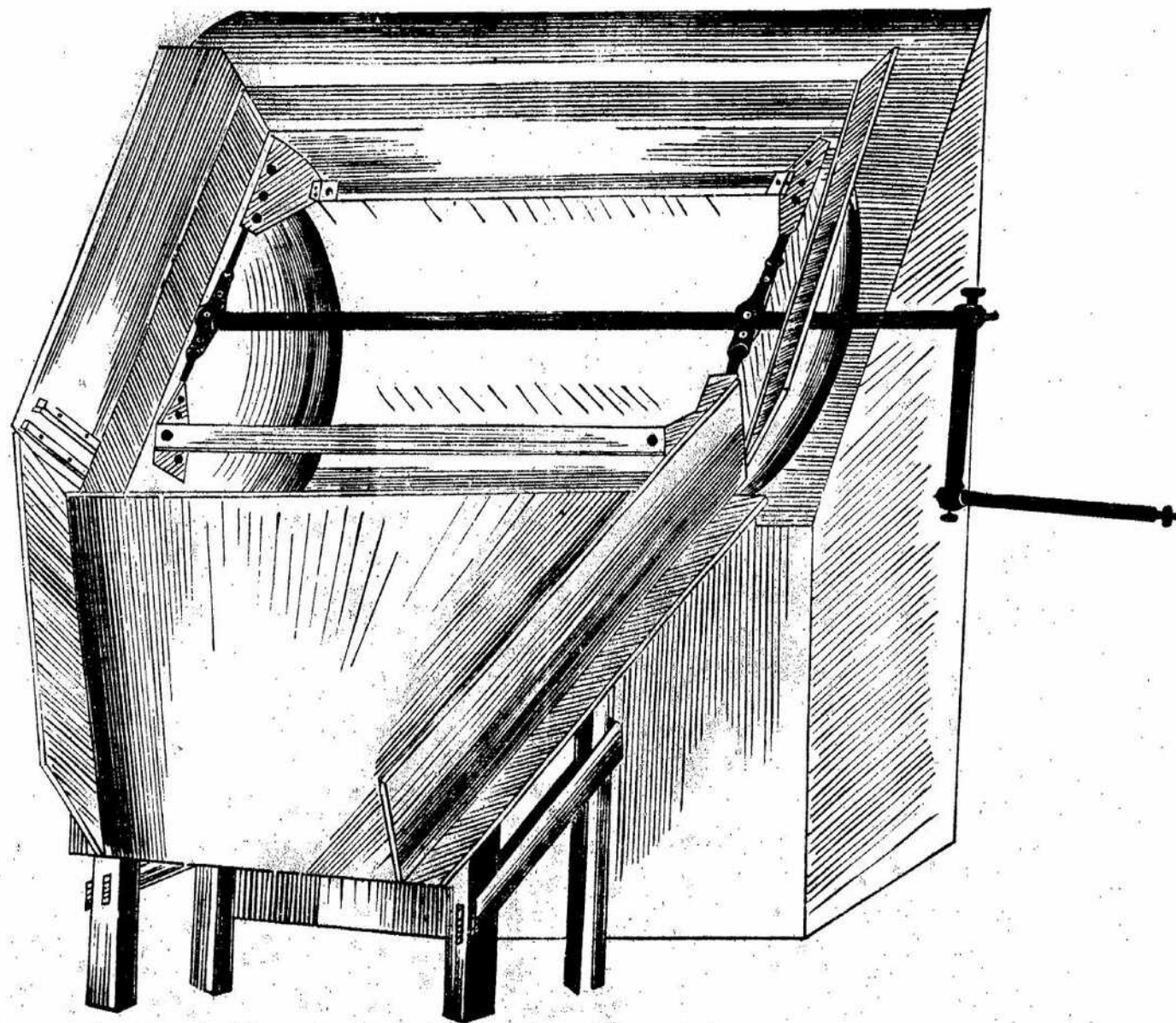
第二十節 黃枝花收穫量

黄枝ハ植付テヨリ四年日ニシテ次表ノ如ク施肥セリ花ハ五月上旬ヨリ六月四、五日頃マテ繼續セリ
 小花種モ同シク六月四、五日頃咲キ終リシカ又八月七日頃ヨリ同月二十日頃迄第二回ノ開花ヲナセ
 中耕除草ハ一箇年三回之ヲ行ヘリ
 收穫成績ハ

區名	一株當施肥量	一株收量	一甲步千三百 二十株ノ收量	備	考
大花	一 大豆箱 五〇 二 大豆箱 五〇 三 大豆箱 五〇 四 大豆箱 五〇	三一五 四六八 五一四 四八五	二、五九八 三、八六一 四、二四〇 四、〇〇一		
小花	一 大豆箱 五〇 二 大豆箱 五〇 三 大豆箱 五〇 四 大豆箱 五〇	二八五	七、八六七	一甲步四千四百一株	

右ノ成績ニヨレハ窒素加里ヲ施セル三區收量最モ多クシテ堆肥ヲ施セル四區之ニ次キ窒素燐酸施用
 區窒素施用區順次劣レリ又小花種ハ一株ノ收量僅ニ二百八十六匁ナレトモ株數多キ爲メ一甲步ノ收
 量ハ約二倍ナリキ尙昨年大花種平均收量ハ一株百五十二匁ナリシ

機炒釜式鎮平安



裏面白紙

右ノ成績ニヨレハ窒素加里ヲ施セル三區收量最モ多クシテ堆肥ヲ施セル四區之ニ次キ窒素燐酸施用區窒素施用區順次劣レリ又小花種ハ一株ノ收量僅ニ二百八十六匁ナレトモ株數多キ爲メ一甲歩ノ收量約二倍ナリ尙昨年大花種平均收量ハ一株百五十二匁ナリシ

小	二	三	四	五	六	七	八	九	十
花	大豆	大豆	大豆	大豆	大豆	大豆	大豆	大豆	大豆
	加里	加里	加里	加里	加里	加里	加里	加里	加里
	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇
	二八五	四八五	五〇〇	四〇〇	四二四〇	四二四〇	四〇〇	七、八六七	一、四四一

第二十一節 機械試驗

本年左記三種ノ機械ニ就キテ試驗ヲ舉行セシカ其ノ成績ハ左ノ如シ

一、安平鎮式釜炒器

從來烏龍茶ノ釜炒ヲナスニ一回ニ數斤ツ、炒熟セラレ多クノ人夫ト生産費トヲ要セシヲ以テ其ノ改良ニ資センカタメ本試驗ヲ舉行セリ

本器ハ商工課田邊屬ノ考案製作ニ係リ別紙寫圖ノ如キ半圓形ノ構造ニシテ之ヲ斜ニ裝置セルモノナ

一、使用法

在來法ノ如ク適宜ノ溫度ニ昇高スルヲ待チ萎凋後ノ茶葉十二、三斤ヲ投シ茶葉ノ焦燒セサル程度ニ初メハ徐々ニ廻轉シ水分ノ減少スルニ連レ漸次廻轉ヲ早カラシメ茶葉ノ反覆廻轉ヲ充分ニシ一様ノ炒熟ニ努ム而シテ一回ノ炒時間ハ溫度ノ高低水分ノ多少ニヨリ差違アレトモ春茶ニアリテハ十分乃至十二三分夏茶以後ノモノニアリテハ七八分間ヲ普通トス茲ニ炒熟中注意スヘキハ火度ニシテ強キニ尖センカ焦燒ヲ生シ弱キニ過クレハ徒ラニ時間ヲ長カラシムルソミナラス往々醱酵ヲ來スノ恐アルヘケレハ適宜ノ溫度ヲ保ツヲ要ス又水分ノ著シク少キ茶葉ハ散亂ニ失セサル様注意ス可シ

二、在來法ト機械釜トノ經濟比較

今本比較ヲナカシカ爲メ假ニ二十萬樽ヲ栽培スルモノトシテ計算セハ次ノ如シ

一 萬樽ノ製茶枚量 一 千 斤

此 生 葉 量 四 千 斤

二十萬樽ノ製茶量 二 萬 斤

此 生 葉 量 八 萬 斤

内春茶生葉量(每枚量ノ四割) 三 萬 二 千 斤

夏茶以降同(同六割) 四 萬 八 千 斤

春茶ノ摘採回数 三回 此日數二十一日ニ付 一千五百二十三斤八

同一日ノ摘採總量 敵ニ春茶中毎日一千五百二十三斤八ノ生葉ヲ製造スルトセハ

在來法ハ

釜八個使用一個一回ノ生葉炒量三斤ニ付 六十三回ト一釜

一樽ノ釜炒時間十分間ニ付此總時間 六百三十五分間

釜八個ニツキ八夫 八人

機械釜ハ

釜二個使用一個一回生葉量十五斤ニ付 五十回ト一釜

一回ノ炒時間十一分半ニ付總時間 五百八十六分半

釜二個ニ付炒人夫 二人

故ニ釜炒人夫律來法八人ニ對シ機械釜二人ナルカ故ニ此差六人

春茶製造日數二十一日ニ付差總人數百二十六人 四十四圓十錢

一人一日ノ賃銀三十五錢トセハ 此外時間上機械釜ハ毎日一時三十七分ヲ利スルカ故ニ二十一日間ニテ三十三時五十七分ヲ利スハ

シ今一日十時間ヲ働キ三十五錢ヲ給スルモノトセハ此賃銀一圓十九錢四厘トナルカ故ニ春茶中ニ

又

夏茶以後ハ製造日數 九十日ニ付

一日ノ摘採量 五百三十三斤三

毎區五百三十三斤三ノ生葉ヲ製スルトセハ

在來法ハ

釜三個使用一個一回三斤ニ付 五十九回ト一釜

一回ノ釜炒時間六分四十二秒ニ付キ總時間三百九十七分間

釜炒人夫 三人

機械釜ハ

釜一個使用一回量生葉十五斤ナルカ故ニ 三十六回

一回ノ釜炒時間八分間ニ付 二百八十八分間

釜炒人夫 一人

釜炒人夫ノ差 二人

夏茶以後製造日數九十日ニ付 百八十八人



一人一日ノ賃銀三十五錢トセハ

六十三圓

更ニ又時間上機械釜ハ毎日五時二十七分ノ利ナルカ故ニ九十日間ニテ四百九十時半トナル今一日十時間ヲ働キ三十五錢ヲ給スルモノトセハ此賃銀十七圓十六錢七厘ナリ故ニ

夏茶以降總利益金

八十圓十六錢七厘

合 計

百二十五圓四十六錢一厘

製茶百斤當利益

六十二錢七厘

而シテ其外薪消費量製茶百斤當

在來法百七十三斤ニ對シ機械釜ハ百二十四斤ニシテ其差四十九斤ナリ今薪百斤價格四十五錢トセハ其金額二十二錢ナルカ故ニ

製茶百斤當合計

八十四錢七厘

即チ機械釜ヲ使用セハ製茶百斤ニ付八十四錢七厘ヲ利スヘシ

品質ノ對照

品質ハ殆ント差異ナク唯タ色澤幾分黒味ヲ帶フルノ嫌アレトモ水色濃厚ナルノ利アリ

二、森田式釜炒器

本機ハ臺北下奎府聚街森田新造氏ノ考案製作ニ係リ一般ノ構造裝置等殆ント安平鎮式ニ近似セリ

一、使用法

使用法竝ニ使用上ノ注意等安平鎮式ニ等シキモ一回ノ炒量ハ生葉十八斤ヲ以テ適量トシ一回ノ釜炒

時間ハ春茶中平均十四分十二秒ニシテ夏茶以降十一分四十二秒トス

二、在來法トノ經濟比較

今本比較ヲナサンカ爲メ假ニ二十萬圓ヲ栽培スルモノトシテ計算スレハ次ノ如シ

一萬圓製茶收量

一千斤

此生葉量

四千斤

二十萬圓製茶量

二萬斤

此生葉量

八萬斤

內春茶生葉量(年收ノ四割)

三萬二千斤

夏茶以降量(同六割)

四萬八千斤

春茶摘採日數

二十一日

同一日ノ摘採量

一千五百二十三斤八ニ付

在來法ニアリテハ

(生葉ノ都合ニヨリ一回量三斤八四トセリ)

春茶中毎日釜八個使用一個一回ノ炒量三斤八四ニ付 四十九回ト五釜

一回ノ釜炒時間十一分ニ付

五百五十分間

森田式釜ハ

釜二個使用一個一回炒量十八斤ニ付

一回ノ炒時間十四分十二秒ナルカ故ニ

四十二回ト一釜

又

六百三十三分間

夏茶以降製造日數

九十日ニ付八三

一日ノ摘採量
 在來法ニアリテハ毎日
 五百三十五斤三

釜三個備用一個一回炒量三斤八匁ニ付
 一回ノ炒時間五分間ナルカ故ニ
 四十六回ト一釜
 三百七十八分間

機械釜ハ

釜一個使用一個一回量十八斤ニ付
 一回炒時間十一分四十二秒ナルカ故ニ
 三十四回
 三百五十一分間

春茶中在來法ハ釜炒人夫釜八個ニ付
 八人
 二人(此差六人)

同森田式釜炒器ヲ使用セス
 三人
 一人(此差二人)

夏茶以降在來法釜三個ニ付
 同森田式釜炒器ヲ使用セス

右ニ依リ春茶期間ノ計算ヲナスニ在來法人夫八人ニ對シ機械釜二人ニテ其差六人今日一人ノ賃銀
 ヲ三十五錢トセハ(以下同シ)一日二圓十錢二十一圓ニテ四十四圓十錢機械使用ノ利益ナレトモ時
 間上一日二人ニテ二十四分ノ不利ヲ生シ二十一日間ニテ五十七時二十四分今日十時間働クト
 セハ(以下同シ)五日ト七時二十四分此賃銀二圓九匁差引四十二圓九匁一匁機械ノ方經濟ナリ夏茶以
 降ハ在來法三人ニ對スル機械一人ニテ其差一日二人ニシテ九十日間ニ百八十八人此賃銀六十三圓トナ
 リ加フルニ時間上一日一時十五分九十日ニテ百十二時三十分此賃銀三圓九十三錢七匁ノ利益トナル

力故ニ計六十六圓九十三錢七匁トナレリ

合計

一百九圓二錢八匁

製茶百斤當

五十四錢五匁

即是レ機械釜使用ノ利益ナリ

二、品質比較

臺北茶商公會ニテ審査セシ成績左ノ如シ

種別	形狀	色澤	水色	香味	釜炒	乾燥	計	價	格	備	考
森田式	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	七種平均一項目定點百點
同最	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	
在來式	低	低	低	低	低	低	低	低	低	低	八種平均
同最	低	低	低	低	低	低	低	低	低	低	
同最	低	低	低	低	低	低	低	低	低	低	
同最	低	低	低	低	低	低	低	低	低	低	
同最	低	低	低	低	低	低	低	低	低	低	

當場審査成績次ノ如シ

形	定點	狀	色	澤	水	色	香	味	計
高	三〇	高	高	高	高	高	高	高	一〇〇
低	三〇	低	低	低	低	低	低	低	一〇〇

森田式	一五〇	二二四	一一六	一二七	五〇七
在來式	一四八	一一五	一一八	一三一	五一三

六四

以上二審査成績ニヨレハ當場審査ノ内形狀ヲ除ク外ハ各項共在來法良好ニシテ殊ニ重要ナル香味點數ノ差大ナルヲ知ルヘシ

三、臼井式揉捻機

本機ハ別紙圖面ノ如キ構造ニシテ臺北府後街吉田潔氏ノ依頼ニ係ルモノナリ

一、使用法

釜炒終了セル茶葉六釜分(生葉十八斤位)ヲ投容シ廻轉シツ、器上ニ裝置セルハンドル竝ニ齒車ニヨリ蓋ヲ上下シ茶葉ノ反轉ヲ自由ナラシムルト共ニ揉捻ヲ堅カラシメ器外ニ散出スル茶葉ヲ臺上ニ備ヘル鐵鑰ニヨリテ掻キ入レツ、揉捻ス揉捻時間ハ葉ノ老幼、硬軟ニヨリ差違アレトモ本試驗ヲ施行セシ秋季茶葉ハ普通六分間ニシテ終了セリ

一、今假ニ二十萬圓ヲ栽培スルモノトシテ在來法トノ經濟比較ヲセハ望月式ト同シク製茶百斤當リ利益金五十五錢三厘トナレリ又望月式揉捻機ト比較セハ

臼井式ハ容量生葉十八斤位ヲ適度トシ其所要揉捻時間ハ普通六分間ニシテ望月式ハ同シク十五斤ノ

以上二審査成績ニヨレハ當場審査ノ内形状ヲ除クノ外ハ各項共在來法良好ニシテ殊ニ重要ナル香味
點數ノ差大ナルヲ知ルヘシ

三、白井式揉捻機

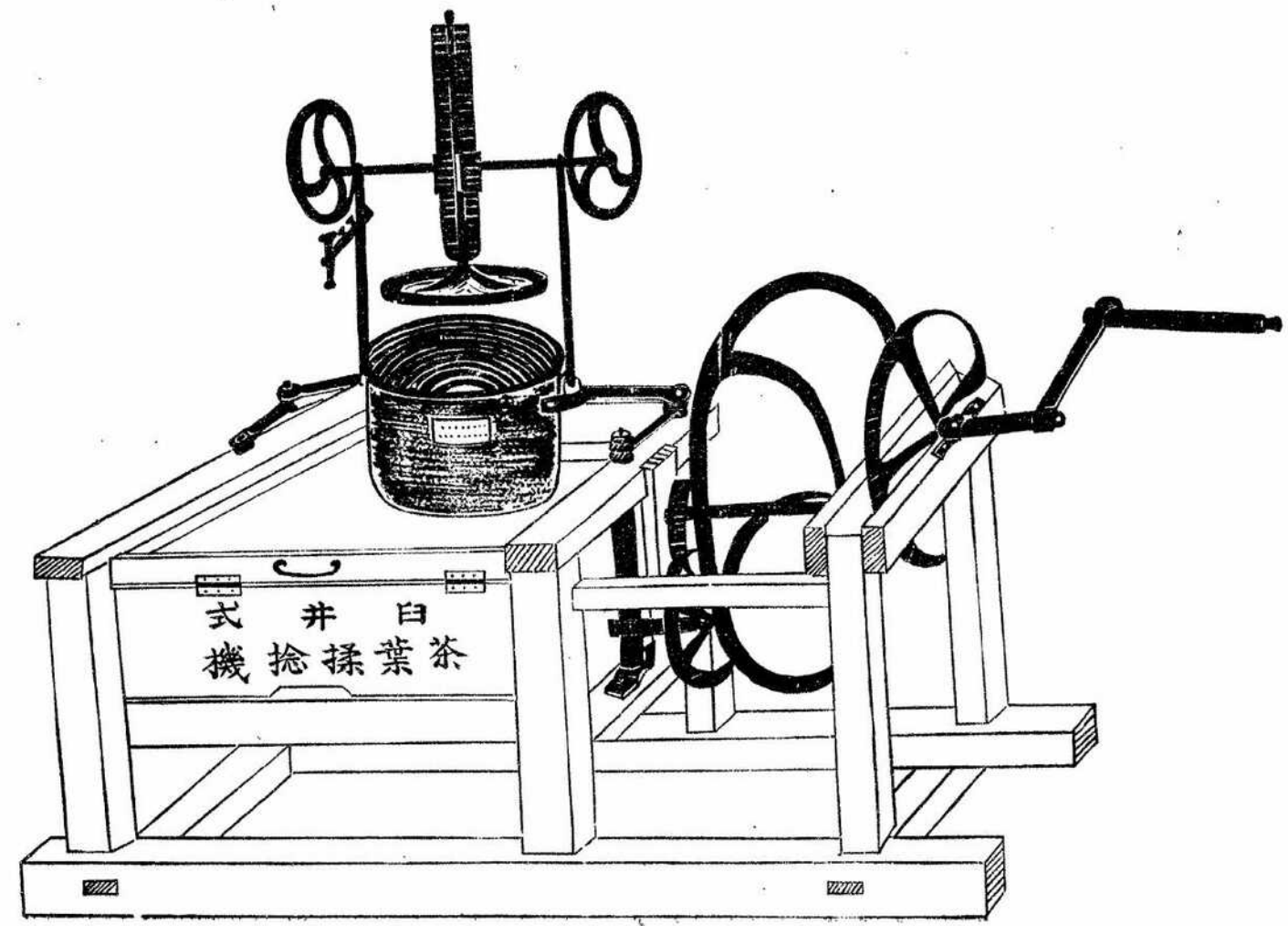
本機ハ別紙圖面ノ如キ構造ニシテ臺北府後街吉田潔氏ノ依頼ニ係ルモノナリ

一、使用法
釜炒終了セル茶葉六釜分(生葉十八斤位)ヲ投容シ廻轉シツ、器上ニ裝置セルハンドル竝ニ齒車ニヨ
リ蓋ヲ上下シ茶葉ノ反轉ヲ自由ナラシムルト共ニ揉捻ヲ堅カラシメ器外ニ散出スル茶葉ヲ臺上ニ備
ヘル鐵籠ニヨリテ掻キ入レツ、揉捻ス揉捻時間ハ葉ノ老幼、硬軟ニヨリ差違アレトモ本試驗ヲ施行
セシ秋季茶葉ハ普通六分間ニシテ終了セリ

一、今假ニ二十萬繼ヲ栽培スルモノトシテ在來法トノ經濟比較ヲセハ望月式ト同シク製茶百斤當リ
利益金五十五錢三厘トナレリ又望月式揉捻機ト比較セハ

白井式ハ容量生葉十八斤位ヲ適度トシ其所要揉捻時間ハ普通六分間ニシテ望月式ハ同シク十五斤ノ

白井式揉捻機



白井式
茶葉揉捻機

裏面白紙



五分間ナルカ故ニ製茶百斤當リハ共ニ二時十三分間ニシテ揉捻時間ニ於テ毫モ差違ヲ認メス
 二、品質比較

當場審査成績左ノ如シ

種別	形状	定點	色澤	水色	香味	揉捻	計	價格	備	考
望月式		一五二	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	九種平均	
白井式		一四六	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	十種平均	

臺北茶商公會ノ審査成績ヲ舉クレハ左ノ如シ

種別	形状	定點	色澤	水色	香味	揉捻	計	價格	備	考
望月式		六四〇	六四〇	六三三	六三〇	六二五	六二〇	六二〇	八種平均	
白井式		六〇〇	六〇〇	五八八	五八五	五八〇	五七五	五七〇	九種平均	

右ノ成績ニ據レハ白井式ハ望月式ニ比シ當場審査ニアリテハ形状六分、色澤二分、水色四分、香味三分、計點數一點五分落チトナリ茶商公會ノ鑑定ニアリテハ合計點數二點二分價格百斤ニ付一圓十二錢五厘落チニシテ白井式不良ノ成績ヲ示セリ

年月	水分	粗灰分	生葉ニ對スル百分率トス
八月	水分	粗灰分	百分率
同	水分	粗灰分	百分率
九月	水分	粗灰分	百分率
同	水分	粗灰分	百分率
十月	水分	粗灰分	百分率
同	水分	粗灰分	百分率
全年平均	水分	粗灰分	百分率
同	水分	粗灰分	百分率

備考 水分及粗灰分ハ生葉ニ對スル百分率トス

一一一區乃至一一三區及一一八區ハ殆ント平地(丘下)一一三區乃至一一三四區ハ(丘上)ノ平地ニシテ一一四區乃至一一六區ハ緩傾斜地(丘下)ニ位置セリ

各區ノ水分及灰分試驗箇數ニ乃至四種(生葉多少ニヨリ)ヲ採リ普通水分試驗法ニヨル水分

試驗ハ各月製茶摘採期ニ於テ午後一時ヨリ二時ノ間ニ採收セリ
右ノ成績ニ據レハ各區僅少ナル差アレトモ平均ヨリ見ルニ水分ハ四月最多ニ五、六ト月ヲ追フテ減少シ七月少ニ又八月ニ至リ増加シ尙ホ月ト共ニ減少シ十月最少トナレリ

灰分ハ右ニ反シ四月最少ニ順次七月迄大トナリ八月少ニ十月ニ至リ最多量ヲ示セリ之ニ依リテ見ルニ水分及灰分ノ多少ハ必スシモ品質ノ良否ニ比例セザルモノ、如シ然レトモ四月ノ如キ水分過多ニ

シテ灰分過少ナル時ハ一般ノ理論ヨリ見ルモ香味ノ稀薄ナルヲ示スモノナリ即チ四月ヲ除ク他ハ其差僅少ナルニ係ハラズ品質ニ比較的著シキ差ヲ示スハ含有成分ノ差異アルニ由ルヘク日光ノ強弱、降雨ノ斷續、土壤中所含成分ノ差異季節ニ依ツテ濕温兩度昇降度合等ノ複雑ナル關係アルヘキヲテ單ニ四季生葉ノ水分及灰分ノ多少ヲ以テ直チニ其ノ品質ヲ云爲スル能ハサルモ水分及灰分力反比例ヲナシ水分ハ或ル程度迄少ナルヲ又灰分ハ或ル程度迄多量ナル事ハ必要ナルモノ、如シ施肥有無ニ於テ水分及灰分ノ差異ヲ見ルニ施肥區ハ無肥區ヨリ若干水分ハ多量ニ灰分ハ少量ナル感アレトモ其差極メテ微ナルヲ見レハ又以テ品質ヲ云爲スル能ハサルヲ知ルニ足ルヘシ
次ニ注意スヘキ一事項ハ第一一四區ヨリ一一六區ハ植付ニ於テハ他ノ區ト差ナキモ臺刈後ノ年數約五年長キニ係ハラズ他ノ各區ヨリ一〇パーセント以上ノ水分多量ニシテ殊ニ一一四、一一五兩區ノ品質ハ他ノ區ニ優越セルナリ(尤モ第一一四及一一五ノ兩區ハ製茶試驗ナルヲ以テ他ノモノヨリ著シク稚芽ヲ摘採セルナリ)
今次ニ(ロ)茶樹變リ芽回數伸長度(ハ)各區一標宛平均生葉收穫量(ニ)月及區別平均審査點數等ヲ表示スレハ左ノ如シ

(ロ)茶樹變リ芽回數及伸長度

施肥有無	區名												計	回變 數芽									
	開 全 作 試 驗	同 全 作 試 驗	無 肥 作 試 驗	無 肥 作 試 驗	無 肥 作 試 驗	無 肥 作 試 驗	無 肥 作 試 驗	無 肥 作 試 驗	無 肥 作 試 驗	無 肥 作 試 驗	無 肥 作 試 驗	無 肥 作 試 驗											
四月	1.000	0.915	0.820	0.725	0.630	0.535	0.440	0.345	0.250	0.155	0.060	0.965	0.870	0.775	0.680	0.585	0.490	0.395	0.300	0.205	0.110	0.015	
五月	0.850	0.765	0.670	0.575	0.480	0.385	0.290	0.195	0.100	0.005	ナシ	0.805	0.720	0.625	0.530	0.435	0.340	0.245	0.150	0.055	ナシ	0.915	
六月	0.700	0.615	0.520	0.425	0.330	0.235	0.140	0.045	ナシ	ナシ	ナシ	0.655	0.570	0.475	0.380	0.285	0.190	0.095	0.000	ナシ	ナシ	0.765	
七月	0.550	0.465	0.370	0.275	0.180	0.085	0.000	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	0.505	0.420	0.325	0.230	0.135	0.040	0.000	ナシ	ナシ	ナシ	0.615	
八月	0.400	0.315	0.220	0.125	0.030	0.000	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	0.355	0.270	0.175	0.080	0.000	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	0.465	
九月	0.250	0.165	0.070	0.000	0.000	0.000	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	0.205	0.120	0.025	0.000	0.000	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	0.315	
十月	0.100	0.015	0.000	0.000	0.000	0.000	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	0.055	0.000	0.000	0.000	0.000	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	0.165	
計	5.100	4.215	3.320	2.425	1.530	0.635	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	4.155	3.270	2.375	1.480	0.585	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	5.215

備考 伸長度及回数ハ各區茶樹二權ノ平均數ヲ示セルモノナリ
 右表ニ據レハ各月平均伸長度ハ八月最短ニ六月十月ハ之レニ次キ等シク九、五、七、四月ノ順序ニ増
 加シ四月ヨリ波狀ニ進ミ漸次短縮セリ
 又施肥區ハ無肥區ヨリ長大ニシテ三分ノ一以上二倍ニ及ヒ變リ芽回数施肥區ハ無肥區ヨリ何レモ一

回多カリシナリ

(ハ)一權當摘採量

區名	月別												計	回變 數芽									
	開 全 作 試 驗	同 全 作 試 驗	無 肥 作 試 驗	無 肥 作 試 驗	無 肥 作 試 驗	無 肥 作 試 驗	無 肥 作 試 驗	無 肥 作 試 驗	無 肥 作 試 驗	無 肥 作 試 驗	無 肥 作 試 驗	無 肥 作 試 驗											
四月	1.125	1.040	0.945	0.850	0.755	0.660	0.565	0.470	0.375	0.280	0.185	1.080	0.995	0.910	0.825	0.740	0.655	0.570	0.485	0.400	0.315	0.230	
五月	1.040	0.955	0.860	0.765	0.670	0.575	0.480	0.385	0.290	0.195	0.100	0.995	0.910	0.825	0.740	0.655	0.570	0.485	0.400	0.315	0.230	0.145	
六月	0.890	0.805	0.710	0.615	0.520	0.425	0.330	0.235	0.140	0.045	ナシ	0.845	0.760	0.675	0.590	0.505	0.420	0.335	0.250	0.165	0.080	0.795	
七月	0.740	0.655	0.560	0.465	0.370	0.275	0.180	0.085	0.000	0.000	0.000	0.695	0.610	0.525	0.440	0.355	0.270	0.185	0.100	0.015	0.000	0.705	
八月	0.590	0.505	0.410	0.315	0.220	0.125	0.030	0.000	0.000	0.000	0.000	0.545	0.460	0.375	0.290	0.205	0.120	0.035	0.000	0.000	0.000	0.555	
九月	0.440	0.355	0.260	0.165	0.070	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.395	0.310	0.225	0.140	0.055	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.405	
十月	0.290	0.205	0.110	0.015	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.245	0.160	0.075	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.255	
計	4.980	4.095	3.200	2.305	1.410	0.515	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	3.935	3.050	2.155	1.260	0.365	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	4.095

備考 一、一權當摘採量トハ各區二權ノ收量ヲ平均シタルモノナリ
 二、摘採ハ普通摘採期ニ之ヲナセシモ供試茶樹ノミ摘採ナカラン時ハ回数ニ起算セス

種名	月別												計	回變 數芽	
	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	計	回變 數芽						
大有種	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	1.0
枝蘭種	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	1.0
黃柑種	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	1.0
字治種	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	1.0
香圓種	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	1.0
埔心種	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	1.0
漢口種	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	1.0
印度種	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	1.0
福州種	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	1.0
平均	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	789.5	1.0

(口)茶樹變り芽回数及伸長度

種名	月別												計	回變 數芽	
	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	計	回變 數芽						
青心種	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0
白毛猴種	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0
白心種	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0
紅心種	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0
大有種	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0

種名	月別												計	回變 數芽	
	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	計	回變 數芽						
枝蘭種	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0
黃柑種	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0
字治種	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0
香圓種	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0
埔心種	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0
漢口種	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0
印度種	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0
福州種	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0
平均	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0

備考 伸長度及回数ハ各區二權ノ平均數ナリ

(ハ)一權當摘採量

種名	月別												計	回變 數芽	
	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	計	回變 數芽						
青心種	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
白毛猴種	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
白心種	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
紅心種	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
大有種	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0

月別平均	福州種	印度種	漢口種	香園種	字治種	黃柑種	枝蘭種
10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0
12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0
13.0	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0
14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0
15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0
16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0
17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0
18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0
19.0	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0
20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
21.0	21.0	21.0	21.0	21.0	21.0	21.0	21.0
22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0
23.0	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0
24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0
25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0
26.0	26.0	26.0	26.0	26.0	26.0	26.0	26.0
27.0	27.0	27.0	27.0	27.0	27.0	27.0	27.0
28.0	28.0	28.0	28.0	28.0	28.0	28.0	28.0
29.0	29.0	29.0	29.0	29.0	29.0	29.0	29.0
30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0
31.0	31.0	31.0	31.0	31.0	31.0	31.0	31.0

備考 摘採ハ普通摘採期ニ之ヲナセシモ供試茶櫃ノミ摘採ナカリシ時ハ回数ニ差算セス
(ニ)季及種別審査點數

季節	種名	青心	白毛	白心	紅心	大右	枝蘭	黃柑	字治	香園	漢口	印度	福州	平均
春	青心	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
夏	白毛	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0
秋	白心	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0
冬	紅心	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0
全年平均	大右	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0
	枝蘭	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0
	黃柑	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0
	字治	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0
	香園	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0
	漢口	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0
	印度	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
	福州	21.0	21.0	21.0	21.0	21.0	21.0	21.0	21.0	21.0	21.0	21.0	21.0	21.0
	平均	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0

全年平均	秋季	夏季
計香水色形	計香水色形	計香水色形
味色澤狀	味色澤狀	味色澤狀
10.0	10.0	10.0
11.0	11.0	11.0
12.0	12.0	12.0
13.0	13.0	13.0
14.0	14.0	14.0
15.0	15.0	15.0
16.0	16.0	16.0
17.0	17.0	17.0
18.0	18.0	18.0
19.0	19.0	19.0
20.0	20.0	20.0
21.0	21.0	21.0
22.0	22.0	22.0
23.0	23.0	23.0
24.0	24.0	24.0
25.0	25.0	25.0
26.0	26.0	26.0
27.0	27.0	27.0
28.0	28.0	28.0
29.0	29.0	29.0
30.0	30.0	30.0
31.0	31.0	31.0

備考 一、青心種ノ春季製茶ハ摘採茶芽著シク大ナリシ爲メ審査點數少ナシ
 一、春季審査點ハ標準高カリシ爲メ各季比較シ難シ
 一、審査點數ハ水分試驗ヲナセル製茶ノミノモノヲ記入セリ
 一、各種類ハ三四年木ナリ
 (イ)表ニヨリテ見ルニ白毛猴及埔心種ハ水分最多ニ福州種最モ少ニ香園、枝蘭、黃柑、漢口、白心ノ各

種ハ第二位ニ宇治、大有、紅心ノ各種ハ第三位ニアリ
 灰分ハ白毛猴最多ニ紅心及福州最少ニシテ宇治、漢口、白心種ハ第二位ニアリ尙埔心、大有、黃柑、香
 圓、枝蘭ノ順次ニテ第三位ニアリ而シテ平均ヨリ見ルニ幼樹ナルヲ以テ水分ハ多ク灰分ハ少ナルモ
 水分ハ春季最多秋季夏季ノ順ニ減少シ灰分ハ之レニ反比例セリ(ロ)表ニ依ルニ紅心及福州ノ伸長度
 最大ニ宇治、黃柑、白心、枝蘭ノ順ヲ示シ香圓及埔心最短ナリ尙白毛猴及青心種モ亦短少ナリ
 之レニヨレハ白毛猴、埔心、香圓ノ如キ水分多量ナルモノハ伸長度短少ニ紅心及福州種ノ如キ伸長度
 大ナルモノハ灰分量少ナリ

前者ハ第一四季水分試験ニ於ケル製茶試験ノ水分ノ多量ナルト同一理由ニ後者ハ明治四十四年ノ試
 驗成績ニ於テ幼莖ハ幼芽ヨリ水分ノ多量ナル理ニヨリ幼莖ノ長キ爲メナラント思惟ス
 (ハ)表ニヨリテ見ルニ白毛猴、青心、埔心ノ如キ水分ノ多量ニ伸長度短少ナルモノハ一般ニ收量少ナ
 ルカ如ク水分伸長度ノ中位ナルモノハ收量大ナルカ如シ(枝蘭、黃柑、白心ノ如キ)
 (ニ)表ノ審査點數ニ於テハ水分試験數少ク且ツ樹齡幼キ爲メ未タ云意スルニ足ラサルニヨリ單ニ參
 考トシテ附記セルモノナリ

第二十三節 大豆粕貯藏試驗

大豆粕ハ貯藏期間ニヨリ如何ナル變化ヲ來スヤヲ試驗スルニアリ

(イ)貯藏中ニ於ケル重量ノ變化及氣候

名	月	日	平均重量	平均増減各月差	同上百分率	各季積算溫度	同右雨量	降雨日數	曇天日數
大豆	三月	十八日	100						
大豆	四月	十八日	100						
大豆	五月	十九日	100						
大豆	六月	十九日	100						
大豆	七月	十九日	100						
大豆	八月	十八日	100						
大豆	九月	十八日	100						
大豆	十月	廿一日	100						
大豆	十一月	廿一日	100						
大豆	十二月	廿一日	100						
大豆	一月	廿一日	100						
大豆	二月	廿一日	100						
大豆	三月	十八日	100						
大豆	全減量								

備考 ×印ハ増量セルモノナリ月日ハ採收期日トス

(ロ)貯藏中ニ於ケル含有水分及脂肪ノ變化(原物百分率)

名	試驗日期	水分	脂肪
大豆	五月十九日		
大豆	六月十九日		
大豆	七月十九日		
大豆	八月十八日		
大豆	九月廿九日		
大豆	十月廿一日		
大豆	十一月廿一日		
大豆	十二月廿一日		
大豆	一月廿一日		
大豆	二月廿一日		
大豆	三月廿一日		
大豆	全減量		

ヲ示シ又一箇月平均ハ〇、一四パーセントナリ是レ等無窒素、モキス蛋白質(或ハ非蛋白質窒素化合物)又ハ脂肪等ノ分解飛散セルハ微類中及其他ノ酵素作用ノ結果ニヨルモノナルヘク有機質肥料ノ貯藏ニハ是非微類ノ發生ヲ防カサルヘカラス故ニ其貯藏ハ困難ナルモノニシテ殊ニ五月乃至九月等ノ如キ暑期ニ於テハ貯藏セサルヲ要ス

第二十四節 土地改良方法ニ就キテ

第一 輪作試験

本試験ノ目的ハ土地改良上如何ナル方法手段ヲ採ラハ得策ナリヤヲ知リ以テ綠肥栽培上ノ施設ヲ定メントスルニアリ

第一回試験ハ前年終了シ今第二回試作結果ヲ記セハ次ノ如シ

- 甘藷及米豆ヲ試作シタルニ其生育狀況概要左ノ如シ
- 一、甘藷 前作物ノ栽培ニ於テ圃場ニ殘留セル養料ヲ利用セシムル目的ヲ以テ各區無肥料ニテ栽培セリ但シ第四區ハ比較ノ爲メ施肥セリ
- 一、植付 五月二十二日 一、收穫 十月二十七日
- 二、施肥量反當磷酸 一、二〇〇 夕加里四〇〇 夕ノ割ニシテトーマス磷酸及炭酸加里ヲ使用ス
- 一、株數反當三、六〇〇株

右原土區ニ於テハ第二區(前作綠肥作物施肥栽培)ノ外生育頗ル不良ニシテ殆ント植付當時ト異ナラス寧ろ縮少セルカ如キ區ヲ生スルニ至レリ之レニ反シテ石灰加用區ハ能ク繁茂シ且ツ各區其差ヲ認め難カリシナリ

二、米豆

- 一、播種期 五月五日 一、發芽期 五月九日
- 一、收穫期 七月一日 一、播種量 反當三升

該作物前作物ノ栽培ニ於テ圃場ニ殘留セル養料ヲ利用セシムル目的ヲ以テ各區無肥料ニテ栽培セルニ播種期少シク遅レタルカタメ良好ナル生育ヲ見ルニ至ラザリシモ一般ニ本種ハ酸性土壤ニ能ク生育スルモノナルニモ不拘尙石灰加用區ハ原土區ニ比シ良好ナル生育ヲ示セリ

附記五月末ヨリ蟲害ニ罹リ殊ニ石灰加用區ニ甚タシカリシ

以上ノ成績ヲ表示スレハ左ノ如シ(參考ノ爲メ各試驗區及各區前作物收量ヲ表示セン)

區名	前作物名及同施設	同收量	現作物名及同施設	收穫株數	草丈	結實數	收量
灰石	一、蠶豆(施肥) 二、同(同)	五	一、米豆(無肥) 二、甘藷(無肥)	一五	尺	個	斤
	生草量	五	米豆(無肥) 甘藷(無肥)	一五	尺	個	斤

區用加		區土原						
三同	四同	五同	六同	七同	八同	九同	十同	十一同
(無肥)	(無肥)	(無肥)	(無肥)	(無肥)	(無肥)	(無肥)	(無肥)	(無肥)
生草量	生草量	生草量	生草量	生草量	生草量	生草量	生草量	生草量
20粒(種子)	20粒(種子)	20粒(種子)	20粒(種子)	20粒(種子)	20粒(種子)	20粒(種子)	20粒(種子)	20粒(種子)
石灰加用區各款	石灰加用區各款	石灰加用區各款	石灰加用區各款	石灰加用區各款	石灰加用區各款	石灰加用區各款	石灰加用區各款	石灰加用區各款
常區ニ等シ	常區ニ等シ	常區ニ等シ	常區ニ等シ	常區ニ等シ	常區ニ等シ	常區ニ等シ	常區ニ等シ	常區ニ等シ
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ

備考 (イ) 甘藷蔓量 (ロ) 落量 (ハ) 綠肥生草量 (ニ) 同種實量

以上ノ成績ニヨリテ見ルニ前作ノ影響ヲ被レル事ハ明カナレトモ未タ確然タラス施肥ノ有無カ影響セル事而シテ又石灰加用區ハ原土區ヨリ綠肥作物ニ於テ三倍以上甘藷蔓ニ於テ五割以上落量ニ於テ約三倍以上ノ收穫ヲ示シ石灰加用效果ノ尙顯著ナルヲ示セリ

次キニ第三回試作結果ハ次ノ如シ

首宿、裸麥及朝鮮白菜ヲ試作セシニ其生育概要左ノ如シ

一、首宿 本作物ノ試作ハ前作物ニ對スル肥料ノ尙ホ殘留セルモノアリヤヲ試ミ次テ土地改良上ノ實ヲ舉ケントスルニアリ但シ比較ノ爲メ第七區ハ肥料ヲ使用セリ

播種期十二月七日發芽期十二月十三日收穫期四月二十四日施肥量反當磷酸一、二〇〇㌘加里〇、四〇〇㌘ノ割合ニテトースマ磷肥及炭酸加里ヲ使用ス

播種量反當一石

本試作期ハ例年ノ氣候ニ反シ非常ニ晴天打チ過キ爲ニ各區共ニ生育ヲ妨害セラレタルカ如シ

兩區共發芽歩合ハ良好ナリシモ原土區ハ漸次衰退シ一月中旬ニハ第二、三、四、六ノ各區ハ殆ント枯死シ第七區ハ比較的生育良好ナリ石灰加用區ハ施肥ノ有無トモ其差ヲ認メサリシカ三月初旬ニハ第七區最モ良好ニ第二、三、四、六ノ各區ノ順序ニテ差ヲ生シ來レリ原土區ニアリテハ二月初旬ニハ第七區ハ比較的良好ナルモ他ハ第二區漸ク生育シツ、アル外皆枯死セリ四月初旬ニハ石灰加用區第二及第七ノ兩區原土區第七區ニ於テ開花結實ヲ見タリ

二、裸麥

十二月七日ニ播種シ發芽前鶏ノ被害アリテ三回補種ヲ爲セリ

收穫期五月十三日

施肥量反當窒素二、五〇〇勿磷酸一、二〇〇勿加里一、〇〇〇勿ノ割合ニテ硝酸アンモニア、トーマス磷肥炭酸加里ヲ使用ス

播種量反當三升發芽成育良好ニシテ初期即一月中旬頃迄ハ石灰ノ有無兩區共相當ノ生育ヲ示セリ然レトモ天候不順ナリシ爲メ良好ナル生育トハ認め難シ二月初旬頃ヨリ原土區ハ葉黃色ヲ呈シ石灰加用區ニ比シ著シク劣レルヲ認め三月初旬ニハ兩區共穂孕ミヲ認め四月初旬ニハ兩區共殆ント穂揃セ

三、朝鮮白菜

播種期 十二月七日

發芽期 十二月十一日

施肥量反當窒素二、五〇〇勿ヲ三回ニ分施ス

播種量反當五合

發芽當時ハ良好ナリシモ漸次衰弱シ原土區ニテハ一月中旬ヨリ枯死シ始メ二月初ニハ全部枯死セリ石灰加用區ニテハ一月下旬葉黃色ヲ帯ヒ衰微シ始メ三月中旬全部枯死セリ爲ニ其結果ヲ見ル能ハサ

リキ 收穫成績ハ左ノ如シ

區名	作物名及施設	收穫株數	草丈	結實量	生草量
第一區	朝鮮白菜 (窒素加用)	枯死	尺	〇	〇
第二區	同 (無肥加用)	〇	〇	〇	〇
第三區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第四區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第五區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第六區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第七區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第八區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第九區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第十區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第十一區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第十二區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第十三區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第十四區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第十五區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第十六區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第十七區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第十八區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第十九區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第二十區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第二十一區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第二十二區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第二十三區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第二十四區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第二十五區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第二十六區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第二十七區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第二十八區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第二十九區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第三十區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第三十一區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第三十二區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第三十三區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第三十四區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第三十五區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第三十六區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第三十七區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第三十八區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第三十九區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第四十區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第四十一區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第四十二區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第四十三區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第四十四區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第四十五區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第四十六區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第四十七區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第四十八區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第四十九區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第五十區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第五十一區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第五十二區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第五十三區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第五十四區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第五十五區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第五十六區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第五十七區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第五十八區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第五十九區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第六十區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第六十一區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第六十二區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第六十三區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第六十四區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第六十五區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第六十六區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第六十七區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第六十八區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第六十九區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第七十區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第七十一區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第七十二區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第七十三區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第七十四區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第七十五區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第七十六區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第七十七區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第七十八區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第七十九區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第八十區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第八十一區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第八十二區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第八十三區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第八十四區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第八十五區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第八十六區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第八十七區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第八十八區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第八十九區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第九十區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第九十一區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第九十二區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第九十三區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第九十四區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第九十五區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第九十六區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第九十七區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第九十八區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第九十九區	同 (同)	〇	〇	〇	〇
第一百區	同 (同)	〇	〇	〇	〇

備考 原土區ニ於ケル作物名及施設ハ石灰加用區ニ於ケルモノニ同シ
以上ノ成績ニ據レハ原土區ニアリテハ葎科植物ハ現作ニ於ケル施肥ノ有無ニ影響多ク前作養分殘留

於テ原土區ハ石灰加用區ノ如ク後作ニ良結果ヲ與フル事少ナキヲ示セリ是レ從來ノ試驗結果ヨリモ殊ニ冬作ニ於テ斯ノ如キ結果ヲ見ル事多シ是レハ酸性土壤ナルガ故然ルナラン歟要スルニ莖葉類ハ其ノ栽培ニ適セサルモノ、如シ

石灰加用區ニ於テハ以上三回ノ試作結果ニ徴スルニ前作物ノ種類如何ハ其ノ後作タル綠肥作物ノ栽培上ニ左シタル差異ヲ來サ、ルヲ見ル又タ石灰加用區ト原土區ト未ダ其ノ經濟的比較ヲナサスト雖モ石灰加用區ニ利アルモノ、如シ即チ該試驗地ニハ明治四十四年十月炭酸石灰ヲ以テ反當石灰六十九貫百六十匁ヲ施用シ當時石灰施用前ノモノハ酸度四六耗二、施用後ノモノハ同一耗六ヲ示セリ爾後二箇年半五回ノ試作ヲ爲セシモ石灰加用區ハ常ニ良好ナル成績ヲ呈シ其ノ原土ニ於ケルモノハ甚ク不良ナルヲ免レス

第二 石灰加用量試驗

本試驗ハ本年始メテ舉行シ石灰施用量ノ多少ト茶樹生育トノ關係竝ニ綠肥作物、燒土、泥土等ト如何ナル交渉ヲ有スルヤヲ知ラントスルヲ以テ目的トス

其一 茶 樹

手入(培土) 七月二十五日 十二月十七日

病蟲害 葉卷蟲及蓇蟲ノ被害アリシモ時々驅除ス

生育狀況ハ最初各區大差ナカリシモ漸次變化ヲ生シ石灰加用量ノ多キニ從ヒ衰退シ石灰二パーセント加用區ハ九月頃ヨリ次第ニ枯死シ又石灰一パーセント加用區ハ十一月頃ヨリ枯死セリ餘區各區ヲ示セハ表ノ如シ

區番	試 驗 區 名	茶樹(高度)	同上平均	同上比率	備 考
一	原土燒土加用	1.01m	0.910	1.000	原土ノ燒土ヲ千五百貫加用區
二	無加用	0.87m	0.87m	0.870	燒土ノ燒土千五百貫加用
三	完全肥料	0.90m	0.90m	0.900	反當 窒素 1.000 加里 1.000
四	泥土燒土加用	0.87m	0.87m	0.870	泥土三千貫加用
五	完全肥料	0.90m	0.90m	0.900	無肥區 內一樹枯死
六	石灰二パーセント加用	0.81m	0.81m	0.810	無肥區 內一樹枯死
七	石灰一パーセント加用	0.87m	0.87m	0.870	無肥區 內一樹枯死
八	同	0.87m	0.87m	0.870	無肥區 六枝ノ内一樹枯死
九	同	0.87m	0.87m	0.870	無肥區 六枝ノ内一樹枯死
十	同	0.87m	0.87m	0.870	無肥區 六枝ノ内一樹枯死
十一	同	0.87m	0.87m	0.870	無肥區 六枝ノ内一樹枯死
十二	同	0.87m	0.87m	0.870	無肥區 六枝ノ内一樹枯死

表一

八	石灰 〇、五パーセント加用	OKK	OKK	無肥區	十一二等
十三	同	OKK	OKK	無肥區	十一二等
九	石灰 〇、二五パーセント加用	OKK	OKK	無肥區	十一二等
十四	同	OKK	OKK	無肥區	十一二等
二十	同	OKK	OKK	無肥區	十一二等
十	石灰 〇、一パーセント加用	OKK	OKK	無肥區	十一二等
十五	同	OKK	OKK	無肥區	十一二等

備考 施肥綠肥栽培區ハ茶樹ニ施肥セス綠肥作物ニ施用ス茶樹々勢ヲ示セルハ各區茶ニ種中六
枝條各茶權ノ樹勢ヲ代表スルモノ各權三枝條ヲ選ヒ枝條ヲ測リ平均セル數ナリ石灰ハ原
土重量ニ對スルモノナリ

以上ノ成績ヨリ茶樹ノ生育ヲ見ルニ燒土最モ良好ニシテ完全肥料泥土加用、無肥石灰〇、一パーセ
ント加用區、同〇、二五パーセント加用區、同〇、五パーセント加用區、同一パーセント加用區、石灰二
パーセント加用區等順次相亞ケルモ前三者ハ大差ナシ石灰加用區ニアリテハ其ノ量ノ増加ニ伴ヒ茶
樹ノ生育不良ナルヲ見ル故ニ石灰加用最多キニ過クレハ寧ろ茶樹ノ生育ヲ害スルモノ、如ク而カモ
其品質ニ關シテハ未タ之ヲ云爲スルヲ得ス而シテ綠肥作物ヲ栽培スル場合ニハ石灰ト有機質トノ
特殊ナル作用ヲ利用シ其土性ヲ良好ナラシムル爲メニ或ハ適量ノ石灰ヲ要スルモノナランモ其ノ

加用量反當炭酸石灰トシテ三〇七貫以上ハ不適當ナルカ如シ而シテ當場試驗地ノ如キ有機質ニ乏シ
キ土壤ニ於テハ石灰ノ効果未タ著シカラサルモノアルカ如シ
目下茶園肥料經濟ヲ計ランカ爲メ綠肥作物ヲ栽培セントスルニハ種類ニヨリテ多少差アル可キモ從
來ノ試驗ニ徴スレハ約〇、二五パーセント餘ノ石灰ヲ加用シタルモノハ原土ニ栽培セルモノヨリ數
倍ノ收量ヲ認メタリ尙ホ加用石灰ノ適量ヲ知ランカタメ本試驗區内ニ數種ノ綠肥作物ヲ栽培セリ其
成績ハ左ノ如シ

其二 綠肥作物

第一回ニ首稻ヲ栽培シ大正二年五月七日各該當區ニ鋤込ミ(大正元年度報告參照)其後米豆、羊角豆
蠶豆ヲ順次間作シ米豆羊角豆ハ各栽培該當區表土一般ニ蠶豆或ハ各栽培區へ等量即チ三百五十匁ヲ
且茶權ノ周圍ニ鋤込ミタリ
紅豆 五月十五日播種七月八日收穫七月十日鋤込ミラナス(肥料ハ過磷酸石灰及硫酸加里ヲ使
用ス)
烏豆 七月二十五日播種セシモ發芽セス腐敗セリ依テ其儘羊角豆ヲ以テ之レニ代ユ(肥料ハト
ーマス磷肥及硫酸加里ヲ使用ス)
羊角豆 八月十三日播種十二月八日收穫同十日鋤込ミラナス(肥料ハ烏豆ノモノヲ其儘使用ス)

豆 十二月十七日播種大正三年四月十日收穫四十三日備込ヲナス(肥料ハトーマス糞肥及炭酸加里ヲ使用ス)

(イ) 豆

本種ハ發芽歩合良好ニシテ生育狀況ハ當初石灰加用量ノ多量ナルモノ良好ナリシカ漸次不良トナリ石灰加用量〇、二五パーセント内外ノモノ最良好トナリ原土區ニアリテ最良區ハ又良好トナレリ六月中旬ヨリ葉薄葉ノ被害アリタシハ時々驅除セリ七月上旬ニ至リテ生育良好ナル區(十四、十三、十五、十七)ニハ饑病ノ如ク葉面ニ褐色ノ斑點ヲ現セリ不良ナル區(十一、十二、十八、十九)ヲ除キ一輪宛開花ヲ認メ又最良ナル區ハ結實ヲ認ムルニ至リ七月八日之ヲ收穫セリ其ノ成績左ノ如シ

項目	十一 石灰二貫匁 施肥	十二 同一貫匁 同	十三 同五百匁 同	十四 同二百五十匁 同	十五 同百匁 同	十六 原土加用
發芽株數	3	2	1	1	1	1
收穫株數	3	2	1	1	1	1
草丈	100	100	100	100	100	100
生草量	30	25	20	15	10	10
結實數	1	1	1	1	1	1
收穫有無	中	中	多	多	中	中
備	三、二ノ區ハ播種後ハ雨澤多クセルモノアリシテハ雨澤少クセルモノナリ					

項目	十七 原土施肥	十八 原土無肥	十九 原土補土	二十 石灰二百五十匁
發芽株數	3	3	3	3
收穫株數	3	3	3	3
草丈	100	100	100	100
生草量	30	30	30	30
結實數	1	1	1	1
收穫有無	中	中	中	多

右ニヨレハ石灰ノ多量ヲ施用セシモノハ良好ナラス〇、二五パーセント加用ノモノ最良好ナリ原土區ニアリテ最良區ハ又良好ナル結果ヲ示セリ是レ豆ハ從來ノ試驗結果ニヨリテ原土區ニテ良好ナル成績ヲ呈シ其性質酸性土壤ニ抵抗シ得ルモノ、如ク悉テ多量ニ石灰ヲ加用スル必要ナキモノ、如シ

(ロ) 羊角豆

羊角豆ノ發芽歩合ハ概シテ不良ニシテ其最良ナルモノ七、四パーセント最劣ナルモノ二、六パーセント平均四、四パーセントナリ
生育狀態ハ一般ニ緩慢ナリシモ石灰加用區ハ最初比較的良好ニシテ原土區ハ發芽後多クハ枯死セリ時日ノ經過ニ伴ヒ石灰加用量〇、五パーセント以下ノモノハ良好ナリシモ其ノ以上ノモノニアリテハ葉色黄味ヲ帯ヒ草勢微弱ナリシ又々原土區ハ葉色良好ナリシモ草勢頗ル衰弱シ居レリ要スルニ本試驗期ハ草魁ナリシニヨリ一般ニ生育不良ナルノ感アリキ

收穫成績左ノ如シ

區別	發芽株數	收穫株數	草丈	生草量	結實有無	根腐
十一 石灰二貫匁 施肥	124	111	0.11	1.00	無	缺
十二 同一貫匁 同	113	100	0.11	0.80	無	同
十三 同五百匁 同	113	100	0.11	0.80	無	同
十四 同二百五十匁 同	113	100	0.11	0.80	無	同
十五 同百匁 同	113	100	0.11	0.80	無	同
十六 泥土加用	113	100	0.11	0.80	無	同
十七 原土施肥	113	100	0.11	0.80	無	同
十八 原土無肥	113	100	0.11	0.80	無	同
十九 原土燒土	113	100	0.11	0.80	無	同
二十 石灰二百五十匁 無肥	103	90	0.10	0.70	同	同

備考 播種畝ハ一區三十瓦(二十五路)二千二百五十六粒ナリ

右表ニヨレバ石灰加用區ハ發芽歩合及ヒ生育狀況共ニ良好ナリ生草量ハ〇、五パーセント加用區最良ニシテ石灰加用量ハ之レヨリ増加スルモ減少スルモ共ニ漸次減收ヲ示シ原土區ハ絕對ニ不良ナリ本試作期ハ早魃ナリシタメ其ノ正確ヲ期シ難シト雖モ羊角豆ハ豇豆ニ比シ石灰ヲ要スルコト多量ナ

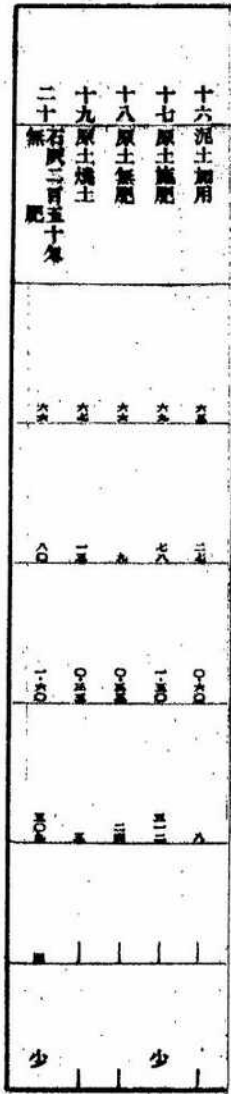
ヲ知ル可シ

(ハ) 豇豆

石灰加用區ハ發芽歩合生育狀況共ニ良好ニシテ(發芽歩合一〇〇パーセント)ニ及フ草勢モ亦頗ル佳良ナリ原土區ニアリテハ一般不良ニシテ葉ハ萎縮セリ最初ハ石灰加用量ノ多キニ從ヒ良好ナリシモ漸次變化シ二月末ニハ〇、五パーセント加用區最良好ナル草勢ヲ呈スルニ至レリ同時ニ一、〇パーセント及〇、五パーセント加用區ハ開花ヲ認メタルニ泥土加用、無加用及燒土加用區ノ如キハ下葉黒色トナリ大半枯凋セリ

石灰加用區ハ前陳ノ如クシテ生育益々良好ニ三月末ニハ開花セルモノ多ク結實ヲ認ムルニ至レリ原土區ハ各區共ニ大半枯死シ其ノ株ノ根部ハ凡テ腐蝕糜爛セルヲ見タリ

區別	發芽株數	收穫株數	草丈	生草量	結實有無	根腐有無
十一 石灰二貫匁 施肥	72	67	1.10	1.00	有	中
十二 同一貫匁 同	72	67	1.10	1.00	有	同
十三 同五百匁 同	72	67	1.10	1.00	有	同
十四 同二百五十匁 同	72	67	1.10	1.00	有	同
十五 同百匁 同	72	67	1.10	1.00	有	同



右ノ成績ニヨレハ羊角豆ニ於ケルト同シク石灰加用區ノ發芽及生育共ニ頗ル良好ナルヲ見ル就中
 ○五パーセント加用區ハ最も良好ニシテ之レヨリ石灰加用量ノ増加若クハ減少スルモ共ニ不良ニ
 シテ石灰加用區無肥區(第二十區○、二五パーセント加用)ハ原土ニ於ケル施肥區ヨリモ良好ナル結
 果ヲ示セリ

豆カ他ノ綠肥作物ニ比シ著シク其ノ收量ヲ増加セルハ一ツハ種類ノ好適ニヨルヘシト雖モ尙ホ前
 作綠肥ヲ備込ミシヨリ土性ヲ改善セルニヨルモノナランカ以上ノ推論ハ從來豆ヲ試作セルニ石灰
 ヲ加用シ且ツ多量ノ無機肥料ヲ施肥シタルニモ拘ラズ常ニ根瘤ヲ生成セス且ツ收量甚多少カリシニ
 〔同一種子ヲ以テ磷酸肥料種類試験及茶園改良經濟試驗(本報告參照)モ然リ〕大正元年度ニ於ケル綠
 肥栽培試驗報告中有機質肥料(土糞ト稱スル肥料)ト豆栽培培トノ關係試驗ノ結果ヲ見ルニ有機質肥
 料ヲ施シタルモノハ多量ノ無機質肥料ヲ施用セシモノヨリ頗ル良好ナル結果ヲ來シ且ツ多量ノ根瘤

ヲ生成セリ是レニヨリテ觀レハ綠肥備込カ土性ノ改善ヲ補助スルヲ知ルニ足ルヘシ
 要スルニ茶樹栽培ニ於テハ勿論綠肥作物栽培ニ於テモ○、五パーセント以上ノ石灰(炭酸石灰トシ
 テ)ヲ加用スル事ハ絕對ニ不得策ナルヲ知ルヘク而シテ茶樹及綠肥ノ生育狀況ヨリ經濟問題ニ對シ
 スレハ石灰○、二五パーセント内外ヲ加用スルヲ得策ナリトスルモノ、如キモ綠肥備込ト土性ノ變
 化ト作物トノ關係等ハ尙ホ試驗ヲ重ネテ其ノ得失ヲ斷定スルトコトコトアルヘシ

第二十五節 茶園改良經濟試驗

本試驗ノ目的ハ金肥ト綠肥トノ茶樹ニ及ホス影響ヲ研究シ其施設ヲ定メントスルニアリ

(イ) 調査事項

- 一、土壤酸度及土壤ノ全成分(土性ノ變化ヲ含ム)
- 二、綠肥作物ノ收量
- 三、茶葉ノ收量
- 四、製茶ノ品質
- 五、茶ノ成分ノ差異

(ロ) 試驗圃場

本圃場ハ既成茶園ニ定ム

第一圃場ハ緩傾斜地ニシテ各試験區ハ四十一坪七宛トス
 第二圃場ハ平地ニシテ各試験區ヲ三十一坪一宛トス
 第三圃場ハ緩傾斜地ニシテ各試験區ヲ二十九坪八宛トス

茶 權 數

第一圃場	第二圃場	第三圃場
青心イ 一一九權	六三權	八三權
黄心イ 二	一一	一〇
幼茶權(イ) 一八	一九	一三
第一區 (イ) 一一九	七一	七二
(ロ) 六	一七	二八
第二區 (イ) 一一	二二	一
(ロ) 一一五	七五	七七
第三區 (イ) 八	一一	一八
(ロ) 一六	一	六
(イ) 一一九	七四	六六
(ロ) 七	一七	二八
第四區 (イ) 二二	七	七
(ロ) 七		

(ハ) 試驗區名及細說

第一圃場
 其一 石灰加用施肥綠肥撒播栽培區

其二 石灰加用施肥綠肥條播栽培區
 其三 原土大豆粕施用深耕區
 其四 原土無肥深耕區

第二圃場

其一 石灰加用無肥綠肥撒播栽培區
 其二 石灰加用無肥綠肥條播栽培區
 其三 原土大豆粕施用深耕區
 其四 原土無肥深耕區

第三圃場

其一 原圃燒土加用施肥綠肥栽培區
 其二 原圃窒素加用施肥綠肥栽培區
 其三 原圃加里多用施肥綠肥栽培區
 其四 原圃無肥料綠肥栽培區

(ニ) 石灰加用量

一、全酸度
 各圃場ヲ上下二區ニ分テ各五箇所ヨリ土壤ヲ採取シ能ク混合シテ鹽化加里法ニヨリ檢定セリ
 第一圃場(二區平均) 四六、九毫
 第二圃場(二區平均) 四六、八毫
 二、百鈺土壤重量

第一圃場(四種平均)

最少平均量 一〇一・二五
最多平均量 一一九・〇〇
平均量 一〇一・二五

第二圃場(四種平均)

最少平均量 九七・二五
最多平均量 一一四・二五〇
平均量 一〇五・六八八

三、圃場深土十糎トシテノ土壤重量

第一圃場(各區四一、七坪) 四〇八一貫匁
第二圃場(各區三一、二坪) 二九三九貫匁

四、石灰加用量

右各項ニヨリ算出セル計算中和量ヲ加用セリ

第一圃場 一區加用量(炭酸石灰トシテ)九貫五百七十九匁
第二圃場 一區加用量(炭酸石灰トシテ)六貫八百八十五匁

(ホ)施肥量ト級肥作物播種量

施肥量ハ標準トシテ級肥成分反當一・五〇〇匁加里分七五〇匁、窒素加用區ハ成分反當五〇〇匁加里多用區ハ一・〇〇〇匁ヲ大豆粕施用區ハ茶糶一糎ニ對シ大豆粕二十匁ヲ燒土加用區ハ反當三〇〇、〇〇〇匁ヲ施用スルモノトシト一マニ級肥炭酸加里、硝酸アンモニヤヲ使用セリ級肥作物ハ第一、二圃場ハ各區百匁及大豆(等分ニ)ヲ第三圃場ハ百匁ヲ播種セリ

第一、二圃場ハ第一區級肥反當百匁一石五斗大豆二斗第二區ハ級肥反當百匁一石五斗大豆一斗五升ノ割合ニ又第三圃場各區級肥百匁反當一石ノ割合ニ播種セリ

第一區	第二區	第三區
トーマス燐肥	トーマス燐肥	トーマス燐肥
炭酸加里	炭酸加里	炭酸加里
硝酸アンモニヤ	硝酸アンモニヤ	硝酸アンモニヤ
大豆	大豆	大豆
第一圃場	第二圃場	第三圃場
一、一六五 二〇九 五七三七 一〇四三 一三三九 一、二二六	二、八四九 二、八四九 四、二七九 一、七七八 一、〇四八	八三三 一四九 二、九八〇 五、四六〇 〇、九四三 五、四六〇 〇、九九三

第四區	無肥	五、四六〇
第一區	綠肥	〇、九九三

(一) 播種及施肥

播種法ハ其ノ得失ヲ知ランカ爲メニ撒播及條播ニ分テリ首着ハ(各圃場)播種ニ際シ同種ト同容量ノ燒土ニ先ツ施用スヘキ全肥料ヲ加ヘ能ク混和シ後一晝夜浸水シタル種子ヲ加ヘ能ク混和シ播種覆土セリ

大豆ハ先ス全肥料ヲ畦内ニ施シ播種覆土セリ

第一及第二圃場ニアリテハ第一區ハ各茶樹畦間ニ一條ノ畦ニ尺餘ノ平面ニ播下シ兩側ヨリ覆土セリ第二區ハ各茶樹畦間ニ二條ノ普通畦ヲ作り播下セルモノニシテ第三圃場ニアリテハ各茶樹畦間一條ノ普通畦ヲ作り播下セリ大豆粕ハ各茶樹ノ周圍ヲ掘リ施用覆土セリ

(下) 試驗ノ豫措

大正二年十月五日圃場ノ各部分十餘箇所ヨリ表土ヲ採リ酸度及土壤分析ニ供セリ

同年十一月三日試驗區劃(第一、二圃場)ヲ設ケ各區各茶樹畦間ヲ四條ニ犁起セリ但シ石灰加用區(即チ第一區第二區)ハ其前ニ石灰ヲ撒布セリ十一月二十一日第一及第二圃場ノ第一及二區ハ各茶樹

畦間ニ三條ヲ第三、四區ハ二條ヲ犁起シ第三圃場ノ第一區ハ整地土寄ヲナシ第二區ハ其儘ニテ畦ヲ作り第三及四區ハ深耕ヲナセリ

第三圃場ハ十一月二十一日各試驗區ヲ設ケ各茶樹畦間ニ四條宛犁起シ直ニ畦作りヲナセリ

(チ) 綠肥栽培成績及勳込

播種期 大正二年十一月二十一日

收穫期 大正三年四月九日

栽培成績生草量ハ左ノ如シ

第一區 第二區 第三區 第四區	第一圃場		第二圃場		第三圃場	
	生草量	反當收量	生草量	反當收量	生草量	反當收量
第一區 豆	四、一三九	三、七〇〇	四、一三九	三、七〇〇	四、一三九	三、七〇〇
第二區 豆	三、八〇〇	三、四〇〇	三、八〇〇	三、四〇〇	三、八〇〇	三、四〇〇
第三區 豆	三、八〇〇	三、四〇〇	三、八〇〇	三、四〇〇	三、八〇〇	三、四〇〇
第四區 豆	三、八〇〇	三、四〇〇	三、八〇〇	三、四〇〇	三、八〇〇	三、四〇〇

備考 第三圃場ハ從來茶樹ノ生育良好ナリシ故從ツテ土性及養分モ他圃場ヨリ優等ナルモノト

見做ス

右ノ結果ニヨレハ綠肥作物ノ收量頗ル少量ナルモ是レ第一、二圃場ハ石灰加用當初ニシテ石灰ト土
壤トノ結合未タ不完全ナルニ由ルナルヘシ而シテ第三圃場ノ比較的良好ナルハ其ノ土性ノ良好ナル
ト養分ノ多量ナル爲メナラン歟

備考 茶葉收量製茶ノ品質其他ハ大正三年度ヨリ調査スルモノナリ

支出額内譯

第一圃場	第一圃場			第二圃場			第三圃場			單價
	第一區	第二區	第三區	第一區	第二區	第三區	第一區	第二區	第三區	
第一半額(1噸四圓四錢)	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
第二半額(1噸三圓四錢)	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
整地及畦作人夫	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
播種人夫	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
土人夫	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
石灰加用人夫	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
石灰加用人夫	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
施肥人夫	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
總込	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10

深耕土上ケ人夫	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
深耕戻シ人夫	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
以上ニヨリ區當反當	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
金額以下ノ如シ	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10

第一圃場第四區ハ同第三區ノ人夫ヨリ施肥人夫ヲ控除セルモノ即チ區當十四錢四厘反當一圓三錢五厘ナリ

第二圃場第四區ハ同第三區耕作費ノミナリ即チ區當十錢七厘反當一圓三錢二厘ナリ

第三圃場第四區ハ耕耘手入種子代及燒土ヲ費スノミニシテ其量ハ第三區ト等シ其費積四十八錢九厘ニシテ反當リ四圓九十二錢二厘ナリ

次キニ各區ニ對スル施肥料名數量價格及種子量等ヲ舉クレハ次キノ如シ

第一圃場	第一圃場			第二圃場			第三圃場			單價
	第一區	第二區	第三區	第一區	第二區	第三區	第一區	第二區	第三區	
トーマス磷肥	1.000	1.100	1.200	1.100	1.200	1.300	1.200	1.300	1.400	1.000
炭酸加里	0.500	0.600	0.700	0.600	0.700	0.800	0.700	0.800	0.900	0.500
燒土	0.100	0.200	0.300	0.200	0.300	0.400	0.300	0.400	0.500	0.100

第二圃場		第一圃場		第二圃場		第一圃場	
計	大豆	計	大豆	計	大豆	計	大豆
一斗	0.000	一斗	0.000	一斗	0.000	一斗	0.000
一升	0.000	一升	0.000	一升	0.000	一升	0.000
十貫	0.000	十貫	0.000	十貫	0.000	十貫	0.000
同	0.000	同	0.000	同	0.000	同	0.000
計	0.000	計	0.000	計	0.000	計	0.000

第二圃場

第三圃場		第一圃場		第二圃場		第三圃場	
計	大豆	計	大豆	計	大豆	計	大豆
一斗	0.000	一斗	0.000	一斗	0.000	一斗	0.000
一升	0.000	一升	0.000	一升	0.000	一升	0.000
十貫	0.000	十貫	0.000	十貫	0.000	十貫	0.000
同	0.000	同	0.000	同	0.000	同	0.000
計	0.000	計	0.000	計	0.000	計	0.000

第三圃場

計	大豆	計	大豆	計	大豆	計	大豆
一斗	0.000	一斗	0.000	一斗	0.000	一斗	0.000
一升	0.000	一升	0.000	一升	0.000	一升	0.000
十貫	0.000	十貫	0.000	十貫	0.000	十貫	0.000
同	0.000	同	0.000	同	0.000	同	0.000
計	0.000	計	0.000	計	0.000	計	0.000

以上耕作手入種子石灰肥料費ヲ合計セハ次キノ如シ(但シ各區別)

第一圃場	第二圃場	第三圃場	第四圃場	第一圃場	第二圃場	第三圃場	第四圃場	當反		當區	
								耕手入費	種子代	耕手入費	種子代
0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100
0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100
0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100
0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100
0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100

右ハ試驗開始ヨリノ全經費トス 備考 大正二年度内ニ於テハ收入ナシ依テ收支計算ハ大正三年度ヨリ始ムルモノトス

第二十六節 燐酸加里肥料種類試驗

本試驗目的ハ茶園ニ於ケル綠肥作物栽培上石灰ノ加用ヲ必要トスルモ肥料ノ種類ニヨリ其生育及收量ニ及スノ影響ハ石灰加用ト如何ナル差異アリヤヲ知ラントスルニアリ

一、試驗圃場

試驗圃場ハ新試驗茶園ノ一部ヲ定メ各四分ノ一坪區トシ各區ハ石灰ヲ積ミ一尺ノ巾ヲ保チテ區劃セリ

區名	肥料名	施肥量
一	トーマス燐肥	三四・九
二	中性燐肥	四一・七
三	過燐酸石灰	三一・三
四	燐酸曹達	三一・三
五	トーマス燐肥	三四・九
六	中性燐肥	四一・七
七	過燐酸石灰	三一・三
八	燐酸加里	三一・三
九	トーマス燐肥	三四・九
十	中性燐肥	四一・七

十一	過燐酸石灰	三一・三
十二	燐酸曹達	三一・三
十三	トーマス燐肥	三四・九
十四	中性燐肥	四一・七
十五	過燐酸石灰	三一・三
十六	燐酸曹達	三一・三
十七	トーマス燐肥	三四・九
十八	中性燐肥	四一・七
十九	過燐酸石灰	三一・三
二十	燐酸曹達	三一・三
二十一	トーマス燐肥	三四・九
二十二	中性燐肥	四一・七
二十三	過燐酸石灰	三一・三



鹽素	〇、三七〇三
硫	九、八五五七
磷	〇、四四〇〇
曹達	〇、二九〇四
加里	〇、六八二四
苦土	〇、一六三四
石灰	〇、四〇八四
礬土及鐵	〇、三〇一六
滿	〇、〇九〇五
礬酸ニ溶解セル硅酸	〇、〇〇四三

(二) 第二回試作

試作物 田菁

一、試作物 田菁
 一、播種量 七瓦平均四三九粒
 一、播種期 大正二年五月三十一日
 一、發芽期 六月二日發芽シ始メ九日ニ至リ終ル
 各區ノ發芽歩合ヲ檢スルニ中性磷酸區ノ三百四本最多ク磷酸曹達區ノ三十七本最少ク平均ハ二百十八本即チ四割九分六厘ニ當リテ生育狀況ハ一週間乃至二十日間毎ニ調査セシカ其概略ヲ記述スレ

ハ六月十二日ノ調査ニヨレハ木灰併用區ハ生育最モ良好ニ發芽歩合モ亦優レリ次ハ石灰及ヒ磷酸加里併用區ニシテ其他ハ一般ニ良好ナラス又磷酸肥料ノ種類ニ依リ其優劣ヲ示セハ各區ニ通シ中性磷酸區最モ良好ニトマス磷酸過磷酸石灰之レニ次キ磷酸曹達最モ劣レリ然ルニ石灰加用區ニシテ磷酸單用セルモノニアリテハ前狀態ニ反シ磷酸曹達過磷酸石灰ノ兩區他ノ二區ニ優レリ越テ七月上旬ニ至レハ全區ノ草丈ク漸次伸長シ木灰加用區最良ニ長キハ七寸五分トナレリ然ルニ原土磷酸曹達區ハ總テ不良ニシテ草丈漸ク一寸二三分ニ過キス加之過半數ノ枯死株ヲ認メタリ又過磷酸石灰區モ葉色黃色ヲ呈シ甚タ振ハサリシカ其石灰加用區ハ生育著シク良好ナルヲ認メ木灰加用區ヲ凌駕セントスル草勢ヲ示シツ、アリ
 斯クノ如ク時日經過スルニ從ヒテ生育狀態ニ差違ヲ來シ七月上旬ニハ石灰加用區ト木灰併用區トノ間ニ優劣ヲ認メサリシモ同下旬ニ至リ石灰加用區ハ著シク優良トナリ木灰併用區ニ比シ非常ナル差ヲ示スニ至レリ
 而シテ石灰加用磷酸單用區ハ最初ノ調査ト等シク原土區ニ於テ振ハサリシ磷酸曹達及過磷酸石灰ノ兩區ハ他ノ「トーマス」磷酸中性磷酸ノ兩區ヨリ優レリ
 八月中旬ニハ各區何レモ大ナル變化ナク依然トシテ前述ノ比ヲ保持シツ、アリ而シテ最後ノ生育狀態優劣ノ順序ヲ示セハ石灰加用磷酸加里併用區、同磷酸單用區、原土木灰併用區、同炭酸加里及硫

融加量兩併用區、同磷酸單用區トス

磷酸肥料種類ニ對スル優劣ハ原土區ニテハ中性磷酸「トーマス」磷酸過磷酸石灰磷酸曹達ノ順序ニシテ石灰加用區ニテハ磷酸曹達過磷酸石灰ハ他ノ二者ニ優レリ

斯クテ九月上旬各區二三株宛開花セルヲ以テ各(イ)區ハ九月七日(ロ)區ハ開花ノ半ニ至ルヲ以テ同二十七日收穫セリ
其成績左ノ如シ

區名	六月五日生育株數	六月十二日生育株數	收穫株數	同草丈	同生草量	根瘤ノ多少	開土大小
一(イ)	一八〇	二二二	六三	〇・三〇	四七	中	小
二(イ)	一八四	二二二	一一八	〇・七〇	一三一	少	中
三(イ)	一九六	二二二	七九	〇・五〇	七五	少	中
四(イ)	二一六	二二二	一九七	一・一〇	二五九	多	中
五(イ)	二一九	二二二	六	〇・七〇	四四	少	中
六(イ)	二五八	二二二	二八	〇・六〇	六四	少	中
七(イ)	二五〇	二二二	三	〇・二八	一七	最少	最小
八(イ)	二六一	二二二	二四	〇・八〇	二五九	少	小
九(イ)	二七八	二二二	二四	一・一〇	四七三	中	小
十(イ)	二七二	二二二	一七〇	一・五〇	四七三	多	小
十一(イ)	二八〇	二二二	一七〇	一・五〇	四七三	多	小
十二(イ)	二八〇	二二二	一七〇	一・五〇	四七三	多	小
十三(イ)	二八〇	二二二	一七〇	一・五〇	四七三	多	小
十四(イ)	二八〇	二二二	一七〇	一・五〇	四七三	多	小
十五(イ)	二八〇	二二二	一七〇	一・五〇	四七三	多	小
十六(イ)	二八〇	二二二	一七〇	一・五〇	四七三	多	小
十七(イ)	二八〇	二二二	一七〇	一・五〇	四七三	多	小

區名	六月五日生育株數	六月十二日生育株數	收穫株數	同草丈	同生草量	根瘤ノ多少	開土大小
一(ロ)	六四	二一五	一九三	一・五〇	六〇〇	多	大
二(ロ)	九八	二四八	七五	〇・五五	一三一	少	大
三(ロ)	八七	二四八	一三二	〇・六〇	七三	少	大
四(ロ)	三九	二六六	一七	〇・六〇	一八	最少	最小
五(ロ)	五一	二八四	六	〇・三〇	四	最少	最小
六(ロ)	二二〇	二二二	二〇二	一・一〇	三四六	多	大
七(ロ)	二二八	二二二	七三	一・〇五	四六四	多	大
八(ロ)	二二八	二二二	七三	一・〇五	四六四	多	大
九(ロ)	二二八	二二二	七三	一・〇五	四六四	多	大
十(ロ)	二二八	二二二	七三	一・〇五	四六四	多	大
十一(ロ)	二二八	二二二	七三	一・〇五	四六四	多	大
十二(ロ)	二二八	二二二	七三	一・〇五	四六四	多	大
十三(ロ)	二二八	二二二	七三	一・〇五	四六四	多	大
十四(ロ)	二二八	二二二	七三	一・〇五	四六四	多	大
十五(ロ)	二二八	二二二	七三	一・〇五	四六四	多	大
十六(ロ)	二二八	二二二	七三	一・〇五	四六四	多	大
十七(ロ)	二二八	二二二	七三	一・〇五	四六四	多	大

十八	十九	二十	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五
(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)
(ロ)	(ロ)	(ロ)	(ロ)	(ロ)	(ロ)	(ロ)	(ロ)
一一二	七五	四二	二〇	八八	四七	二九	一四
二六四	二七四	二二六	二一〇	二二五	二五二	二四八	二二九
一八二	一〇八	一六〇	一〇六	一三九	一五四	一六六	一七二
一二五	一八〇	一一五	一八五	一五〇	二五〇	一七五	三六〇
四五八	四七六	三五三	四九一	四六七	九一一	五八〇	八八九
多	多	多	多	多	多	多	多
最大	最大	最大	最大	最大	最大	最大	最大

右ノ結果ニヨレハ原土ニ於テハ中性磷酸最良ニ「トーマス」磷酸過磷酸石灰之レニ次キ磷酸曹達ハ最モ劣等ナリ然ルニ石灰加用區ニアリテハ各肥料殆ント差ナク其ノ優劣ハ却ツテ過磷酸石灰、磷酸曹達、中性磷酸「トーマス」磷酸ノ順序ナリ

加里肥料ニアリテハ原土區ニ於テ殆ント差ナク木炭炭酸加里硫酸加里ノ順序ナリ然ルニ石灰加用加里無加用區ハ以上三種原土加里肥料併用區ノ約二倍ノ收量ヲ示シ且ツ石灰加用硫酸加里併用區ハ約

四倍ノ收量ヲ示セリ之レヲ表示スレハ左ノ如シ

原土區平均	石灰加用區平均	トーマス磷酸	中性磷酸	過磷酸石灰	磷酸曹達
三三一	六〇〇	三四四	七五二	一〇八	二八
無加里	炭酸加里	七五二	七五二	七六〇	七五五
八〇	二二九	二二九	二二九	二二九	二七三
五二一	二二九	九二二	九二二	九二二	九二二

故ニ原土ニ於テハ中性磷酸「トーマス」磷酸ノ如キ又木炭炭酸加里ノ如キ「アルカリ」性肥料ヲ選フヘキカ如キモ磷酸曹達ノ如キハ「アルカリ」性ナルニモ拘ラス最モ劣等ノ成績ヲ示セリ然ルニ石灰加用區ニアリテハ酸性「アルカリ」性何レノ肥料ヲ選フモ大差ナキノ成績ヲ示シ且ツ石灰ハ葎科植物ニ缺クハカラサルモノナルニ依リテカ該地ニ於テハ磷酸加里併用ヨリモ磷酸石灰併用ノ効果大ナリ依テ該地施肥上石灰ノ加用ハ肥料種類ノ選擇及土地利用上缺クヘカラサルモノトス

(ホ) 第二回試作

試作 狀況

一、試驗區施肥量ハ第一回試作ト等シ

一、試作物 蠶豆

一、播種量 三〇瓦、三六粒(反當三斗割)

一、播種期 大正二年十一月七日

一、發芽期 大正二年十一月十九日 發芽シ始メ同二十五日ニ終ル

一、播種法 播種一週前ニ整地シ各區ノ中央ニ東西ニ一條ノ畦ヲ設ケ前記ノ肥料ヲ施シ善ク土地ト混合シ後三粒宛二寸五分ヲ距テ、畦内ニ三角形ニ點播セリ

發芽ハ各區ニヨリ遲速アリ即チ「トーマス」燐肥、中性燐酸、過燐酸石灰等ノ各區ノ石灰及ヒ木灰ヲ併用セル區ニアリテハ十一月十九日、原土、炭酸加里及硫酸加里ノ兩併用區ハ同二十二日、燐酸肥料單用區ハ同二十三日、無肥區ハ同二十五日ニ其ノ發芽ヲ始メシモ燐酸曹達施用區ハ原土區ニ於テ何レモ發芽遲レ又一二株ツ、發芽スルモ直チニ黑色トナリ枯死シ一月七日ニ至ルモ同様ノ狀況ナリシ而シテ發芽歩合ハ最良一〇〇最少六六、六パーセント平均八二、三パーセントトス但シ原土、燐酸、曹達施用區ハ特別ニ劣等ナリシヲ以テ之ヲ省略セリ

其生育狀況ヲ見ルニ石灰加用加里併用區最良ニシテ同燐酸單用區、原土木灰併用區之レニ次キ原土炭酸加里硫酸加里兩併用區ハ共ニ第三位ニアリテ原土燐酸單用無肥區ノ順序ニシテ各燐酸肥料ニアリテハ中性燐酸「トーマス」燐肥、過燐酸石灰ノ順序トナリ燐酸曹達區最モ不良ニシテ且ツ發芽サ

ハ充分ナラス時々發芽セルモ葉莖黑色ヲ帶ヒテ萎縮シ全體細長ニシテ一見病的現象ヲ呈シ又全區ニ通シ(ロ)區ハ(イ)區ニ劣ルカ如シ然レトモ本期ハ概シテ葉色翠綠ヲ呈シ草勢良好ニシテ十二月中旬頃迄ハ右ノ如キ狀況ニテ大差ナカリシモ時日經過スルニ從ヒ各區ノ生育狀況ニ差異ヲ生スルニ至レリ即チ一月二十日頃ニ加里肥料併用區ハ石灰ノ有無ニ拘ラス一般ニ良好ナリシカ燐酸肥料單用區ハ何レモ下葉黑色ヲ呈シテ凋落シ且ツ細長ニシテ勢力衰弱シ中ニハ枯死セントスルモノサヘアリ一般ハ上述ノ如クナレトモ燐酸曹達區ニアリテ石灰加用燐酸曹達區ハ原土加用併用區ヲ凌ク草勢ヲ示セリ又原土加里併用區中燐酸曹達區ハ一月中旬ニ至ルモ尙二、三株ノ發芽生育セルヲ見タルノミニシテ伸長セス黑色ニ萎縮シ中ニハ全ク發芽セサルモノアリ(發芽セサル種子ヲ檢スルニ内部ハ褐色或ハ黑色ヲ呈シ硬化セルモノ又ハ腐敗糜爛セルモノアリ)一月下旬以降石灰加用燐酸加里併用區ヲ除キ各區共葉黃色ニ變シ時日經過ト共ニ枯死スルモノ多ク二月中旬頃ニ至リテハ過半枯死シ僅カニ生葉ヲ附スルモノヲ認ムルニ至レリ又「トーマス」燐肥施用區ハ一般ニ中性燐酸區ヨリモ良好ナル生育ヲ示セリ三月中旬ニ入りテ生育殘存スルモノ開花セシヲ以テ三月二十日收穫セリ其成績左ノ如シ

區名	發芽		收穫		備考	
	株數	生育株數	株數	草丈均	根莖	株開花
(イ)	三五	同	二八	四九〇・七〇	二七	一
						三十八株黑色ニ枯凋セリ

二十	十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一
(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)
三六	三一	三六	三三	三五	三一	三一	二二	二	三六
三九	同	三八	同	同	同	同	同	同	同
二一	二一	二〇	二六	一八	二八	一八	枯死	枯死	二五
四四	三七	四四	五七	四二	五三	五二	三〇	三〇	三〇
一・二〇	〇・八〇	〇・七〇	〇・八〇	〇・七〇	〇・七〇	〇・八〇	〇・九〇	〇・九〇	〇・八〇
一九七	八三	六九	九一	六四	二一	二八	五三	四三	七七
			多ニシテ小	多ニシテ小	六株生成少ニ	六株生成少ニ	三株生成少ニ	三株生成少ニ	二株生成少ニ
六	一	一四	二	四	一八	一九	一	一	二
十六株右同	十株右同	十三株右同	十五株右同	十七株右同	十八株黑色枯死セリ	十七株黑色枯死セリ	右同	發芽後直チニ枯死	二十七株枯死

二二三

十	九	八	七	六	五	四	三	二	(イ)
(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)
三三	三六	三三	二二	二二	三三	三三	三三	三三	三三
同	同	同	枯死	同	同	同	同	同	同
二〇	二〇	三八	三六	枯死	二六	二六	二八	三六	三五
三五	二八	三七	三五	二	二七	三〇	四一	三七	五六
〇・九〇	〇・九〇	〇・九〇	〇・七〇	〇・五〇	〇・九〇	〇・七〇	〇・八〇	〇・八五	〇・八〇
八三	三五	九九	一〇九	三	二四	三五	七二	五九	一六〇
三株生成少ニ	六株生成少ニ	六株生成少ニ	十九株生成多	十九株生成多	十九株生成多	十九株生成多	十九株生成多	十九株生成多	十九株生成多
三	一	一三	一	一	一	一	一	一	一
二十九株枯死	二十五株枯死	三十株枯死	母株ハ枯死セルモ分蘖萌芽セルモノアリ	右同	全部枯死	内二十五株枯死	全部枯死	内十九株枯死	内二十七株枯死

二二二

廿五	廿四	廿三	廿二	廿一	二十	十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
三三	三二	三一	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九
三二	三一	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
枯死	五四	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
九株右同	三十三株右同	三十三株右同	三十三株右同	三十三株右同	三十三株右同	三十三株右同	三十三株右同	三十三株右同	三十三株右同	三十三株右同	三十三株右同	三十三株右同	三十三株右同	三十三株右同	三十三株右同	三十三株右同	三十三株右同	三十三株右同	三十三株右同	三十三株右同	三十三株右同	三十三株右同	三十三株右同	三十三株右同
九株右同	九株右同	九株右同	九株右同	九株右同	九株右同	九株右同	九株右同	九株右同	九株右同	九株右同	九株右同	九株右同	九株右同	九株右同	九株右同	九株右同	九株右同	九株右同	九株右同	九株右同	九株右同	九株右同	九株右同	九株右同

右ノ結果ニヨリテ見レハ第一回試作結果ト大差ナク原土石灰加用兩區ニ於テ「トーマス」磷肥最モ良
好ニシテ原土ニ於テハ中性磷肥、過磷酸石灰、磷酸曹達ノ優劣順序ヲ呈シ磷酸曹達ハ第一回試作結
果ト同様頗ル不良ニシテ殆ント生育セルモノヲ認メス石灰加用區ニアリテハ過磷酸、石灰磷酸曹達
中性磷肥ノ順序トナレリ
又加里肥料ハ大差ナク炭酸加里、硫酸加里、木灰ノ順序ニテ加里無加用區ハ最モ劣リ加里併用區ノ
約三分ノ一ノ收量ニ過キス
石灰加用磷酸單用區ニアリテハ第一回成績ト等シク原土加里併用區ノ約二倍ヲ石灰加用硫酸加里併

用區ハ約五倍ノ收獲ヲ得タリ即チ左ノ如シ

原土區平均	石灰加用平均	トーマス磷肥	中性磷肥	過磷酸石灰	磷酸曹達
一〇・三	二六・〇	無加里	炭酸加里	磷酸加里	木灰
一三・〇	一九・四	一三・〇	五九・一	二六・六	五三・三
四六・五	一三三・〇	一八九・三	五九・一	二六・六	五三・三

即チ原土ニ於テハ磷肥「トーマス」磷肥ヲ選ヒ加里肥料ハ何レヲ撰フモ差支ナキカ如シ又石灰
ハ前述ノ如ク施肥上缺クヘカラサルモノナリ
以上二回ノ試作結果ニ徴スルニ原土ニ於テ酸性肥料ヲ忌ム事ハ確實ナレトモ磷酸肥料ニ於テハ
「アルカリ」性肥料モ其鹽基ノ如何ニヨリテ効否ヲ左右セラルヘク又加里肥料ニ於テモ然ルモノ、如
シ
然レトモ或量ノ石灰ノ存在ニ於テハ肥料ノ種類ニヨリ影響ヲ及ボス事少ナキカ如シ尙ホ肥料種類ト
施肥ノ回数トニヨリテ其ノ効果ノ遲速ヲ試験シ其ノ何レカ適當ナルヤヲ研究セントス次ニ各肥料カ
土壤ニ如何ナル影響ヲ與フルヤ參考ノ爲メ各肥料ヲ該圃土壤ニ加ヘ一バーセントノ拘攣酸ニテ浸出

分析シタル其結果ヲ示サン

一、肥料ニ瓦ヲ探リ一パーセントノ拘楨酸液三〇〇ccヲ以テ七日間振蕩靜置清澄シ「サイホン」ニテ
 採リ且ツ浸出濾過シ其一定液ヲ探リ蒸發乾涸灼熱シ鹽酸ニ溶解シ一定容トナシ分析ニ供セリ
 二、各肥料ヲ各區施用ノ四分ノ一ヲ土壤百瓦ニ混和シ其レヲ一パーセント拘楨酸五〇〇ccヲ以テ
 七日間時々振蕩浸出シ靜置清澄セシメ「サイボン」ニテ採リ且ツ濾過シ一定容ヲ探リ第一ト同様ノ操
 作ヲナシ分析用ニ供セリ

一、肥料浸液ノ分析成績

名稱	浸出礦物量	硅酸 SiO_2	磷酸 P_2O_5	石灰 CaO	苦土 MgO	酸化鐵 Fe_2O_3	礬土 Al_2O_3
トーマス燐肥	六九〇五五	六九〇五五	一七五七	一七五七	五〇五	一〇六〇	六二五
中性燐肥	三三〇五五	三三〇五五	一七五七	一七五七	一六五	一〇六〇	六二五
過燐酸石灰	四九八八五	四九八八五	一七五七	一七五七	一六五	一〇六〇	六二五
燐酸曹達	四〇〇〇〇	四〇〇〇〇	一八五五	一八五五	一六五	一〇六〇	六二五
木燐酸曹達	一七九四五	一七九四五	一八五五	一八五五	一六五	一〇六〇	六二五

備考 燐酸曹達ノ疑問甚タシキヲ以テ研究所ニ依頼シ分析シタルニ其結果 $N_2H_4PO_4$ 12.4gナルコ
 ト分明シ微アルカリ性ニシテ硫酸ノ微量ヲ含有セリ (P_2O_5 19.3% Na_2O 18.23% So_3 0.71%)

二、土壤浸液ノ分析成績

燐肥	中性燐酸	過燐酸石灰	燐酸曹達
三・二〇七七	四・六〇七九	四・一六三	五・三六〇〇
〇・〇五八八	〇・二六四	〇・二七八五	〇・一四〇八
〇・〇二三五	〇・七二八二	〇・八一〇	〇・〇四七二
〇・八三七三	一・三二二六	〇・六四三三	〇・〇八五七
〇・〇九一七	〇・〇八八六	〇・〇八〇六	〇・一四七四
〇・一九四六	〇・〇六八二	〇・〇五三九	〇・〇一九九
〇・〇一一三	〇・〇一一一	〇・〇一九四	〇・〇四六七
〇・〇一六七	〇・二四六二	〇・一一〇三	一・二四一一
〇・〇三九二	一・三〇三二	一・二〇一三	一・一五〇九
一・四一三六	欠	〇・三二五〇	一・一五〇九
〇・一九〇一	〇・五二三〇	〇・五五六八	〇・五二三四
二・九四七五	四・四二三七	三・九八一〇	五・二五七五
原土	燐酸曹達加用水浸液	原土水浸液	燐酸曹達加用石灰加用土壤液
〇・七二六八	三・五七三四	〇・二八五七	五・四六〇二
〇・〇七〇六	〇・〇三九一	〇・〇〇五三	〇・一三五二
〇・〇一〇九	〇・〇七一〇	〇・〇〇一八	〇・〇六一四
〇・〇一五八	〇・〇四八一	〇・〇一九四	〇・七八九九
〇・〇四八六	〇・〇四六一	〇・〇四二六	〇・八八四三

計	苦	加	實	燐	鐵	錳	土
〇・〇四一七	〇・〇〇三四	〇・〇〇一六一	〇・〇〇二四五	〇・〇一九五五	〇・〇二二一五	〇・〇二二一五	〇・六四八六
〇・〇六〇〇	〇・〇七一四	〇・五九六〇	〇・五二二一	〇・四七二九	〇・三二五三	〇・三二五三	三・一五六六
〇・〇六一一	〇・〇〇五六	〇・〇三二二	〇・〇三二四	〇・〇四二二	〇・〇〇七六	〇・〇〇七六	〇・二三八二
〇・〇四五七	〇・〇四六六	〇・七四四五	〇・四四一四	〇・三三七六	〇・七〇一六	〇・七〇一六	五・一八八一

備考 燐酸ヲ(イ)(ロ)ニ區別セルハ供試液ヲ「アンモニヤ」ニテ二分セル兩液ヨリ定最セルモノナリ

右ノ分析結果ヲ見ルニ各燐肥ニ於テ確然タル差異ヲ見出サ、ルモ燐酸曹達ヲ加用セル浸出液(拘攪酸及蒸溜水浸出液)ハ石灰量對苦土量ノ比カ原土ノ浸出液(蒸溜水及拘攪酸浸出液)ノ其ノ比ト正比例シ他ノ肥料ヲ加用セル浸出液ハ總テ石灰加用土壤ニ燐酸曹達ヲ加用セルモノト正比例セル差ヲ生セリ之レ或ハ曹達鹽ノ作用カ土壤含有成分ノ可給態養分ニ變化ヲ與フルカ或ハ曹達其モノ、有害作用ナルヤ(燐酸曹達ハアルカリ性ナリ)尙分析結果ニテハ不可給態ニ變化セリト云フヘカラサルカ故ニ或ハ可溶性ノ燐酸曹達カ滲透性不良ナル該土壤中ニ於テ濃度増進シ根毛ヲ腐蝕セシモノナルヤハ尙ホ不明ニ屬ス要スルニ酸性土壤ニ對シ殊ニ鹽基性肥料ヲ欲スルト雖其鹽基ノ如何ニヨリ左右セラレヘキヲ知ルニ足ルヘシ

第四章 調查事項

第一節 植付時期及方法

植付方法ハ前年ニ同シ新植ハ僅ニ五區ニシテ其他ハ主トシテ補植ナリ時期ハ前年ヨリ四日遅レタル十二月十七日ニ開始シ一月十九日ニ終レリ此間天候其他ノ都合ニヨリ移植ノ出來サル日アリシ爲メ移植日數十五日移植總數五千九十樽ナリキ其ノ移植費用調査ハ左ノ如シ(但シ平地茶園及既成茶園)

植付月日	植付茶種數	植		付		苗取及運搬		計	
		人夫數	賃	人夫數	賃	人夫數	賃	人夫數	賃
十二月十七日	四一九男	四・五〇	一・四四〇	一・〇〇	〇・二〇〇	四	一・六四〇	四	一・六四〇
十二月十八日	五九九男	五・〇〇	一・六〇〇	一・〇〇	〇・二〇〇	五	一・八〇〇	五	一・八〇〇
十二月二十日	五〇七男	四・二〇	一・三四〇	一・〇〇	〇・二〇〇	四	一・五四〇	四	一・五四〇
十二月廿一日	六四五男	五・〇〇	一・六〇〇	一・〇〇	〇・二〇〇	五	一・八〇〇	五	一・八〇〇
十二月廿三日	二九九男	二・五〇	〇・八〇〇	〇・五〇	〇・一〇〇	二	〇・九〇〇	二	〇・九〇〇
一月九日	一六一男	一・二五	〇・四〇〇	一・〇〇	〇・二〇〇	一	〇・四〇〇	一	〇・四〇〇
一月二十三日	五四〇男	五・〇〇	一・六〇〇	一・〇〇	〇・二〇〇	五	一・八〇〇	五	一・八〇〇
一月二十七日	三〇三男	三・〇〇	〇・九六〇	一・〇〇	〇・二〇〇	三	〇・九六〇	三	〇・九六〇
一月二十八日	三〇五男	三・二〇	一・〇二〇	〇・五〇	〇・一〇〇	三	一・一二〇	三	一・一二〇
計									

一月二十九日	四三三男	三五〇	一・二二〇						
計	四二二一男	三七二五	一一・八八〇女	六〇〇	一・二〇〇	一男	三七・五〇	一・二二〇	
						女	六〇〇	一・三〇八〇	

備考 一月二十七、二十八、二十九日ノ三日間ノ苗取及運搬ノ人夫ハ只運搬ノミナリ賃銀ハ男一日三十二錢女二十錢トシテ計算セリ

今之ヲ一萬權當ニ計算シテ所要人夫數及賃銀ヲ示セハ左ノ如シ

種別	人夫數	賃銀	備考
植付(穴掘共)	八八・二二	二八・二二	
苗取及運搬	一四・二五	二・八五〇	
計	一〇二・四七	三一・〇六二	

前年ニ比較スレハ植付人夫ニ於テ十七人一分八厘ヲ増加シ苗取及運搬ハ六人〇分五厘ヲ減シ差引賃銀ニ於テ二四四十四錢六厘ノ増加ヲ示セリ植付人夫ノ増加セルハ植付人夫ニ運搬ヲ兼ネシメタルニ因ルナル可シ苗取及運搬ノ減少セルハ前記ノ理由ト單ニ運搬ノミニ止マリシコトアリシカ故ナリ開墾傾斜地ノ費用ハ

植付月日	植付權數	植		苗取及運搬		計	
		人夫數	賃銀	人夫數	賃銀	人夫數	賃銀

一月十日	・二九〇男	二・五八	・八二六女	・三八八	〇・〇七八	二・五八	〇・九〇四
一月十一日	・二九〇男	四・七四	一・五七女	・二〇〇	〇・〇四〇	四・七四	一・五五七
一月十三日	・一〇五男	三・三五〇	一・〇七二			三・三五〇	一・〇七二
一月二十日	・二二七男	三・〇〇〇	〇・九六〇女	・八〇〇	〇・一六〇	三・〇〇〇	一・二二〇
計	・八一二男	一三・六七〇	四・三七五女	一・三三八	〇・二七八	一三・六七〇	四・六五三
一萬權當	一〇〇〇〇男	一六八・三〇〇	五三・八七九女	一七・一〇〇	三・四二四	一六八・三〇〇	五七・三〇三

植付男百六十八人三分苗取及運搬女十七人一分ニシテ賃銀合計五十七圓三十錢三厘ナリ之ヲ前記平地及既成茶園ニ比スレハ二十六圓二十四錢一厘ノ増加ニシテ尙前年度ノ傾斜地費用五十六圓ニ比スレハ一圓三十錢三厘ノ多額ヲ要セリ本年移植セシ青心種ハ四千二百七十二權ニシテ是ニ要セシ母樹六百十八權一權平均苗木七權ニシテ一萬權ノ茶苗ヲ得ルニハ一千四百二十九權ノ母樹ヲ要スルコト、ナル尙前年ノ母樹一權ハ苗七、一權ニシテ一萬權所要母樹權數ハ一千四百四權ナリキ

第二節 移植後ノ經過

本年四月迄ハ曇雨天多カリシ爲メ移植セシ茶苗ノ經過頗良好ナリシカ五月上旬晴天連續ノ爲メ多少枯死セルモノヲ出シ六月十一日ノ調査ニテハ平地茶園植付數二千六百六十四權ニ對シ枯死數四百〇六權ニシテ枯死割合平均一割五分二厘ニ當レリ其後六月中旬ニ至リ晴天連續シ加フルニ一週間ニ亘

リ西南ノ乾風強烈ヲ極メシ爲メ枯死スルモノ益々多ク七月九日ノ調査ニテハ五百四十八櫛即二割〇分六厘ノ枯死數ヲ數ヘタリ越テ七月中旬及九月上旬ノ豪雨ハ水溜リヲ生シ又圃場ヲ洗ヒテ衰弱セルニ乘シ九月下旬ヨリ十一月中旬ニ亘リ殆ント六十日間旱天打チ續キシ爲メ枯死スルモノ續出シ一月十日ノ調査ニテハ枯死數一千五百五十四櫛ヲ算シ其割合實ニ五割八分四厘ニ當レリ

尙開墾傾斜地ニ於ケル移植櫛數ハ九百九十四櫛ニシテ七月九日迄ノ枯死數四十七櫛一月十日ノ調査ニテ二百二十二櫛トナリ枯死割合二割二分三厘ナリ即傾斜地ハ平地ニ比シテ遙ニ活著歩合良好ナルヲ見ル此數年來同成績ニシテ其然ル理由ハ傾斜地ハ新墾地ニシテ肥沃ナルト石礫ヲ交ユルカ故ニ排水佳良ニシテ水ノ停滯ニヨリテ根ヲ腐敗セシムルコトナキニヨルヘシ

尙移植月日ニ別チ活著歩合等ヲ表示スレハ左ノ如シ(平地)

移植月日	温度	雨量	移植		六月十一日		七月九日		一月十日		活著	摘	要
			櫛數	枯死數	枯死割合	合枯死數	合枯死割合	合枯死數	合枯死割合				
十二月十七日	三三〇	—	四九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十二月十八日	三三〇	—	四九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十二月二十日	一八〇	—	五九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十二月廿一日	一九〇	—	六四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十二月廿三日	一六〇	—	二九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計及平均	—	—	二四一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

右表ニヨレハ十二月十七日ニ移植セシ六割一分六厘ノ活著成績最良好ニシテ二十三日ノ二割五分八厘最不良ナリキ是レ二十三日移植セシ區ニハ前年移植セシモノ枯死セルモノ數多ヲ出セシニヨル而シテ曇天無風及和風ニシテ土壤ノ濕度適當ナリシ十七日及二十一日ニ於ケル成績良好ニシテ強風ニシテ降雨アリシ二十三日ハ一ハ前述ノ原因アリシト雖モ不結果ヲ示セリ又同日ハ温度モ最低カリシ即チ曇天無風土壤ノ濕度適度ニシテ温度ハ二十度内外ヲ以テ最適當トスルカ如シ而シテ七月九日迄ノ枯死數ハ四百七十二櫛即一割九分一厘ニシテ先ツ相當ノ成績ナリシカ一月十日ノ調査ニテハ一千二百六十三櫛ニシテ五割九厘トナリ頗ル不成績ヲ示セリ是前述セシカ如ク九月下旬ヨリ十一月中旬ニ亘リ晴天五、六十日打チ續キニ起因ス要スルニ本年ノ移植後ノ經過ハ天候適順ナラサリシ爲メ成績不良ニ終レリ

第三節 深耕費用調査

深耕トハ冬季茶樹ノ根元ノ土ヲ深く掘上ケテ舊根ヲ切斷シテ春季新根ノ發生ヲ促シ又掘リ上ケタル土壤ハ風化ニヨリ不溶性養分ヲ可溶性養分ニ變セシメ之ヲ茶樹ニ吸收セシムルカ爲メニ行フノ作業トス而シテ春季ニ至リ掘リ上ケタル土壤ヲ株間ニ返還シ之ヲ深耕戻シト云フ今當場ニテ要セシ費用ヲ調査シタルモノヲ示セハ左ノ如シ

其一 平地新園

深耕月日	作業機數	所要人夫數	同上賃金
十一月廿八日	一、四五〇	三、二〇〇	一、〇二四
十一月廿九日	八二〇	一、七〇〇	五、四四
十二月一日	一、三五〇	三、七〇〇	一、一八四
十二月二日	一、六五〇	三、五〇〇	一、二二〇
十二月三日	一、五〇〇	三、五〇〇	一、二二〇
十二月四日	二、一〇〇	三、九〇〇	一、二四八
十二月五日	二、五五〇	四、八〇〇	一、五三六
十二月六日	二、一〇〇	四、〇〇〇	一、二八〇
十二月八日	一、六五〇	二、七〇〇	八、六四
十二月九日	一、〇五〇	二、三〇〇	七、三六
十二月十日	一、八〇〇	二、五〇〇	八、〇〇
十二月十一日	一、三五〇	三、九〇〇	一、二四八
十二月十二日	一、二〇〇	二、六〇〇	八、三二
一月十日	一、二〇〇	三、〇〇〇	九、六〇
一月十二日	一、二〇〇	三、二〇〇	一、〇二四
計	二二、九七〇	四八、五〇〇	一五、五二〇
一萬權當	一〇、〇〇〇	二二、一〇〇	六、七五六

備考 新植茶園ナルヲ以テ牛耕ヲナス人耕即チ鍬ヲ以テセリ人夫勞働時間ハ一日八時間ニシテ賃銀三十二錢トス以下之ニ准ス

一萬權當リ所要人夫數二十一人一ニシテ賃銀六圓七十五錢六厘ナリ

其二 既成茶園

既成茶園ハ目下試験ニ供シツ、アル茶園ニシテ緩傾斜地及山頂ノ平地ナリ其調査成績ハ左ノ如シ

月日	作業機數	所要人夫數	同上賃金
十二月三日	三、八七二	一、〇〇〇	七、〇〇
十二月五日	三、〇六二	一、〇〇〇	七、〇〇
十二月六日	四、二六八	一、〇〇〇	七、〇〇
十二月七日	五、五六七	二、〇〇〇	一、四〇〇
十二月八日	三、一二七	一、〇〇〇	七、〇〇
計	一九、八九六	六、〇〇〇	四、二〇〇
一萬權當	一〇、〇〇〇	三、〇二〇	二、一一一

月日	作業機數	所要人夫數	同上賃金
十二月十一日	三、〇九七	三、九〇〇	一、二四八
十二月十三日	九四三	二、六五〇	八、四八
十二月十五日	九六二	三、一五〇	一、〇〇八
十二月十六日	五九三	一、〇〇〇	三、二〇
十二月十七日	一、三一六	二、〇〇〇	六、四〇
十二月十九日	九七七	一、五〇〇	四、八〇
十二月廿五日	二、六九九	四、五〇〇	一、四四〇
十二月廿六日	二、五四二	三、五〇〇	一、二二〇
十二月廿七日	四、六四	一、〇〇〇	三、二〇
一月六日	二、〇二一	四、七五〇	一、五二〇

第二 深耕(人耕)

一月八日 一・七六一 同 三・〇〇〇 九・九六〇
 計 一七・三七五 同 三〇・九五〇 九・九〇四
 一萬擔當合計 一〇・〇〇〇 一七・八一〇 五・七〇〇
 一萬擔當 一〇・〇〇〇 水牛 一七・八一〇 七・八一〇
 人夫 一七・八一〇
 初メ牛耕ヲナシタル後鐵ヲ以テ掘リ上クルモノナリ水牛一萬擔ニ對シ三、〇二頭賃銀二圓十一錢一厘人夫數十七人八一ニシテ賃銀五圓七十錢合計七圓八十一錢一厘トナル新植茶園ニ比シテ一圓六錢一厘多額ヲ示セルハ新植茶園ニ比シテ深キヲ要スルト茶機大ニシテ作業困難ナルニヨル尙水牛一日ノ賃銀ハ七十錢ナリ

其三 新墾傾斜地

月 日	作業機數	所要人夫數	同上賃銀
十一月十八日	九〇〇	二・〇〇〇	六・四〇〇
十一月十九日	一・〇〇〇	二・五〇〇	八・〇〇〇
十一月二十日	九五〇	二・五〇〇	八・〇〇〇
十一月廿一日	四五〇	一・〇〇〇	三・二〇〇
十一月廿四日	一九三七	三・五〇〇	一・二二〇
計	五・二三七	一・五〇〇	三・六八〇
一萬擔當	一〇・〇〇〇	二・一九六〇	七・〇二七

一萬擔當七圓二錢七厘ニシテ平地茶園ニ比シ二十七錢七厘ノ多額ヲ要セルハ傾斜地ナルニ加フルニ石礫多クシテ作業困難ナルニ因ル尙本傾斜地モ水牛ヲ用フルコトナク専ラ人耕ニ依レリ

第四節 施肥費調査

其ノ一 完全肥料施用費

茶樹一機當リ施肥量ハ大豆粕三三、四々過燐酸石灰七、五々硫酸加里二、〇々ニシテ大豆粕ハ豫メ粉碎シ置キ施肥ノ當日前記ノ數量ヲ配合シ施用セリ施肥方法ハ深耕後茶樹枝葉ノ先端ヨリ稍中心ニ近ク周圍ニ薄ク散布シ覆土セリ

其ノ所要費用ハ

施肥月日	施肥機數	配合及運搬		施肥		覆土		計	
		人夫數	賃銀	人夫數	賃銀	人夫數	賃銀	人夫數	賃銀
十二月十一日	二七五〇人夫	〇・六三三	〇・三〇〇	一・三三〇	〇・五九六	〇・二〇六	一・一〇六	二・一四二	〇・九〇六
十二月十八日	三九八九同	〇・七五五	〇・三三〇	一・四〇〇	〇・六四八	〇・二四三	一・一三三	二・四二四	〇・九八三
計	六四九九同	一・〇〇〇	〇・六三〇	二・七三〇	一・二四四	〇・四五九	二・一八六	四・六〇〇	一・八八九
一萬擔當	一〇〇〇〇同	一・五五五	〇・九四五	三・八〇〇	一・七五五	〇・六六六	三・〇二一	七・〇二一	二・七五五

一萬擔當男人夫三人九厘三毛女五人八分五毛ニシテ賃銀二圓十五錢トナレリ然レトモ右表中ニハ大豆粕ノ粉碎費ヲ含マサルカ故ニ其粉碎費百貫九十五錢八厘一萬擔當三圓二十錢ヲ加フレハ合計五圓三十五錢トナル

尙肥料配合運搬及覆土ニハ主トシテ男子人夫ヲ、施用ニハ女ヲ使用セリ男子ハ一日三十二錢女ハ二十錢ノ割ニテ計算セリ

其二 大豆粕粉費用

一、大豆粕粉碎費

月 日	粉末數量	所要人夫數	同上 賃銀	粉末百貫所要賃銀	一萬擔當施肥量ニ百貫ニ對シ
十二月九日	九四・八二〇	五・五〇	一・二〇〇	一・一六〇	二・三二〇
十二月十一日	二一・四三〇	・八一	・二六二	・七五六	一・五二〇
計及平均	一一六・二四〇	六・三一	一・二六二	平均 九五八	一・九一六

粉末百貫ヲ得ルニハ平均人夫四人七分九厘賃銀九十五錢八厘ニシテ一萬擔施肥量二百貫ニ對シ一圓九十一錢六厘トナル

粉碎スルニハ先ツ錠ニテ粗碎キヲナシ之ヲ臼ニ入レテ女三人ニテ搗碎シ三分五厘目ノ篩ニテ撰別セリ使用人夫ハ凡テ女ニシテ賃銀二十錢ナリ若シ粗碎キニ機械ヲ使用セハ其ノ賃銀ヲ低減シ得ヘシ

二、施用費

年 別	所要人夫數	同上 賃銀	施用擔數	一萬擔當所要人夫數	一萬擔當所要賃銀
大正元年	五〇	一・六三〇	一・三三五	三・八	一・九八四
大正二年	四九	一・四九九	一・八六七	二・八	一・九四三
計及平均	四九・五	一・五六四	一・五〇二	平均 三・八	平均 一・九六四

大正元年	大正二年	計及平均
男 五〇 女 〇	男 四九 女 〇	男 四九・五 女 〇
一・六三〇	一・四九九	一・五六四
一・三三五	一・八六七	一・五〇二
三・八	二・八	平均 三・八
一・九八四	一・九四三	平均 一・九六四

施用ハ茶樹一擔ニ對シ二十匁宛ヲ完全肥料ト同方法ニテ施セリ

大正元年ニ於ケル施用費一圓九十八錢四厘大正二年ハ一圓九十四錢二厘ニシテ平均一圓九十六錢四厘ナリ完全肥料施用費二圓十五錢ニ比シ十八錢六厘ノ低減ヲ示セルハ主トシテ配合ヲ要セザルト一擔當リ施肥量少キニヨルヘシ此ニ大豆粕粉碎費一圓九十一錢六厘ヲ加フル時ハ合計賃銀三圓八十八錢ヲ要スルコトナル

第五節 施肥無肥ノ對照

區 名	反別擔數	施一 肥 擔 量 當	季 別	收穫茶葉數量	一萬擔當同上	一萬擔當製茶量	製 茶 歩 合
施 肥	四、五六七	大豆粕 三三・三 過磷酸石灰 二七・〇 硫酸加里 二、〇五	春 茶 夏 茶 秋 茶 冬 茶 計	一六二・六五〇 一一八・九六〇 八八・二二〇 五、〇四〇 三七四・七七〇	三五五・四四一 二五九・九六五 一九二・五七〇 一一、〇一四 八一八・九九〇	九〇、〇六三 七〇、四二九 五三、四三八 三、二六六 二一七、一九六	二・五三 二・七一 二・七七 二・九七 二・六五

無肥		三、九五八			
計	春茶	夏茶	秋茶	冬茶	
二二九、四三〇	一一一、七六〇	七六、三六〇	四八、三三〇	二、九九〇	
六〇四、九二七	二八二、三六五	一九二、九二六	一一三、〇八二	七、五四四	
一六五、〇三九	七二、三四九	五五、七四五	三四、七二一	二、二四四	
二七三	二、五六	二、八九	二、八四	二、九七	

一四〇

右表ハ施肥無肥ノ平均收量ヲ對照セルモノニシテ施肥ハ前年ヨリ繼續シ本年ハ大正元年十二月茶樹一様ニ對シ大豆粕三三、四々過燐酸石灰七、五々硫酸加里二々ヲ施セリ今季別ニ比較スレハ施肥ハ無肥ニ對シ春茶七十三貫〇七十六々(二割五分九厘)夏茶六十七貫〇三十九々(三割四分七厘)秋茶七十四貫〇七十三々其ノ增收割合三割五分四厘ナリ

右施肥ノ無肥ニ對スル增收量ヲ見ルニ絕對量ニ於テハ春茶多シト雖モ其ノ割合ハ却ツテ秋夏ニ於テ多カリキ即チ肥効ハ夏秋ニ於テ多ク顯ハルノ成績ヲ示セリ

製茶歩合ハ春茶ニ於テハ施肥ニ比シ無肥三厘優リ夏茶ニ於テモ同シク一分八厘秋茶ハ七厘優リ冬茶ハ等シクシテ平均ニ於テ八厘無肥區優レルヲ見ル

今前年ノ收量ト對照セハ

區別	春季	夏季	秋季	冬季	計
大正二年	三五五、四四一	二五九、九六五	一九二、五七〇	一一〇、一四〇	八一八、九九〇
大正元年	三四二、七〇〇	二五一、〇〇〇	二七〇、八〇〇	五、六〇〇	八七〇、一〇〇
四十四年	三九三、〇〇〇	二七二、三〇〇	二八二、八〇〇	四九、五〇〇	九九七、六〇〇
四十四年	三一、七〇〇	二七三、六〇〇	二五九、二〇〇	一六、五二九	八四四、五〇〇
平均	三五〇、七二〇	二六四、二一六	二五一、三四三	一六、五二九	八八二、七九八
無肥	二八二、三六五	一九九、九二六	一二二、〇八二	七、五五四	六〇四、九二七
計	六〇四、九二七	七二、四〇〇	七四〇、四〇〇	六九八、二〇〇	六九一、二三三

大正元年ニ於テハ施肥區ハ無肥區ニ比シ百四十八貫七百々其歩合二割六厘ノ增收ニ過キサリシカ本年ハ前掲ノ如ク二百十四貫六十三々即三割五分四厘施肥區優秀ナル成績ニシテ又右表四箇年平均ニ於テハ百九十一貫二百三十三々其ノ增收割合二割七分七厘ニ達セリ思フニ相當ノ樹齡ニ達セシ茶樹ハ無肥ナル時ハ逐年衰弱收量減退ノ傾向アレトモ肥料ヲ施ス時ハ勢力ヲ旺盛ナラシメ且ツ樹勢ヲ永ク持續セシムルカ如シ

尙施肥ノ無肥ニ對スル增收ハ四箇年平均ニ於テ春茶五十貫〇九十四々(一割六分六厘)夏茶五十六貫五百三十四々(二割七分二厘)秋茶七十八貫八百七十二々(四割五分七厘)冬茶六貫〇六十五々(五割八分)ニシテ冬茶ハ例外トシテ秋茶最多ク夏茶春茶順次劣レリ即チ施肥ノ効果ハ秋夏ニ於テ顯ル、

一四一

九月三十日	〇五〇	〇五〇	〇五〇	〇五〇
十月十日	〇六〇	〇六〇	〇六〇	〇六〇
十月二十日	〇七〇	〇七〇	〇七〇	〇七〇
十月三十日	〇八〇	〇八〇	〇八〇	〇八〇
十一月十日	〇九〇	〇九〇	〇九〇	〇九〇
十一月廿六日	〇一〇〇	〇一〇〇	〇一〇〇	〇一〇〇
計	五五五	五五五	五五五	五五五

右表摘要欄中摘トアルハ摘探ノ意ニシテ數字ハ開葉數ナリ

前表ニ依リテ青心種ヲ比較スルニ設定當時ニアリテハ無肥區ノ伸長優レリシモ摘探期ニ近クニ從ヒ施肥區ノ伸長漸次旺盛トナリテ無肥區ヲ凌駕セリ即チ四月四日ニ於ケル兩者ノ差ハ依然四厘ノ差トナレリシモ四月十四日ニハ伸長量ノ差二分九厘トナリ同二十四日ニハ無肥區ノ一寸八厘ノ三葉開キニ對シ施肥區ハ一寸三分三厘ノ四葉開キニシテ五株ノ内三株摘探スルヲ得タリ即チ春茶第一回ノ摘探ニ於ケル兩者ノ差ハ施肥區ハ摘探時期ニ於テ約一週間早ク伸長量四月二十四日ノ調ヘニテ二分九厘多キヲ認メタリ而シテ第二回ノ摘探ニ於テハ施肥區ハ五月九日ヨリ發芽ヲ始メ内三株ハ六月五日伸長量一寸三分一厘三葉開キニテ摘探スルヲ得タルモ無肥區ハ五月十九日發芽ヲ始メ一株ハ六月五日ニ伸長量一寸五分ニテ摘探スルヲ得タルモ他ハ漸ク六月二十五日ニ至リ伸長量一寸一分三厘四葉開キニテ摘探セリ此間ノ差二十日ニシテ施肥區ハ第一回摘探ヨリ第二回摘探迄ニ要セシ日數約四十

二日ヲ要シ無肥區ハ五十二日ヲ要セリ而シテ第三回施肥區ハ六月十六日ヨリ發芽ヲ始メ七月二十日一寸一分五厘ノ四葉開キニテ摘探シ無肥區ハ七月二十二日ニ發芽シ二株ハ八月二十二日ニ摘探スルヲ得タリ其後施肥區ハ八月九日ニ發芽ヲ始メ九月十六日伸長量八分六厘ニテ第四回ノ摘探ヲナシ十一月十二日伸長量一寸二分ニテ第五回ノ摘探ヲナシ又無肥區ハ十月六日ニ第四回ノ摘探ヲナセリ而シテ施肥區ノ全伸長量五寸三分六厘ニ對シ無肥區ハ四寸四分八厘ニシテ其差八分八厘トナリ又摘探回數施肥區五回無肥區四回ニシテ施肥區ハ一回多ク摘探スルヲ得タリ又黃柑種ノ夫レヲ比較センニ兩者共春茶第一回ノ摘探ハ四月二十四日ニシテ其伸長量施肥區二寸六厘無肥區一寸三分三厘其差七分七厘トナレリ第二回ハ施肥區五月二十四日無肥區六月五日第三回施肥區七月十七日無肥區七月二十七日第四回施肥區八月十六日無肥區九月三日第五回施肥區九月三十日無肥區十月十一日ニ摘探シ摘探回數共ニ五回ニシテ青心種ノ如ク肥料ノ有無ニモ差顯著ナラザリキ

示表ノ如ク發芽ノ最モ早カリシハ不知春種ニシテ次キハ紅心種、大有種、漢口種、印度種、香圓、埔心、枝蘭、宇治、黃柑、福州、白毛猴、白心種等ノ順ナリ即チ三月十五日ノ調ヘニヨレハ不知春種ハ既ニ三葉ヲ開キテ七分八厘ニ伸長シ紅心種ハ五分ニ伸長セリ又四月四日ノ調ヘニヨレハ不知春種ハ六葉開芽一寸五分ニ伸長シ紅心種ハ五葉開芽二寸三厘ニ伸長シ大有種ハ二葉ニシテ九分埔心種

ハ四葉一寸三分一厘香圓種ハ四葉一寸一分四厘漢口種ハ三葉一寸三分二厘宇治種ハ四葉ニシテ八分ニ伸長セリ而シテ其摘採ノ最モ早カリシハ紅心種ニシテ即チ四月四日既ニ五葉ヲ開キ二寸三厘ニ伸長シテ摘採ノ時期ニ達セリ之ニ次クハ大有種ノ四月十日ニシテ四葉開芽一寸三分八厘ニ伸長以下漢口種ノ二寸九分四厘五葉開、香圓種ノ一寸九分六厘開、埔心種ノ一寸五分七厘五葉開、印度種ノ一寸五分六厘五葉開、枝蘭種ノ一寸三分五厘開、宇治種ノ一寸九厘五葉開キニシテ共ニ四月十日ニ摘採セリ又不知春種ハ二寸二分八厘ニテ四月十九日ニ摘採シ黃柑種二寸六厘ノ五葉、福州種一寸七分五厘五葉、白毛猴一寸四分ノ五葉等共ニ同日摘採セリ青心種、白心種ハ最モ晩クシテ四月二十四日、青心種ハ一寸七分八厘四葉、白心種ハ一寸五分八厘ニ伸長摘採セリ今發芽及摘採ノ早晚ヲ比較セハ紅心種ハ最モ早クシテ青心種ヨリ早キコト二十日、大有種ハ同十四日、漢口、香圓、埔心、印度、枝蘭、宇治ノ共二十日、不知春、黃柑、福州、白毛猴ハ五日間トス而シテ又春茶第一回中伸長ノ最モ旺盛ニシテ多カリシハ漢口種ノ二寸四分一厘ヲ第一トシ次キハ紅心種ノ一寸五分九厘、不知春種ノ一寸七分一厘、黃柑種ノ一寸七分八厘、香圓種ノ一寸四分二厘、大有種、埔心種等ノ順ナリ

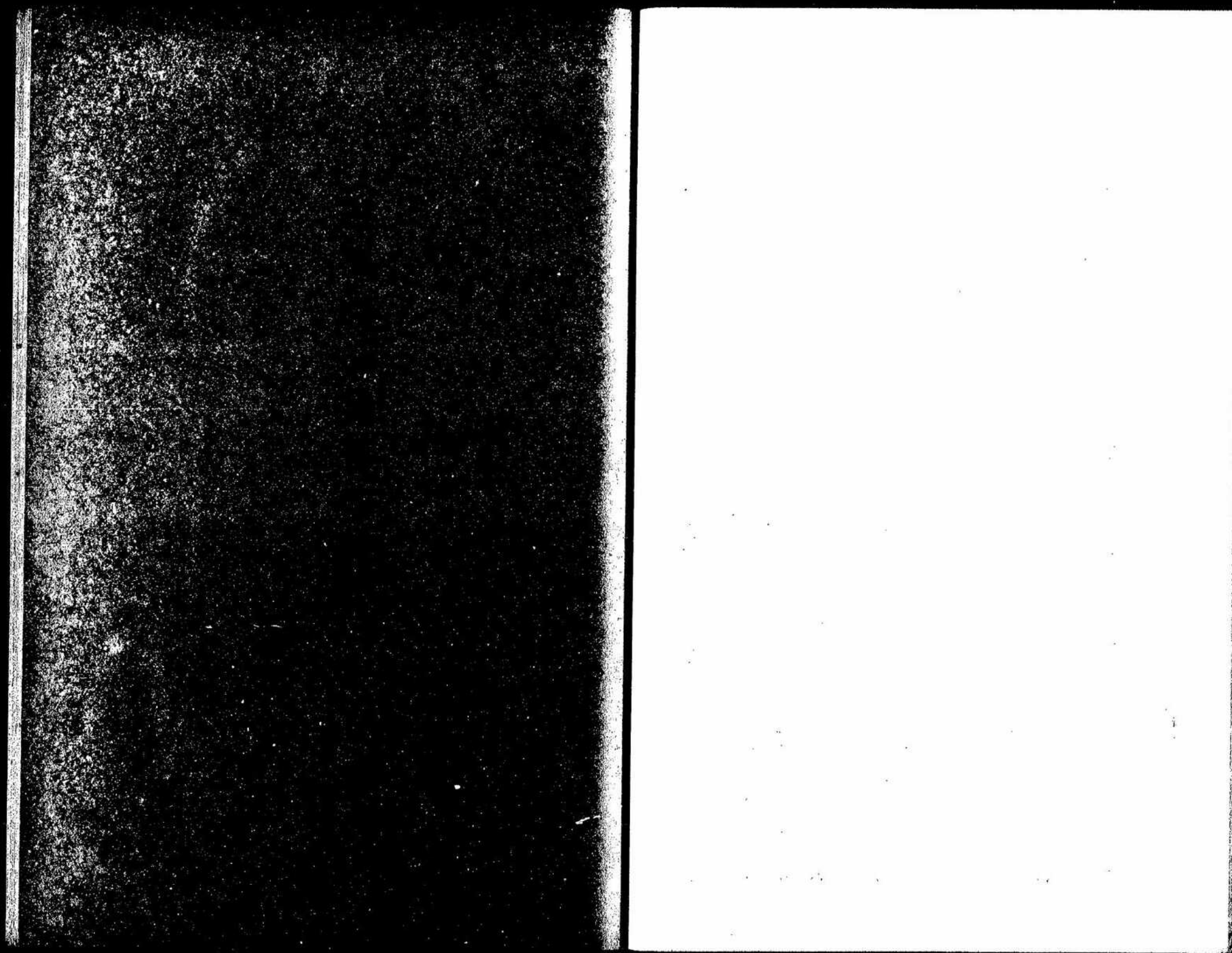
第二回又紅心種最モ早クシテ五月十九日既ニ二寸一分八厘ニ伸長シ摘採スルヲ得タリ次キハ黃柑種ノ二寸六分、白心種ノ二寸三分四厘、不知春種ノ二寸二分六厘、枝蘭大有ノ二寸一分二厘、白毛猴ノ七分四厘ニシテ共ニ六月五日ニ摘採セリ又宇治種ハ一寸六分、福州種ハ一寸四分五厘、印度種ハ

一寸三分、漢口種ハ一寸二分三厘、青心種ハ九分六厘ニシテ共ニ六月十日ニ摘採シ香圓、埔心ハ最モ晩クシテ六月二十一日ニ漸ク摘採ノ度ニ達セリ

第三回ハ同シク紅心種早クシテ七月一日一寸一分三厘ニ伸長之ヲ摘採シ黃柑種ハ一寸八分五厘、白心種ハ一寸七分五厘、印度種ハ一寸五分五厘ニ伸長、紅心種ニ晩ル、コト十一日ニシテ七月十二日ニ摘採セリ次キハ七月十七日ニ不知春、白心、大有、宇治、漢口、七月二十三日ニ枝蘭、青心ヲ八月四日ニ香圓、埔心ヲ摘採セリ

第四回紅心ハ八月九日ニ白心ハ八月十六日ニ黃柑、印度、宇治ハ八月二十二日ニ摘採シ香圓ハ九月三日ニ白毛猴ハ九月八日、青心種ハ九月十六日ニ摘採セリ

而シテ其全伸長量ヲ比較セハ白心種最モ多クシテ九寸六分ニ及ヒ之ニ次クハ黃柑種ノ九寸二分九厘不知春種ノ八寸九分、枝蘭種ノ八寸八分一厘、紅心種ノ八寸七分九厘ニシテ何レモ青心種ノ倍量ヲ越シ以下印度、漢口、香圓、宇治、大有、埔心、福州、白毛猴、青心ノ順トナレリ更ニ其摘採回数ヲ比較セハ枝蘭種ノ六回ヲ第一トシ白心、黃柑、紅心、印度、宇治ハ各五回ニシテ他ハ何レモ四回ノ摘採ヲナシ得ルニ過キサリキ而シテ又樹勢ノ一般ヲ比較スレハ枝蘭、黃柑、白心最モ良好ニシテ紅心、印度、漢口、之ニ次キ以下香圓、埔心、白毛猴、青心、宇治、不知春、大有等順次相劣レリ



三叉河分場事業報告目次

第一章 總說

第一節 建物

第二節 面積及茶權數

第二章 氣候

第一節 溫度

第二節 雨量

第三章 事業概況

第一節 本年各茶期ニ於ケル茶樹發育狀況

第二節 總收量及各季別明細表

第四章 試驗事項

第一節 肥料効果比較試驗

第二節 施肥期試驗

第三節 中耕回数試驗

- 第四節 三要素用量試驗
- 第五節 無肥中耕回數試驗
- 第六節 大豆粕單用試驗
- 第七節 剪枝期試驗
- 第八節 臺刈剪枝比較試驗
- 第九節 摘採回數試驗
- 第十節 青草肥料試驗
- 第十一節 過磷酸石灰單用試驗
- 第十二節 大豆粕硫酸鐵加用試驗
- 第十三節 燒土肥料試驗
- 第十四節 煤炭肥料試驗
- 第十五節 種類試驗
- 第十六節 無窒素肥料試驗
- 第十七節 大豆粕用量試驗
- 第十八節 二三年生收穫試驗

二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八

- 第十九節 移植試驗
- 第二十節 烏龍粗製茶品種試驗
- 第二十一節 茶樹高幅大小對收量試驗
- 第二十二節 茶實榨油試驗

第五章 機械

- 第一節 製茶機
- 第二節 大豆粕粉碎機

第六章 調查

- 第一節 施肥無肥收穫調查
- 第二節 茶芽伸長度合調查

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十



第一章 總說

第一節 建築物

總建物坪數六十二坪

名 稱	內 譯	棟 數	坪 數
事務室物置倉庫		一	一八・〇〇〇
作業場附屬倉庫		一	四二・〇〇〇
浴室及便所		一	二・〇〇〇
計		三	六二・〇〇〇

備考 總坪數大正元年九月十六日暴風雨ノ爲メ宿舍二棟倒壞本年三十三坪ヲ減ス

第二節 面積及茶機數

總反別八町三反〇二十步四合

內 譯

區 別	反 別	茶 機 數
		十八年生 十二年生 十年生 六年生 四年生 三年生 二年生 一年生 計

第二節 雨 量

四箇年月別雨量表

月 別	大正二年	大正元年	明治四十四年	明治四十三年
一 月	六〇・九	一三七・八	六八・八	九四・六
二 月	九一・九	七六・五	八・六	四三・三
三 月	三〇五・〇	一四七・九	一一〇・四	四三・三
四 月	七〇・一	四五・三	八八・一	一六八・一
五 月	二九二・三	三〇四・六	四九〇・二	二二二・四
六 月	一九四・二	九一・七	五八・五	二八三・五
七 月	八〇一・四	七二・六	八〇・四	二七九・四
八 月	二〇七・八	五八九・〇	七二四・一	一五・七
九 月	八〇・一	三一・七	一二九・五	二一・八
十 月	四・四	二・三	九三・〇	一七・三
十一 月	二・五	七・四	三一・〇	一七・三
十二 月	一一二・〇	五七・八	一八九・九	一七・三
計	二,二二二・六	二,六六四・六	一,八九一・九	一,二五六・一

備考 明治四十四年ハ一月ヨリ三月迄雨量観測セズ
左ニ本年ノ各月雨量期別量ヲ示ス可シ

期 別	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十一 月	十二 月
計	六〇・九	九一・九	三〇五・〇	七〇・一	二九二・三	一九四・二	八〇一・四	二〇七・八	八〇・一	四・四	二・五	一一二・〇
一 期	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二 期	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三 期	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
四 期	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
五 期	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
六 期	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

左ニ四箇年月別晴曇雨日數ヲ示ス可シ
四箇年月別晴雨表

年 別	大正二年	大正元年	明治四十四年	明治四十三年
一 月	晴 天	晴 天	晴 天	晴 天
二 月	曇 天	曇 天	曇 天	曇 天
三 月	雨 天	雨 天	雨 天	雨 天
四 月	晴 天	晴 天	晴 天	晴 天
五 月	曇 天	曇 天	曇 天	曇 天
六 月	雨 天	雨 天	雨 天	雨 天
七 月	晴 天	晴 天	晴 天	晴 天
八 月	曇 天	曇 天	曇 天	曇 天
九 月	雨 天	雨 天	雨 天	雨 天
十 月	晴 天	晴 天	晴 天	晴 天
十一 月	曇 天	曇 天	曇 天	曇 天
十二 月	雨 天	雨 天	雨 天	雨 天

冬茶ハ十月十二日ヨリ十一月十日迄ノ間ニシテ既ニ寒冷ノ候ニ向ヒ且連日快晴持續セシヲ以テ一、
 二同僅少ノ摘採ヲ爲シ全ク本年ヲ終レリ一箇年ヲ通シ前年ヨリ生産茶葉二百六十九貫八百四十匁ノ
 增收ニシテ一權當リ二分六厘餘ノ增收ニ當レリ

第二節 總收量及各季別明細表

一總收穫茶葉二千三百三十二貫七百六十匁

內譯

季別	摘採茶權數	收穫茶葉量	一權平均收葉	一箇年收穫ニ對スル割合
春季茶	四六、九二一	一、〇六〇、一八〇	二二、六〇	四、五五
夏季茶	四六、九二一	七七三、一四〇	一六、四八	三、三一
秋季茶	四六、九二一	四七〇、四八〇	一〇、〇二	二、〇二
冬季茶	四六、九二一	二八、九六〇	〇、六二	〇、一一
計	四六、九二一	二、三三二、七六〇	四九、七二	一〇、〇〇

季別收量明細表

季別	收穫茶葉量	拂下茶葉量	供試茶種別	供試茶葉量	同上製茶量	同上割合
春季茶	四六、九二一	四六、九二一	烏紅綠龍	一、〇六〇、一八〇	一、〇六〇、一八〇	四、五五
夏季茶	四六、九二一	四六、九二一	烏紅綠龍	七七三、一四〇	七七三、一四〇	三、三一
秋季茶	四六、九二一	四六、九二一	烏紅綠龍	四七〇、四八〇	四七〇、四八〇	二、〇二
冬季茶	四六、九二一	四六、九二一	烏紅綠龍	二八、九六〇	二八、九六〇	〇、一一
計	四六、九二一	四六、九二一	烏紅綠龍	二、三三二、七六〇	二、三三二、七六〇	一〇、〇〇

季別	收穫茶葉量	拂下茶葉量	供試茶種別	供試茶葉量	同上製茶量	同上割合
春季茶	四六、九二一	四六、九二一	烏紅綠龍	一、〇六〇、一八〇	一、〇六〇、一八〇	四、五五
夏季茶	四六、九二一	四六、九二一	烏紅綠龍	七七三、一四〇	七七三、一四〇	三、三一
秋季茶	四六、九二一	四六、九二一	烏紅綠龍	四七〇、四八〇	四七〇、四八〇	二、〇二
冬季茶	四六、九二一	四六、九二一	烏紅綠龍	二八、九六〇	二八、九六〇	〇、一一
計	四六、九二一	四六、九二一	烏紅綠龍	二、三三二、七六〇	二、三三二、七六〇	一〇、〇〇

第四章 試驗事項

第一節 肥料効果比較試驗

目的 茶樹一權ニ付窒素ニ及テ給スルモノトシテ各種肥料ノ効果ヲ比較スルニアリ

方法 本試驗ハ八區ニ別テ各區百歩宛トシ大豆粕、硫酸滿俺加用區ハ大正元年十二月二十二日及二十
 十六日其他ハ各區トモ十二月二十二日ニ施肥セリ

第三節 中耕回数試験

目的 中耕回数ハ收量ニ如何ナル影響ヲ及ス可キヤヲ知ラントスルニアリ
 方法 本試験ハ四區ニ分テ各區共一標ニ付窒素二匁、磷酸一匁二分、加里八分ノ割合ニ施肥シ中耕ノ回数ヲ年二回三回四回ニ區別シ外ニ無肥無中耕ノ一區ヲ加ヘリ
 本試験成績ハ左ノ如シ

區名	中耕回数	一萬擔收量	採探期間	季別一萬擔收量				同上各季採探會平均
				春	夏	秋	冬	
大豆	三回	100.0	自三月廿九日至十一月七日	22.5	15.8	5.5	0.0	43.8
通商	三回	100.0	同上	22.5	15.8	5.5	0.0	43.8
加里	三回	100.0	同上	22.5	15.8	5.5	0.0	43.8
無肥	三回	100.0	同上	22.5	15.8	5.5	0.0	43.8
無中耕	一回	100.0	同上	22.5	15.8	5.5	0.0	43.8

右ノ成績ニ據レハ收量ノ多寡ハ正ニ中耕回数ニ比例シ之ヲ無肥無中耕ノモノニ比スレハ四回中耕ノモノハ其ノ六倍餘三回ノモノハ殆ト五倍二回ノモノハ四倍餘ノ增收ニ當リ分明ニ中耕ノ効果ヲ現セ

明治四十三年以降ノ收量ヲ示セハ左ノ如シ

區名	中耕回数	大正二年	大正元年	明治四十四年	明治四十三年
春	二	423.1	403.4	399.9	436.8
夏	二	428.1	365.2	370.9	434.3
秋	三	526.6	431.6	446.4	479.6
冬	四	654.3	564.6	560.4	614.4

右ニ據レハ前三箇年トモ本年ニ於ケルモノト殆ト其ノ揆ヲ一ニセリ
 左ニ製茶審査鑑定ヲ示ス可シ

項目	定點	春夏區		夏秋區		春夏秋區		春夏秋冬區	
		春	夏	春	夏	春	夏	春	夏
形	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
色	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
澤	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
味	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100

右ニ據レハ春夏平均ニ於テ春夏區ハ遙ニ他ヨリ優リ他三區ノ間殆ント差違ヲ認メス
紅茶審査

項目	春		夏		平均		春		夏		平均		春		夏		平均	
	春	夏	春	夏	春	夏	春	夏	春	夏	春	夏	春	夏	春	夏	春	夏
計	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
香味	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
水色	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
色澤	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
形状	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8

右ニ據レハ春夏平均ニ於テ各區ノ間殆ト差異ヲ來サス

第四節 三要素用量試験

目的 肥料三要素タル窒素、磷酸及加里ノ適當ナル施用量ヲ知ラントスルニアリ

一、窒素用量試験成績

方法 本試験ハ五區ニ別チ無窒素區ヲ標準トシ窒素一匁區、二匁區、三匁區及四匁區ノ四區ヲ比較セリ
本試験ノ成績ハ左ノ如シ

區名	一匁宛用量	一匁宛施肥	採期	一萬匁收葉量				同上年製茶率
				春	夏	秋	計	
無窒素	0	0	自四月十五日	117.5	118.8	118.8	355.1	100
一匁	10	10	自十月廿三日	126.5	125.5	125.5	377.5	105
二匁	20	20	自十月廿三日	131.0	131.0	131.0	393.0	110
三匁	30	30	自十一月廿七日	138.0	138.0	138.0	414.0	115
四匁	40	40	自十一月廿七日	140.0	140.0	140.0	420.0	117

右ノ成績ニ據レハ窒素一匁區ヨリ同三匁區ニ至ルマテハ窒素ノ施用量ヲ増加スルニ從ヒテ其ノ收量ヲ増加シ三匁區ニ於テ最多ノモノヲ得四匁區ハ却テ此レヨリ劣レルヲ見ル
明治四十三年以降連年ノ收量ヲ示セハ左ノ如シ

區名	一匁宛用量	大正二年		大正元年		明治四十四年		明治四十三年	
		一萬匁收葉量	一萬匁收葉量	一萬匁收葉量	一萬匁收葉量	一萬匁收葉量	一萬匁收葉量	一萬匁收葉量	一萬匁收葉量
無窒素	0	59,480	53,940	53,940	53,210	53,210	53,210	28,369	28,369
一匁	10	28,660	28,120	28,120	35,549	35,549	35,549	48,029	48,029
二匁	20	47,130	40,137	40,137	40,420	40,420	40,420	39,505	39,505
三匁	30	67,170	66,572	66,572	66,341	66,341	66,341	72,250	72,250
四匁	40	65,040	62,919	62,919	59,173	59,173	59,173	66,516	66,516

右明治四十三年ニ於テ二区區ノ收量一区區ヨリ劣レルヲ除ケハ連年窒素施用量ト收量トノ關係ヲ同クシ三区區ノ收量常ニ最多ナルヲ示セリ之ニ據リテ見レハ茶樹一欄ニ對スル窒素ノ適量ハ三区内外トシテ可ナルモノト如シ
左ニ製茶審査ヲ示ス可シ

緑茶審査

項目	定點	無窒素區				窒素一匁區				窒素二匁區				窒素三匁區				窒素四匁區				
		春	夏	平均	計	春	夏	平均	計	春	夏	平均	計	春	夏	平均	計	春	夏	平均	計	
形	狀	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
色	澤	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
水	色	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
香	味	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
計		1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5

右ニ據レハ春茶ハ概シテ窒素施用量ノ少キモノハ其多キモノヨリモ優リ夏茶ハ之ニ反スルノ傾向アルヲ見ル

紅茶審査

項目	定點	無窒素區				窒素一匁區				窒素二匁區				窒素三匁區				窒素四匁區				
		春	夏	平均	計	春	夏	平均	計	春	夏	平均	計	春	夏	平均	計	春	夏	平均	計	
形	狀	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
色	澤	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
水	色	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
香	味	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
計		1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5

右ニ據レハ緑茶ニ於ケルモノニ反シ春茶ニ於テハ概シテ窒素施用量ノ多キモノハ其ノ少キモノヨリモ優リ夏茶ハ又正ニ之ニ反セルヲ見ル
二、磷酸用量試驗成績
方法、本試驗ハ五區ニ別テ無機肥區ヲ標準トシ磷酸一匁區、二匁區、三匁區、四匁區ノ四區ヲ比較セリ本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

區名	一匁宛用量	一匁宛施量	採探期間	季別一萬匁收葉量				計	同上各季製茶歩合												
				春	夏	秋	冬		春	夏	秋	冬									
無機肥	加	二匁	三月廿九日	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
一號	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二號	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三號	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四號	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

右ノ成績ニ據レハ磷酸一匁區ト同ニ匁區トハ收量ハ大差ナク共ニ却テ無磷酸區ヨリモ劣レルモ三匁區ニ至リテ甚タ收量ヲ増加シ四匁區ハ却テ此レヨリモ劣レルヲ見ル
 明治四十三年以降連年ノ收量ヲ示セハ左ノ如シ

區名	一匁匁用量		大正二年		大正元年		明治四十四年		明治四十三年	
	燒酎	望葉加里	一萬匁收量	一萬匁收量	一萬匁收量	一萬匁收量	一萬匁收量	一萬匁收量	一萬匁收量	一萬匁收量
無磷酸	—	—	五七五、二二〇	四二二、八一〇	四四一、〇六〇	四四一、〇六〇	四四一、〇六〇	四四一、〇六〇	四四一、〇六〇	四四一、〇六〇
一匁	—	—	五〇九、九六〇	四六七、三三〇	四二四、三八〇	四二四、三八〇	四二四、三八〇	四二四、三八〇	四二四、三八〇	四二四、三八〇
二匁	—	—	五〇四、六二〇	五〇六、五九〇	三三〇、〇〇〇	三五〇、〇〇〇	三五〇、〇〇〇	三五〇、〇〇〇	三五〇、〇〇〇	三五〇、〇〇〇
三匁	—	—	六七五、三四〇	六三三、六四〇	六一四、〇五〇	六一四、〇五〇	六一四、〇五〇	六一四、〇五〇	六一四、〇五〇	六一四、〇五〇
四匁	—	—	六三九、六三〇	五九〇、六四〇	四七三、二七〇	四七三、二七〇	四七三、二七〇	四七三、二七〇	四七三、二七〇	四七三、二七〇

右ニ據レハ無磷酸區ヨリ磷酸二匁區ニ至ルマテハ其ノ收量ノ増減甚タ區々タルモ三匁區ニ於テ最多ノ收量ヲ得四匁區ハ却テ之レヨリモ劣レルノ成績ハ連年其揆ヲ一ニセルヲ見ル
 左ニ製茶審査ヲ示ス可シ

項	目	定	點	無磷酸區		磷酸一匁區		磷酸二匁區		磷酸三匁區		磷酸四匁區	
				春	夏	秋	平均	春	夏	秋	平均	春	夏
香	水	色	形	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
味	色	澤	狀	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

右ニ據レハ三季平均ニ於テ無磷酸區若クハ磷酸一匁區ハ同ニ匁區若クハ同ニ匁區ヨリモ劣レルモ四匁區モ亦タ後二匁ヨリ劣レリ

紅茶審査

項	目	定	點	無磷酸區		磷酸一匁區		磷酸二匁區		磷酸三匁區		磷酸四匁區	
				春	夏	秋	平均	春	夏	秋	平均	春	夏
香	水	色	形	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
味	色	澤	狀	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

右ニ據レハ三季平均ニ於テ無磷酸區最モ優リ磷酸施用量ノ増加スルニ從ヒテ順次相劣レルヲ見ル

三、加里用量試驗成績

方法 本試験ハ五區ニ分割シ無加里區ヲ標準トシ加里一匁區、二匁區、三匁區、四匁區ノ四區ヲ比較セリ

本試験ノ成績ハ左ノ如シ

區名	一匁宛用葉量	一匁宛葉量	摘採期間	季別一萬匁收葉量				同上季葉茶割合
				春	夏	秋	計	
無加里	一匁	一匁	三月廿九日 至五月十一日	2000	2000	2000	6000	100%
一匁	一匁	一匁	同	1800	1800	1800	5400	90%
二匁	一匁	一匁	同	1600	1600	1600	4800	80%
三匁	一匁	一匁	同	1400	1400	1400	4200	70%
四匁	一匁	一匁	同	1200	1200	1200	3600	60%

右ノ成績ニ依レハ加里施用量ノ多少ニ對スル收量ノ増減甚ク區々タルノミナラス無加里區ノ收量最多ニシテ毫モ加里施用ノ効果ヲ現サス

明治四十三年以降連年ノ收量ヲ示セハ左ノ如シ

區名	一匁宛用葉量	大正二年	大正元年	明治四十四年	明治四十三年
加里	一匁	一萬匁收葉量	一萬匁收葉量	一萬匁收葉量	一萬匁收葉量

無加里	一匁	二匁	三匁	四匁
六四〇、〇九〇	五九〇、四九〇	六二一、二二〇	五五六、七〇〇	六〇〇、〇〇〇
四四九、一六〇	四七六、八四〇	五二五、一四〇	四七三、八五〇	四三八、六九〇
四三三、一七〇	四九三、一九〇	五〇三、八五〇	四二六、一三〇	四四八、三九〇
四五四、九〇〇	四五四、七一〇	四七九、〇四〇	四三一、九八〇	四九九、六五〇

右連年ノ成績ヲ概觀スレハ茶樹一匁ニ對スル加里ノ適量ハ二匁内外ニアルモノ、如シ
左ニ製茶審査鑑定ヲ示ス可シ

綠茶審査

項目	定點	無加里區		加里一匁區		加里二匁區		加里三匁區		加里四匁區	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
形	狀	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
色	澤	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
水	色	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
香	味	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
計		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

右ニ據レハ三季平均ニ於テ加里四匁區最モ優リ無加里區最モ劣レルヲ見ル

紅茶審査

項目	定點	無加里區		加里一匁區		加里二匁區		加里三匁區		加里四匁區	
		春	秋平均	春	秋平均	春	秋平均	春	秋平均	春	秋平均
計	形	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	色	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
香水	味	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	色	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
澤	狀	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

右ニ據レハ各區ノ間大差ナキヲ見ル

第五節 無肥中耕回数試験

目的 中耕回数ノ多少ハ肥料ヲ施サ、ル場合其收量ニ如何ナル影響ヲ及スハキヤヲ知ラントスルニアリ

方法 本試験ハ六區ニ別チ中耕ヲ年一回、二回、三回、四回ニ區別シ外ニ無中耕ノ一區ヲ加フ
本試験ノ成績ハ左ノ如シ

區名	中耕期 回数	採採期間	採採回数	季別一萬權收葉量				同上各季葉量 平均
				春	夏	秋	冬	
無中耕	1	自四月十六日 至八月廿九日	1	111	111	111	111	111
一	2	同上	2	111	111	111	111	111
二	3	同上	3	111	111	111	111	111
三	4	同上	4	111	111	111	111	111
四	5	同上	5	111	111	111	111	111
五	6	同上	6	111	111	111	111	111
六	7	同上	7	111	111	111	111	111

區名	中耕期 回数	採採期間	採採回数	季別一萬權收葉量				同上各季葉量 平均
				春	夏	秋	冬	
無中耕	1	自四月十六日 至八月廿九日	1	111	111	111	111	111
一	2	同上	2	111	111	111	111	111
二	3	同上	3	111	111	111	111	111
三	4	同上	4	111	111	111	111	111
四	5	同上	5	111	111	111	111	111
五	6	同上	6	111	111	111	111	111
六	7	同上	7	111	111	111	111	111

右ノ成績ニ據レハ四回中耕區ノ收量最多ニシテ春秋二回中耕ノモノ之ニ亞キ三回中耕ノモノハ春夏
若クハ夏秋二回ノモノニ優ルト雖モ春秋二回若クハ冬期一回ノモノヨリモ劣レルヲ見ル
明治四十三年以降連年ノ收量ヲ示セハ左ノ如シ

區名	中耕期 回数	大正二年		大正元年		明治四十四年		明治四十三年	
		一萬權收葉量	一萬權收葉量	一萬權收葉量	一萬權收葉量	一萬權收葉量	一萬權收葉量	一萬權收葉量	一萬權收葉量
無中耕	1	111	111	111	111	111	111	111	111
一	2	111	111	111	111	111	111	111	111
二	3	111	111	111	111	111	111	111	111
三	4	111	111	111	111	111	111	111	111
四	5	111	111	111	111	111	111	111	111
五	6	111	111	111	111	111	111	111	111
六	7	111	111	111	111	111	111	111	111

春	夏	秋	冬	計	同上各季製茶歩合
一〇〇	三〇	二〇	三〇	一〇〇	一〇〇
六二	一九	一五	一〇	六二	六二
六二	一九	一五	一〇	六二	六二
六四	二〇	一五	一〇	六四	六四
五九	一八	一五	一〇	五九	五九
六二	二〇	一五	一〇	六二	六二
六二	一六	二〇	一〇	六二	六二
六〇	一八	一五	一〇	六〇	六〇

右ノ成績ニ據レハ四回中耕ノモノハ連年收量最多ニシテ三回中耕ノモノト春夏若クハ夏秋二回中耕ノモノトハ概シテ春秋二回若クハ冬期一回中耕ノモノヨリモ劣レルヲ見ル

左ニ製茶(春茶)審査ヲ示ス可シ

緑茶審査

項	目	定點	春	夏	秋	冬	計	無中耕區
形	狀	三〇	一八	一七	一九	一七	一七	一六
	澤	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
色	澤	二〇	一五	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
	味	三〇	一九	一五	一〇	一〇	一〇	一〇
水	澤	二〇	一五	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
	味	三〇	一九	一五	一〇	一〇	一〇	一〇
香	澤	二〇	一五	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
	味	三〇	一九	一五	一〇	一〇	一〇	一〇
計		一〇〇	六二	六二	六四	五九	六二	六二

右ニ據レハ三回中耕ノモノ最モ優リ四回中耕區最モ劣レリ

紅茶審査

項	目	定點	春	夏	秋	冬	計	無中耕區
形	狀	三〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
	澤	二〇	一五	一五	一五	一五	一五	一五
色	澤	二〇	一五	一五	一五	一五	一五	一五
	味	三〇	一九	一五	一〇	一〇	一〇	一〇
水	澤	二〇	一五	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
	味	三〇	一九	一五	一〇	一〇	一〇	一〇
香	澤	二〇	一五	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
	味	三〇	一九	一五	一〇	一〇	一〇	一〇
計		一〇〇	六二	六二	六六	七一	五七	五七

右ニ依レハ緑茶ニ於ケルモノニ反シ四回中耕區最モ優秀ニシテ春秋二回中耕ノモノト無中耕區トハ劣レリ

第六節 大豆粕單用試驗

目的 大豆粕單用ノ肥効ヲ知ラントスルニアリ

方法 本試驗區ヲ二區ニ別チ大豆粕二十匁區及三十匁區ヲ設ケリ

本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

區名	一圃施肥量	摘採期間	摘採回数	春	夏	秋	冬	計	同上各季製茶歩合

右ニ據レハ紅茶ノ場合ハ其ノ優劣甚ク區々タリ

第八節 臺刈剪枝比較試驗

目的 在來ノ臺刈法ト剪枝法トノ得失ヲ比較セントスルニアリ
 方法 本試驗ハ臺刈剪枝兩區トモ施肥ト無肥トニ區別セリ
 本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

區名	時期	一區施肥量	摘採期間	同摘採				計	同上各季製茶歩合
				春	夏	秋	冬		
臺刈	自三月廿九日 至十一月七日	大豆粉 八〇〇 石灰 一七〇	三三	三三	三三	三三	一三二	三三	
剪枝	自四月八日 至十一月七日	無肥	三三	三三	三三	三三	一三二	三三	
同	同	無肥	三三	三三	三三	三三	一三二	三三	
同	同	無肥	三三	三三	三三	三三	一三二	三三	

右ノ成績ニ依レハ剪枝シタルモノ、收量ハ無肥施肥共ニ臺刈シタルモノニ優レリ
 明治四十三年以降連年ノ收量ヲ示セハ左ノ如シ

區名	摘要	大正二年	大正元年	明治四十四年	明治四十三年
		一萬權收葉量	一萬權收葉量	一萬權收葉量	一萬權收葉量
臺刈	無肥	六八八、九五〇	七三七、九七〇	三五五、四九〇	三九二、九八〇
剪枝	無肥	八九〇、一〇〇	八一〇、五八〇	六五八、五九〇	三六六、四二〇
同	無肥	三九六、六八〇	五三三、六〇〇	二九四、〇九〇	三八八、八七〇
同	無肥	四三〇、三六〇	四三一、七一〇	五二五、七六〇	三六四、二八〇

項	目	施肥區		無肥區	
		春	夏	春	夏
形	狀	100	100	100	100
色	澤	100	100	100	100
水	色	100	100	100	100
香	味	100	100	100	100
計		100	100	100	100

右ニ據リテ見レハ明治四十三年及大正元年無肥ヲ除ケハ其他ハ剪枝シタルモノ、收量ハ常ニ臺刈シタルモノニ優レリ
 左ニ製茶審査鑑定ヲ示ス可シ

綠茶審査

項	目	施肥區		無肥區		無肥剪枝區	
		春	夏	春	夏	春	夏
形	狀	100	100	100	100	100	100
色	澤	100	100	100	100	100	100
水	色	100	100	100	100	100	100
香	味	100	100	100	100	100	100
計		100	100	100	100	100	100

右ニ據レハ施肥區ニ於テ臺刈區ハ少シク剪枝區ヨリモ優レリ

紅茶審査

項目定點	施肥劃區			無肥劃區			無肥剪枝區		
	春	夏	平均	春	夏	平均	春	夏	平均
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100
香味	1.2	1.1	1.15	1.3	1.2	1.25	1.4	1.3	1.35
水色	1.5	1.4	1.45	1.6	1.5	1.55	1.7	1.6	1.65
色澤	1.8	1.7	1.75	1.9	1.8	1.85	2.0	1.9	1.95
形狀	2.1	2.0	2.05	2.2	2.1	2.15	2.3	2.2	2.25

右ニ據レハ各區ノ開始ト差違ヲ認メス

第九節 摘採回数試験

目的 若芽摘ト硬芽摘トノ得失及其摘採ノ適期ヲ知ラントスルニアリ
本試験ノ成績ハ左表ノ如シ

區名	摘採期	摘採期間	摘採回数	季別一萬權收葉量				同上各季製茶歩合				
				春	夏	秋	冬	計	春	夏	秋	冬
六日	每六日	自四月六日	三	186.8	186.8	186.8	186.8	373.6	373.6	373.6	373.6	373.6
九日	每九日	自四月八日	二	186.8	186.8	186.8	186.8	373.6	373.6	373.6	373.6	373.6
十二日	每十二日	自四月十日	一	186.8	186.8	186.8	186.8	373.6	373.6	373.6	373.6	373.6
十五日	每十五日	自四月十日	一	186.8	186.8	186.8	186.8	373.6	373.6	373.6	373.6	373.6

右ノ成績ニ據レハ十五日目ニ摘採シ其ノ回数最少キモノ、收量最多ナルモノ十二日目ノモノハ却テ六日若クハ九日目ノモノヨリモ適ニ劣レルヲ見ル

第二表 臺刈

區名	一萬權肥量	臺刈月日	摘採期間	摘採回数	季別一萬權收葉量				同上各季製茶歩合				
八日	大豆 每畝 100	十二月廿五日	自五月三十日	10	110.00	110.00	110.00	110.00	440.00	440.00	440.00	440.00	440.00
八日	大豆 每畝 100	十二月廿五日	自五月三十日	10	110.00	110.00	110.00	110.00	440.00	440.00	440.00	440.00	440.00
八日	大豆 每畝 100	十二月廿五日	自五月三十日	10	110.00	110.00	110.00	110.00	440.00	440.00	440.00	440.00	440.00
八日	大豆 每畝 100	十二月廿五日	自五月三十日	10	110.00	110.00	110.00	110.00	440.00	440.00	440.00	440.00	440.00

前表ニ依レハ施肥區ニ於テ摘採回数少キモノハ其ノ多キモノヨリモ收量多ク無肥區ニ於テハ大差ナキヲ見ル

第一表ニ對スル大正元年ノ收量ヲ參考スレハ左ノ如シ

區名	摘採期	大正二年(一萬權收葉量)	大正元年(一萬權收葉量)
六日	每六日	266,280	254,590
九日	每九日	260,430	322,220
十二日	每十二日	184,400	287,560
十五日	每十五日	295,690	266,310

右ニ據レハ摘採期ニ對スル收量ノ多寡ハ兩年甚ダ趣ヲ異ニシ未タ容易ニ其ノ得失ヲ判定スヘカラサ
ルモノトス

左ニ第一表ニ對スル製茶審査鑑定ヲ示ス可シ

綠茶審査

項目	定點	六日目區		九日目區		十二日目區		十五日目區	
		夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋
形	三〇	一六	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
色	二〇	一一	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二
水	二〇	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
味	三〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
計	一〇〇	六三	六五	六二	六二	六三	六三	六三	六三

右ニ據レハ九日目ニ摘採セルモノ最モ優リ其ノ摘採回数ノ此レヨリ多キモノモ少キモノモ共ニ劣
リ

第二表ニ對スル紅茶審査ノ成績ハ左ノ如シ

項目	定點	無肥八日目區		施肥八日目區		無肥十一日目區		施肥十一日目區	
		夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋
形	三〇	一六	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
色	二〇	一一	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二
水	二〇	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
味	三〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
計	一〇〇	六三	六五	六二	六二	六三	六三	六三	六三

項目	定點	無肥八日目區		施肥八日目區		無肥十一日目區		施肥十一日目區	
		夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋
形	三〇	一六	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
色	二〇	一一	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二
水	二〇	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
味	三〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
計	一〇〇	六三	六五	六二	六二	六三	六三	六三	六三

右ニ依レハ兩區ノ間大差ナキヲ見ル

第十節 青草肥料試驗

目的 青草肥料ノ効果ヲ知ラントスルニアリ
方法 春茶摘採後茶樹ノ傍ヲ牽キ開キ青草ヲ敷込ミ後復土セリ
本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

區名	一擔施肥量	摘採期間	摘採回数	季別一擔收穫量				計	同上各季製茶歩合					
				春	夏	秋	冬		春	夏	秋	冬	平均	
無肥	八〇〇	自三月廿九日 至十一月七日	三	三三	三三	三三	三三	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二
青草	八〇〇	同	同	三三	三三	三三	三三	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二

右ノ成績ニ依レハ青草區ノ收量ハ無肥料區ニ比シ六割八分餘ノ增收ニ當レリ
明治四十四年以降連年ノ收量ヲ示セハ左ノ如シ

區名	一萬權肥量	大正二年		大正元年		明治四十四年	
		一萬權收葉量	一萬權收葉量	一萬權收葉量	一萬權收葉量		
無肥		四四二、九九〇	四九一、六五〇	五七二、九六〇			
青草	八〇〇	七四八、三四〇	七三二、八三〇	七九〇、三一〇			

右ニ據レハ連年青草肥料ノ効果ヲ現ハセリ
左ニ製茶審査ヲ示ス可シ

綠茶審査

項目	定點	無肥區			青草區		
		春	夏	平均	春	夏	平均
形	三〇	一六	一八	一六	一八	一五	一六
色	二〇	一〇	一三	一四	一一	一三	一三
澤	二〇	一五	一四	一四	一五	一四	一四
味	三〇	一七	一七	一六	一六	一六	一五
計	一〇〇	五八	六二	五八	六〇	五八	五八

右ニ依レハ三季平均ニ於テ兩區ノ間差違ナキヲ見ル

紅茶審査

項目	定點	無肥區			青草區		
		春	夏	平均	春	夏	平均
形	三〇	二〇	一七	一七	一八	一六	一七
色	二〇	一一	一五	一三	一〇	一六	一三
澤	二〇	一一	一五	一三	一四	一六	一三
味	三〇	一六	一六	一五	一五	一四	一五
計	一〇〇	六三	六三	五九	五七	六一	五九

右ニ依レハ紅茶モ亦タ綠茶ト同シク兩區ノ間優劣ナカリキ

第十一節 過磷酸石灰單用試驗

目的 過磷酸石灰單用ノ效果ヲ知ラントスルニアリ
本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

區名	一萬權肥量	採採期間	採採回数	季別一萬權收葉量				同上各季製茶歩合														
				春	夏	秋	冬	計	春	夏	秋	冬	平均									
過磷酸石灰	九〇	自四月八日 至十一月七日	11回	110.21	110.11	110.11	110.11	110.11	110.11	110.11	110.11	110.11	110.11	110.11	110.11	110.11	110.11	110.11	110.11	110.11	110.11	
無肥		自四月八日 至十一月七日	11回	109.11	109.11	109.11	109.11	109.11	109.11	109.11	109.11	109.11	109.11	109.11	109.11	109.11	109.11	109.11	109.11	109.11	109.11	109.11

前表ニ依レハ過磷酸石灰ヲ單用スルモ無肥料區ニ比シ四割四分餘ノ增收ヲ得タリ

項目 形目 定點 無肥區 燒土區

色澤 三〇 二〇 二〇 一八

水色 二〇 二〇 二〇 一五

香味 一〇〇 三〇 六四 五八

計 一〇〇 三〇 六四 五八

第十四節 燻炭肥料試驗

右ニ依レハ綠茶ハ施肥ノ効果甚タ少ナク紅茶ニ於テハ無肥料ノモノ却テ燒土肥料區ニ優レリ

目的 燻炭肥料ノ効果ヲ知ラントスルニアリ

本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

區名	一標施肥量	摘採期間	摘採同數	季別一萬標收量					同上各季製茶歩合					
				春	夏	秋	冬	計	春	夏	秋	冬	平均	
無肥		自四月八日 至十月廿二日	三	110.0	110.0	110.0	110.0	110.0	110.0	110.0	110.0	110.0	110.0	110.0
燻炭	一〇〇	同	三	110.0	110.0	110.0	110.0	110.0	110.0	110.0	110.0	110.0	110.0	110.0

大正元年ニ於ケル收量ヲ示セハ左ノ如シ

區名 一標施肥量 大正元年(一萬標收量)

無肥 一六〇 一二九.八六〇

燻炭 一六〇 一四〇.三九〇

右ノ成績ニ依レハ兩年トモ燻炭肥料ノ効果甚タ少ニシテ未タ有効ナル好肥料ト稱スヘカラサルモノアリ

綠茶審査

項目 形目 定點 無肥區 燻炭區

色澤 三〇 二〇 一八 一八

水色 二〇 二〇 一五 一二

香味 一〇〇 三〇 六五 二〇

計 一〇〇 三〇 六五 二〇

紅茶審査

項目 形目 定點 無肥區 燻炭區

色澤 三〇 二〇 一八 一六

水色 二〇 二〇 一五 一〇

香味 一〇〇 三〇 六五 一六

計 一〇〇 三〇 六五 一六

第十五節 種類試驗

右ニ依レハ綠茶ニ於テハ兩區差違ナク紅茶ニ於テハ無肥區ハ却テ燻炭區ニ優レリ

目的 茶樹種類ノ優劣ヲ比較セントスルニアリ

本試験ノ成績ハ左ノ如シ

茶種樹齡	一畝施肥量	採期期間	採回数	季別一畝採葉量				計	同上各季製茶歩合
				春	夏	秋	冬		
時茶	一畝施肥量	自三月三十日 至四月廿三日	三	四八七〇〇	五二七五〇	三二四九〇	一三三九四〇	二二〇	
青心	一畝施肥量	自三月廿三日 至四月廿三日	三	六八四〇〇	五二七五〇	三二四九〇	一五三六四〇	二二〇	
枝蘭	一畝施肥量	自三月廿三日 至四月廿三日	三	五九三三〇	五二七五〇	三二四九〇	一四四五七〇	二二〇	
計				一、三六、〇〇〇	一、五〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	三、八六、〇〇〇		

本試験ハ三種樹齡ヲ異ニシ又々施肥ヲ同シクセサルモノアルヲ以テ直ニ其ノ收量ノ多寡ヲ比較スルハ穩當ヲ缺クト雖モ青心種ノ收量最多ク時茶、枝蘭ノ兩種ハ大差ナク共ニ此レヨリモ劣レリ
大正元年ニ於ケル收量ヲ左ニ示ス

區名	茶種	一畝施肥量	一畝採葉量
同	時茶	一畝施肥量	一、三六、〇〇〇
同	青心	一畝施肥量	一、五〇、〇〇〇
同	枝蘭	一畝施肥量	一、三六、〇〇〇

左ニ製茶審査ヲ示ス可シ

綠茶審査

項目	定點	時茶			青心			枝蘭		
		春	夏	秋	春	夏	秋	春	夏	秋
形	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
色	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
水	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
香	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

紅茶審査

項目	定點	時茶			青心			枝蘭		
		春	夏	秋	春	夏	秋	春	夏	秋
形	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
色	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
水	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
香	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

右ニ據レハ製茶品質モ亦々青心種首位ヲ占ムルヲ見ル

第十六節 無窒素肥料試験

目的 肥料トシテ窒素ヲ施用セザレハ收量及品質ニ如何ナル影響ヲ及スヤヲ知ラントスルニアリ

本試験ノ成績ハ左ノ如シ

區名	一標施肥量	採探期間	採探回数	季別一萬標收葉量				同上各季製茶歩合						
				春	夏	秋	冬	計	春	夏	秋	冬	平均	
無肥		自三月三十日 至十月三十日	二	110.000	120.000	100.000	110.000	110.000	110.000	110.000	110.000	110.000	110.000	110.000
一號	過燐酸石灰 二〇〇 炭酸石灰 二〇〇	自三月三十日 至十一月七日	二	110.000	120.000	100.000	110.000	110.000	110.000	110.000	110.000	110.000	110.000	110.000
二號	過燐酸石灰 二〇〇 炭酸石灰 二〇〇	自三月三十日 至十一月七日	二	110.000	120.000	100.000	110.000	110.000	110.000	110.000	110.000	110.000	110.000	110.000

大正元年ニ於ケル收量ヲ示セハ左ノ如シ

區名	一標施肥量	一萬標收葉量
無肥		二六四、五九〇
一號	過燐酸石灰 二〇〇 炭酸石灰 二〇〇	三八九、六三〇
二號	過燐酸石灰 二〇〇 炭酸石灰 二〇〇	五二九、五三〇

右ニ依リテ見レハ兩年トモ窒素ヲ施用セサルモ相當ノ收量ヲ得又石灰ヲ加用セルモノハ之ヲ加用セサルモノニ比シテ收量遙ニ優レルモノアリ
左ニ製茶審査ヲ示ス可シ

綠茶審査

項	形	色	水	香	計	定點
目	狀	澤	色	味		
無肥區	一七	一一	一一	一一	一一	一一
一號區	一八	一一	一一	一一	一一	一一
二號區	一八	一一	一一	一一	一一	一一
平均	一八	一一	一一	一一	一一	一一

紅茶審査

項	形	色	水	香	計	定點
目	狀	澤	色	味		
無肥區	一七	一一	一一	一一	一一	一一
一號區	一八	一一	一一	一一	一一	一一
二號區	一八	一一	一一	一一	一一	一一
平均	一八	一一	一一	一一	一一	一一

右ニ依リテ見レハ肥料トシテ窒素ヲ施用セサルモ製茶ノ品質惡シカラス又石灰加用ノ有無ハ著シキ影響ヲ來サルモノ、如シ

第十七節 大豆粕用量試驗

目的 大豆粕單用ノ場合ニ於ケル其適當ナル施用量ヲ知ラントスルニアリ
方法 本試驗區ヲ七區ニ別テ茶樹一權ニ付大豆粕ヲ十匁ヨリ六十匁迄ノ各區ヲ設ケ之レカ標準トシ

緑茶審査(無肥)

五四

項目	春		夏		秋		平均
	製造	月日	製造	月日	製造	月日	
計
形
色
澤
味
平均

緑茶審査(施肥)

項目	春		夏		秋		平均
	製造	月日	製造	月日	製造	月日	
計
形
色
澤
味
平均

第十八節 一三三年生收穫試験

目的 茶種ニ對スル樹齡ノ如何ヲ知ラントスルニアリ

本試験ノ成績ハ左ノ如シ

茶種	樹齡	數	收穫茶葉量	一畝收穫量	備
青心種	三年	一、五一	四〇、四八〇	二六、七九	明治四十四年三月十五日移植
青心種	二年	一、六一	二五、九〇〇	四二、〇〇	同年三月二十日移植
青心種	一年	二、二五	五三、六〇〇	二三、七九	大正元年三月十日移植

右ノ成績ニ依レハ三年生枝蘭種ハ三年生青心種ニ比シ五割六分餘ノ增收ヲ示シ又枝蘭種ノ二年生ハ青心種三年生ノ收穫ニ比シ僅カニ一割餘ノ減收ニ過キサシ見ル左レハ三又河地方ニ於テ發育迅速ニシテ收穫ノ多キヲ望メハ枝蘭種ノ如キヲ栽植スルヲ得策トスルモノ、如シ

第十九節 移植試験

目的 茶苗移植ノ際ニ於ケル施肥ノ種類ハ其活著生育ノ如何ニ如何ナル等差ヲ來スヤヲ知ラントスルニアリ

本試験ノ成績ハ左ノ如シ

區名	一種施肥量	茶種	植付年月日	茶種數	活著數	枯死數	一畝草丈	備	考
...

五五

茶種	香	樹高	樹幅			樹高樹幅立方尺	收穫量
			東	西	南		
青心	大	一	三・三	三・三	三・二	三四・八	一三三・五
同	中	二	二・六	二・五	二・四	一五・六	七六・五
同	小	三	二・一	二・三	二・三	一一・一	五二・〇
枝	大	一	四・〇	四・一	四・七	七七・〇	一六一・五
同	中	二	二・八	三・二	三・四	三〇・四	九一・五
同	小	三	二・三	二・九	二・九	一九・三	五一・五
時	大	一	三・六	四・九	四・六	七五・六	一一〇・〇
同	中	二	三・〇	三・九	三・八	四五・四	六一・五
同	小	三	二・六	三・三	三・二	二七・四	四六・〇

第二十二節 茶實搾油試驗

一、時茶種茶實一石八斗 此斤量三百十斤
 乾燥種實ハ乾燥室ニ於テ十二月二十七日午前九時ヨリ同三十日午後九時ニ至ル迄六十時間乾燥セリ
 而シテ乾燥後ノ數量ハ二百八十斤一石七斗五升トス
 粉碎、直徑三尺五寸巾一尺三寸ノ大丸形ナル石輪(重量約二千五百斤)ヲ以テ直徑七尺五寸内外ノ地點周圍ヲ黃牛ニテ牽引回轉シツ、種子ヲ粉碎セリ其ノ回轉數一時間百二十四回ニシテ全部粉碎セシ

ムルニ十時三十分間ヲ要セリ其ノ際粗殼二十二斤ヲ除去シ他ハ悉ク搾油セリ
 蒸熱、直徑一尺一寸深サ一尺三寸ノ丸飯一箇(粕三枚分)ノ蒸熱十五分間ヲ要シ蒸熱後ハ形鐵櫃底
 徑一尺二分巾三分ノ丸金輪へ藥約五匁ヲ下敷キニ擴ケ置キ其ノ上ニ碎粉ヲ入レ足ニテ叮嚀ニ踏ミ堅
 メ其ノ時間一枚ニ付五分間ヲ要シ然ル後ヲ櫃(土名油車)ニ一回二十枚宛ヲ入レ木ヲ以テ壓搾セ
 リ其ノ時間全部ニテ八時間ヲ要シ油粕五十七枚(一枚三斤二五)及茶油二十六斤ヲ搾製セリ其ノ收支
 計算左ノ如シ

支 出 之 部		收 入 見 積 價 格	
品目	數量	單價	金額
茶種實	一石八斗	〇・四〇〇	七・二〇〇
見積單價			二、一六〇
茶種子油	二十六斤	〇・二五〇	六・五〇〇
茶粕	五十七枚	〇・一五〇	八・五五〇
計			一五、〇五〇
差引收入	五圓六十九錢		

大正二年供試茶品質審査一覽表

右ノ如ク製茶器械二臺ヲ使用シテ綠茶四百九十斤ヲ製造スルニ二時五十四分ヲ要シタリ即チ普通手揉製一ト焙爐ニ比シ其ノ工程一時〇三分間節約シ得ル割合ニ當レリ
粗製茶百斤製造費比較表

機 械 製			手 揉 製		
品 目	數 量	價 計	品 目	數 量	價 計
薪	五六〇	二〇	薪	二六〇	二〇〇
木炭	一八〇	一、二五〇	木炭	一六〇	一、二五〇
茶工	一〇八〇	四、五〇〇	茶工	一七〇	四、五〇〇
雜費		三五〇	雜費		七、六五〇
器具損料		二、五〇〇	器具損料		三五〇
計		九、四七〇	計		一、〇二〇

前表綠茶手揉製ニ依レハ百斤ノ製造費十一圓〇二錢ヲ要スルモ粗揉機及ヒ揉捻機ヲ使用スルトキハ器械二臺ノ損料二圓ヲ加算シ尙一圓五十五錢費用ヲ減シ得ル計算ナリ

第二節 大豆粕粉碎器

一林式大豆粕削取器(熊本市下職人町發明人林末吉)大豆粕ヲ粉碎スルニ削取器ヲ使用スルト鉈碎トノ工程比較ヲ示ス可シ

大豆粕粉碎工程

項 目	削 取 器	備 考	項 目	鉈 碎	備 考
大豆粕數量	三十七貫二百八十斤	大豆粕五枚分一枚四十六斤	大豆粕數量	三十六貫四百斤	大豆粕五枚分一枚四十五斤五分
削取時間	二時三十分	六分	鉈 削	六時十五分	八分
音 聲	九時間	人夫三人ニテ五十分間	音 聲	八時三十六分	人夫三人ニテ二時五十二分
大豆粕粉碎後ノ數量	三十七貫二百斤	目切八十斤	大豆粕粉碎後ノ數量	三十六貫二百四十斤	目切百六十斤
粉碎總時間	十一時三十分		粉碎總時間	十四時五十一分	

右ノ如ク大豆粕五枚ヲ粉碎スルニ削取器ヲ使用スルトキハ鉈削ニ比シ三時二十一一分間ヲ早ムル割合ナリ即チ大豆粕百貫多粉碎所要時間削取機ハ三時五十分鉈碎四十時四十八分間ヲ要ス可シ

大豆粕百貫多粉碎費比較表

備 考	大豆粕粉砕時間	一日十時間使役	一日一人	費 金
削取器	三〇・五〇	三〇・五	四〇〇	一、一七〇
鉈 碎	四〇・四八	四〇・五	四〇〇	一、六二〇

百貫多ノ大豆粕粉砕費削取器ハ鉈碎ニ比シ人分即チ四十錢節約シ得ル割合ナリ

第六章 調査

第一章 施肥無肥收穫調査

季別	試驗茶種數		收穫茶葉量		一萬圓收穫量		無肥ニ對スル比較	
	施肥	無肥	施肥	無肥	施肥	無肥	増量	同上割合
春茶	10	10	21,429	17,188	606,540	283,040	114,000	100%
夏茶	10	10	21,429	17,188	99,590	138,550	114,000	100%
秋茶	10	10	21,429	17,188	449,270	87,230	114,000	100%
冬茶	10	10	21,429	17,188	62,700	17,280	114,000	100%
計	40	40	71,888	52,800	1,118,100	507,120	114,000	100%
無肥	10	10	21,429	17,188	1,321,930	616,870	35,000	28%
無肥	10	10	21,429	17,188	202,600	81,870	114,000	100%
無肥	10	10	21,429	17,188	36,590	9,900	114,000	100%
無肥	10	10	21,429	17,188	1,048,000	517,000	114,000	100%

右ハ各試驗區ヲ綜合シタル施肥、無肥ノ收穫對照表ニシテ施肥ハ無肥ニ比シ春茶ハ十割四分二厘夏茶ハ十四割三厘秋茶ハ十三割三厘、冬茶ハ三割三分四厘一箇年ヲ通シ施肥ノ收穫十一割八分八厘ニ當レリ

四箇年收穫比較表

年次	季別一萬圓收穫茶葉量				増量	同上割合	増量	同上割合
	春	夏	秋	冬				
大正元年比較	100,000	100,000	100,000	100,000	114,000	114%	100%	
十四年比較	114,000	114,000	114,000	114,000	114,000	114%	100%	
十三年比較	114,000	114,000	114,000	114,000	114,000	114%	100%	

年次	春	夏	秋	冬	計	増量	同上割合
大正二年	114,000	114,000	114,000	114,000	456,000	114,000	114%
大正元年	100,000	100,000	100,000	100,000	400,000	114,000	114%
十四年	114,000	114,000	114,000	114,000	456,000	114,000	114%
十三年	114,000	114,000	114,000	114,000	456,000	114,000	114%

前表ニ依レハ平均一萬圓ニ對スル本年ノ收穫前年ニ比シ二分六厘四十四年ヨリ一割二分七厘又四十二年ヨリ二割六分三厘ノ増收割合ヲ示セリ斯ノ如ク年々増獲ヲ舉ケツ、アルハ蓋シ施肥ヲ重キタル効果ナリトス

第二節 茶芽伸長度合調査

一、茶期別ニ依ル調査

該調査ハ前年度ヨリノ繼續ニ係リ各期間ニ於テ肥料ノ種類、中耕回数、施肥及剪枝時期並ニ臺刈剪枝等數種ノ異ル試驗區ノ茶種ニ就テ其ノ伸長度ニ如何ナル相違アルヤ又溫度雨量等外圍ノ狀態ガ茶芽伸育ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ調査セリ

蒸餾ハ一區管内ヨリ中庸ノモノヲ撰定シ毎月五日間毎二回宛午後二三時頃ニ於テ伸長及開葉ノ狀記録ニ溫度雨量等ヲ調査シタルモノニシテ三月十五日ヨリ初メ摘採適度ニ伸長セハ之ヲ摘採シ次ニ發生スル腋芽ヲ又繰返シ調査セリ

調査供セル五試驗區十區ノ各茶種中最モ伸長迅速ナリシハ春茶ニアリテハ肥料効果試驗第二番大
 豆粕硫酸磷條區及第三番過機酸石灰區ナリ夏茶ニアリテハ中耕回數試驗第十五番春夏區及薑刈剪枝
 比較試驗第五十二番薑刈區ナリ秋茶ニアリテハ中耕回數試驗第十八番春夏秋冬區及施肥期試驗第十
 三番夏冬異量區ニシテ冬茶ニ於テハ實ニ遲々トシテ伸長セス是レ春夏ハ高温多濕ナルカ爲メ伸育ヲ
 促進スルカ爲メニシテ秋期冬期ト漸次温度低下シ且ツ雨量少ク伸育力減退セルカ故ナリ

二、四季連續セル調査

摘採適度ニ達セシ時ハ摘採ヲナシツ、伸長ノ工合ヲ調査セシコトハ前項記載ノ如クナルカ今又更ニ
 春夏秋冬ノ四季連續シテ調査セルニ別表ニ示スカ如シ

即チ三月十五日ヨリ十一月十日ニ至ル各三十日間ノ伸長量並ニ總伸長量ヲ知ラシカ爲メニシテ最初
 ヲリ殆ント同長ノモノヲ撰定シテ第十二番、第四十六番、第五十三番ノ三區トセリ而シテ之レカ平
 均伸長量四寸四分ヲ前項適度ニ達シテ摘採セル同三區ノ平均伸長量一尺三寸五分ニ比シ其ノ三分ノ
 一ニモ達セサルヲ見レハ茶樹ニ於テハ嫩芽ハ之レヲ摘採シテ刺戟ヲ與フルニ非ラサレハ其ノ伸育比
 較的遲鈍且ツ株張り狭小ナルヲ以テ收量亦減スルモノト知ル可シ

伸長度合調査

月日	温度	一區無肥		月日	温度	二區有肥		月日	温度	三區有肥	
		伸長度合	伸長度合			伸長度合	伸長度合				
春茶一回發芽 三月十五日	一五.八	二分	春茶一回發芽 三月十五日	一五.八	四分	春茶一回發芽 三月十五日	一五.八	四分	春茶一回發芽 三月十五日	一五.八	四分
四月十三日	一五.八	一寸二分	四月六日	一五.八	三寸	四月六日	一五.八	二寸三分	四月六日	一五.八	一寸三分
夏茶一回發芽 五月八日	一五.八	一分	夏茶一回發芽 五月三日	一五.八	二分	夏茶一回發芽 五月三日	一五.八	一分	五月八日	一五.八	一分
六月七日	一五.八	一寸	六月二日	一五.八	一寸七分	五月二十八日	一五.八	二寸	六月七日	一五.八	二寸
夏茶二回發芽 七月二日	一五.八	一分	夏茶二回發芽 六月十二日	一五.八	一分	夏茶二回發芽 六月十七日	一五.八	一分	七月二日	一五.八	一分
八月一日	一五.八	一寸二分	六月二十七日	一五.八	一寸六分	七月七日	一五.八	一寸八分	八月一日	一五.八	一寸八分
秋茶一回發芽 八月二十六日	一五.八	一分	秋茶一回發芽 七月十二日	一五.八	一分	八月一日	一五.八	一寸三分	八月二十六日	一五.八	一寸三分
九月二十五日	一五.八	五分	七月二十七日	一五.八	一寸四分	八月二十一日	一五.八	一寸	九月二十五日	一五.八	一寸
			八月二十一日	一五.八	二分	冬茶一回發芽 九月三十日	一五.八	一分			
			九月五日	一五.八	一寸五分	十一月十日	一五.八	二分			
			冬茶一回發芽 九月二十三日	一五.八	一分						
			十一月十日	一五.八	二分						

月日	溫度	七區有肥 伸長度合	月日	溫度	八區有肥 伸長度合	月日	溫度	九區有肥 伸長度合
春茶一回發芽 三月十五日	二五八	五分	春茶一回發芽 三月十五日	二五八	三分	春茶一回發芽 三月十五日	二五八	四分
夏茶一回發芽 四月六日	二五八	八分	夏茶一回發芽 四月六日	二五八	一寸	夏茶一回發芽 四月六日	二五八	一寸九分
夏茶一回發芽 五月三日	二五八	一分	夏茶一回發芽 五月三日	二五八	一寸	夏茶一回發芽 五月三日	二五八	一分
六月二十七日	二五八	八分	六月二十七日	二五八	二寸	六月二十七日	二五八	一寸三分
秋茶一回發芽 八月一日	二五八	二分	秋茶一回發芽 八月一日	二五八	一寸	秋茶一回發芽 八月一日	二五八	一分
八月二十六日	二五八	六分	八月二十六日	二五八	一寸一分	八月二十六日	二五八	二分
冬茶一回發芽 十月五日	二五八	二分	冬茶一回發芽 十月五日	二五八	一分	冬茶一回發芽 十月五日	二五八	五分
十一月十日	二五八	二分	十一月十日	二五八	六分	十一月十日	二五八	五分

月日	溫度	四區有肥 伸長度合	月日	溫度	五區有肥 伸長度合	月日	溫度	六區有肥 伸長度合
春茶一回發芽 三月十五日	二五八	四分	春茶一回發芽 三月十五日	二五八	四分	春茶一回發芽 三月十五日	二五八	五分
四月八日	二五八	七分	四月八日	二五八	一寸四分	四月八日	二五八	一寸四分
夏茶一回發芽 五月三日	二五八	一分	夏茶一回發芽 五月三日	二五八	一分	夏茶一回發芽 五月三日	二五八	一分
五月二十八日	二五八	一寸五分	五月二十八日	二五八	一寸五分	五月二十八日	二五八	一寸三分
六月十二日	二五八	二分	六月十二日	二五八	一分	六月十二日	二五八	一分
六月二十七日	二五八	二寸三分	六月二十七日	二五八	一寸五分	六月二十七日	二五八	一分
夏茶一回發芽 七月七日	二五八	一分	夏茶一回發芽 七月七日	二五八	一寸五分	夏茶一回發芽 七月七日	二五八	一分
七月二十二日	二五八	一寸	七月二十二日	二五八	一寸五分	七月二十二日	二五八	一寸二分
秋茶一回發芽 八月六日	二五八	一分	秋茶一回發芽 八月六日	二五八	一分	秋茶一回發芽 八月六日	二五八	一分
八月十一日	二五八	一分	八月十一日	二五八	六分	八月十一日	二五八	一分
八月十六日	二五八	一分	八月十六日	二五八	六分	八月十六日	二五八	一分

七五

七四

月日	溫度	十三區有肥 伸長度合	月日	溫度	十一區有肥 伸長度合	月日	溫度	十二區有肥 伸長度合
春茶一回發芽 三月十五日	一五八	四分	春茶一回發芽 三月十五日	一五八	五分	春茶一回發芽 三月十五日	一五八	五分
夏茶一回發芽 四月六日	二〇八	一寸	夏茶一回發芽 四月六日	二〇八	一寸五分	夏茶一回發芽 四月六日	二〇八	一寸二分
夏茶一回發芽 六月七日	二〇八	二厘	夏茶一回發芽 六月七日	二〇八	一分	夏茶一回發芽 六月七日	二〇八	一分
七月廿七日	二〇八	一寸二分	夏茶二回發芽 五月十八日	二〇八	二寸四分	秋茶一回發芽 七月十七日	二〇八	一寸二分
			夏茶二回發芽 六月二日	二〇八	一分	秋茶一回發芽 七月十七日	二〇八	一分
			秋茶一回發芽 八月六日	二〇八	一寸三六	秋茶一回發芽 八月六日	二〇八	四分
			秋茶一回發芽 八月廿一日	二〇八	一分	秋茶一回發芽 八月廿一日	二〇八	結死
			冬茶一回發芽 九月十日	二〇八	一寸五分	秋茶二回發芽 九月廿五日	二〇八	一分
			冬茶一回發芽 九月三十日	二〇八	一分	冬茶一回發芽 九月廿五日	二〇八	五分
			十一月十日	二〇八	三分		二〇八	

七六

月日	溫度	十三區有肥 伸長度合	月日	溫度	十四區有肥 伸長度合	月日	溫度	十九區有肥 伸長度合
春茶一回發芽 三月十五日	一五八	四分	春茶一回發芽 三月十五日	一五八	四分	春茶一回發芽 三月十五日	一五八	四分
夏茶一回發芽 四月六日	二〇八	一寸二分	夏茶一回發芽 四月六日	二〇八	一寸五分	夏茶一回發芽 四月六日	二〇八	一寸八分
夏茶一回發芽 五月三日	二〇八	一分	夏茶一回發芽 五月三日	二〇八	一分	夏茶一回發芽 五月三日	二〇八	一分
六月二日	二〇八	一寸三分	夏茶二回發芽 六月二十二日	二〇八	一寸二分	夏茶二回發芽 六月二十二日	二〇八	一寸六分
六月二十七日	二〇八	一分	夏茶二回發芽 七月七日	二〇八	二分	夏茶二回發芽 七月七日	二〇八	二分
七月二十七日	二〇八	一寸三分	秋茶一回發芽 七月二十七日	二〇八	一寸四分	秋茶一回發芽 七月二十七日	二〇八	一寸五分
八月十六日	二〇八	一分	秋茶一回發芽 八月十一日	二〇八	一分	秋茶一回發芽 八月十一日	二〇八	一分
九月五日	二〇八	一寸四分	冬茶一回發芽 九月二十五日	二〇八	一寸四分	冬茶一回發芽 九月二十五日	二〇八	一寸五分
冬茶一回發芽 九月三十日	二〇八	一分	冬茶一回發芽 九月二十五日	二〇八	一寸四分	冬茶一回發芽 九月二十五日	二〇八	一寸五分
十一月十日	二〇八	二分	十一月十日	二〇八	一寸四分	十一月十日	二〇八	四分

七七

月日	温度	伸長度合	月日	温度	伸長度合	月日	温度	伸長度合
春茶一回發芽 三月十五日	一五八	四分	春茶一回發芽 三月十五日	一五八	四分	春茶一回發芽 三月十五日	一五八	四分
夏茶一回發芽 四月六日	三三八	九分	夏茶一回發芽 四月六日	三三八	一寸二分	夏茶一回發芽 四月九日	三三八	一寸
夏茶一回發芽 四月二十八日	五七八	一分	夏茶一回發芽 四月二十八日	五七八	一分	夏茶一回發芽 六月七日	三三八	五厘
夏茶一回發芽 五月二十八日	五七八	一寸七分	夏茶一回發芽 五月二十八日	五七八	一寸八分	夏茶一回發芽 八月十一日	三三八	一寸
夏茶一回發芽 六月七日	三三八	一分	夏茶一回發芽 六月十七日	三三八	一分	夏茶一回發芽 八月十一日	三三八	一寸
夏茶一回發芽 六月二十二日	三三八	一寸五分	夏茶一回發芽 七月二十二日	三三八	一寸一分	夏茶一回發芽 八月十一日	三三八	一寸
夏茶一回發芽 七月七日	三三八	一分	秋茶一回發芽 八月六日	三三八	一分	秋茶一回發芽 八月十一日	三三八	一寸
秋茶一回發芽 七月二十七日	三三八	一寸二分	秋茶一回發芽 九月二十日	三三八	一寸			
秋茶一回發芽 八月三十一日	三三八	二分						
冬茶一回發芽 九月十日	三三八	一寸二分						
冬茶一回發芽 十月五日	三三八	一分						
冬茶一回發芽 十一月四日	三三八	四分						

入〇

月日	温度	伸長度合	月日	温度	伸長度合	月日	温度	伸長度合
春茶一回發芽 三月十五日	一五八	四分	春茶一回發芽 三月十五日	一五八	四分	春茶一回發芽 三月十五日	一五八	四分
夏茶一回發芽 四月六日	三三八	一寸五分	夏茶一回發芽 四月六日	三三八	一寸二分	夏茶一回發芽 四月六日	三三八	一寸五分
夏茶一回發芽 六月七日	三三八	三厘	夏茶一回發芽 五月十三日	三三八	三分	夏茶一回發芽 五月八日	三三八	一分
秋茶一回發芽 七月二日	三三八	一寸二分	秋茶一回發芽 六月二十二日	三三八	一寸四分	秋茶一回發芽 六月二十二日	三三八	一寸四分
秋茶一回發芽 七月二十七日	三三八	一分	秋茶一回發芽 七月七日	三三八	一分	秋茶一回發芽 七月七日	三三八	一分
秋茶一回發芽 八月二十一日	三三八	一寸三分	秋茶一回發芽 八月六日	三三八	一寸三分	秋茶一回發芽 八月一日	三三八	一寸六分
			秋茶一回發芽 八月二十六日	三三八	一分	秋茶一回發芽 八月二十一日	三三八	一分
			秋茶一回發芽 九月三十日	三三八	四分	秋茶一回發芽 九月二十日	三三八	六分

入〇

連續調查

月日	溫度	有肥一區		有肥四六區		有肥五一區	
		伸長度合	伸長度合	伸長度合	伸長度合		
三月十五日	一五八	二分	三分	三分	三分		
三月二十日	三〇八	五分	四分	四分	四分		
三月二十五日	一四八	七分	五分	五分	五分		
三月三十日	二七八	八分	六分	六分	六分		
四月四日	二九八	一寸一分	七分	七分	七分		
四月九日	二二八	一寸四分	八分	八分	八分		
四月十三日	二七八	一寸八分	一寸一分	一寸一分	一寸一分		
四月十八日	一〇八	一寸八分	一寸二分	一寸二分	一寸二分		
四月二十三日	三七八	一寸八分	一寸三分	一寸三分	一寸三分		
四月二十八日	三七八	一寸八分	一寸四分	一寸四分	一寸四分		
五月三日	二七八	一寸八分	一寸五分	一寸五分	一寸五分		
五月八日	三七八	一寸八分	一寸五分	一寸五分	一寸五分		
五月十三日	二七八	一寸八分	一寸五分	一寸五分	一寸五分		
五月十八日	一七八	一寸八分	一寸五分	一寸五分	一寸五分		
五月二十三日	三七八	一寸八分	一寸五分	一寸五分	一寸五分		
五月二十八日	三七八	一寸八分	一寸五分	一寸五分	一寸五分		
六月二日	三七八	一寸八分	一寸五分	一寸五分	一寸五分		
六月七日	三七八	一寸八分	一寸五分	一寸五分	一寸五分		
六月十二日	三七八	一寸八分	一寸五分	一寸五分	一寸五分		

八三

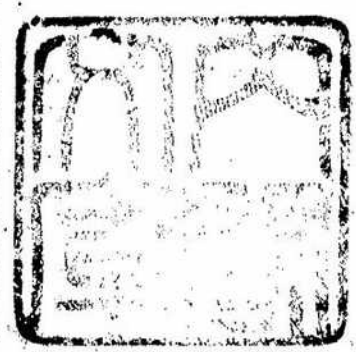
月日	溫度	有肥一區		有肥四六區		有肥五一區	
		伸長度合	伸長度合	伸長度合	伸長度合		
三月十五日	一五八	二分	三分	三分	三分		
三月二十日	三〇八	五分	四分	四分	四分		
三月二十五日	一四八	七分	五分	五分	五分		
三月三十日	二七八	八分	六分	六分	六分		
四月四日	二九八	一寸一分	七分	七分	七分		
四月九日	二二八	一寸四分	八分	八分	八分		
四月十三日	二七八	一寸八分	一寸一分	一寸一分	一寸一分		
四月十八日	一〇八	一寸八分	一寸二分	一寸二分	一寸二分		
四月二十三日	三七八	一寸八分	一寸三分	一寸三分	一寸三分		
四月二十八日	三七八	一寸八分	一寸四分	一寸四分	一寸四分		
五月三日	二七八	一寸八分	一寸五分	一寸五分	一寸五分		
五月八日	三七八	一寸八分	一寸五分	一寸五分	一寸五分		
五月十三日	二七八	一寸八分	一寸五分	一寸五分	一寸五分		
五月十八日	一七八	一寸八分	一寸五分	一寸五分	一寸五分		
五月二十三日	三七八	一寸八分	一寸五分	一寸五分	一寸五分		
五月二十八日	三七八	一寸八分	一寸五分	一寸五分	一寸五分		
六月二日	三七八	一寸八分	一寸五分	一寸五分	一寸五分		
六月七日	三七八	一寸八分	一寸五分	一寸五分	一寸五分		
六月十二日	三七八	一寸八分	一寸五分	一寸五分	一寸五分		

八二

六月十七日	三五·八	二寸	三寸六分	二寸六分
六月二十二日	二九·〇	二寸	三寸九分	二寸六分
六月二十七日	三一·八	二寸	四寸二分	二寸六分
七月二日	三六·八	二寸	四寸六分	二寸六分
七月七日	三七·八	二寸	四寸八分	二寸六分
七月十二日	二九·八	二寸	五寸一分	二寸六分
七月十七日	三七·八	二寸	五寸三分	二寸六分
七月二十二日	三四·八	二寸	五寸五分	二寸六分
七月二十七日	三二·八	二寸	五寸六分	二寸六分
八月一日	三五·八	二寸	六寸四分	二寸六分
八月六日	三八·八	二寸	七寸	二寸六分
八月十一日	三三·八	二寸	七寸四分	二寸六分
八月十六日	三七·八	二寸	八寸	二寸六分
八月二十一日	三五·八	二寸	八寸二分	二寸六分
八月二十六日	三三·八	二寸	八寸三分	二寸六分
八月三十一日	二九·八	二寸	八寸四分	二寸六分
九月五日	四〇·八	二寸	八寸四分	二寸六分
九月十五日	三七·八	二寸	八寸五分	二寸六分
九月二十五日	三一·八	二寸	八寸六分	二寸六分
十月五日	三一·八	二寸	八寸六分	二寸六分
十月十日	二九·八	二寸	八寸六分	二寸六分
十月十五日	二三·八	二寸	八寸六分	二寸六分

十月二十日	二六·八	二寸	八寸六分	二寸六分
十月二十五日	二八·八	二寸	八寸六分	二寸六分
十月三十日	三二·八	二寸	八寸六分	二寸六分
十一月五日	二六·八	二寸	八寸六分	二寸六分
十一月十日	二三·八	二寸	八寸六分	二寸六分

大正四年三月十一日印刷
大正四年三月十三日發行



大正四年三月十一日印刷
大正四年三月十三日發行

臺灣總督府民政部殖產局

印刷人 小塚 兼吉

印刷所 臺北城內北門街三丁目七番戶
小塚商店印刷部